



豊かな自然環境を保全する。
みどり
水と里ネット 安房中央

安房中央土地改良区設立50周年記念誌

安房中央のあゆみ



2008.3
50th Anniversary

安房中央のあゆみ



五教大綱

五教大綱

安房中央のあゆみ

目次

目次

あいさつ

安房中央のあゆみ発刊にあたって	3
—— 理事長 中村 保	
祝辞	4
—— 千葉県知事 堂本 暁子	
創立50周年を祝して	5
—— 千葉県土地改良事業団体連合会長 森 英介	
半世紀のご尽力に敬意を表します	6
—— 館山市長 金丸 謙一	
安房中央土地改良区50周年記念誌発刊にあたり	7
—— 南房総市長 石井 裕	

第1章 土地改良区のあゆみ

1 安房中央土地改良区の概要	9
2 安房中央土地改良区管内図	10
3 土地改良区のあゆみ —— 編集委員長 鈴木 隆	11

第2章 回顧録

1 安房中央半世紀のあゆみ —— 前理事長 木曾 由郎	15
2 安房中央50周年記念に寄せて —— 元水資源公団上席参事 永井 正	17
3 ダム建設の思い出 —— 元農林部技監 岡崎 義雄	21
4 安房中央の思い出 —— 元安房支庁長 吉田 保雄	24

第3章 実施された主な事業

1 安房中央ダムの概要	29
2 丸山川右岸地区概要	41
3 安房中央東部地区概要	49
4 安房中央西部地区概要	59
5 事業一覧表	72

第4章 次世代に引き継ぐための取組

- 1 県営かんがい排水事業（更新事業）……………74
【安房中央ダムの改修計画】
- 2 県営老朽ため池等整備事業……………75
【葛原堰の改修計画】
- 3 新農業水利システム保全対策事業……………76
【安房中央西部地区防潮堰の管理】
- 4 土地改良施設維持管理適性化事業……………77
【土地改良施設の維持管理】
- 5 農地・水・環境保全向上対策事業……………78
【地域住民と一体となった取組み】

第5章 土地改良区運営に携わられた方々

- 1 歴代理事長……………80
- 2 現職役員……………81
- 3 組織と事務局……………82
- 4 土地改良区の主な受賞例歴……………83
- 5 歴代役員名簿……………84
- 6 歴代総代名簿……………92
- 7 職員名簿……………101

第6章 土地改良区管理施設一覧表

- 1 土地改良区管理施設一覧表……………103
- 2 年表……………109

編集後記 —— 編集委員長 鈴木 隆……………112

は じ め に

安房中央のあゆみ発刊にあたって

安房中央土地改良区

理事長 中 村

保



安房中央土地改良区設立50周年記念誌の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。組合員の皆様におかれましては、日頃、水土里ネット安房中央の運営につきましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

顧みますと、館山市を中心とした安房中央地域は、房総半島の南端に位置し、水資源に乏しく干ばつに悩まされ農業用水の確保は地域農民の悲願でありました。

農業用ダムを建設することを目的として昭和33年5月安房中央用水改良事業を実施するために設立されて以来、50周年を迎えることとなりました。

この間、農業用水の確保に奔走された先輩諸兄に敬意を表すると共に、ご理解ご指導を賜りました農林水産省はじめ、千葉県、館山市、南房総市等の関係機関、安房中央ダムの建設にご理解を戴きご協力を賜った地権者の方々並びに事業に携わった方々に改めて深く感謝申し上げます。

この50年間、昭和33年から基幹水利施設であります貯水量210万トンを擁する安房中央ダム及び、幹線用水路の建設、昭和47年県営ほ場整備事業丸山川右岸地区面積235ヘクタール、安房中央東部地区面積377ヘクタール、昭和49年安房中央西部地区面積372ヘクタール、合計959ヘクタールの基盤整備が実施されたところでございます。他にも農業構造改善事業等により基盤整備が進められ安房中央土地改良区受益面積のほぼ全域の農地が整備され農業生産のみならず農村地域の環境保全や村づくりに大きな役割を担ったものと考えております。

恵まれた自然環境の中で、先人が営々と培われてきた水・土・里と、貴重な水資源である安房中央ダムをはじめとする基幹土地改良施設や農地を守り後世に引き継ぐことが我々の責務と考え、平成16年度から安房中央ダムの更新事業など施設整備に取り組んでいるところでございます。

農業経営を取り巻く環境は、甚だ厳しい状況にありますが、組合員皆様のご理解ご協力を戴きながら、国、県はじめ、関係各市のご指導並びにご支援を仰ぎ、更なる適正な改良区の運営と保全管理に努めてまいりたいと考えております。





祝 辞

千葉県知事 堂 本 暁 子

このたび、安房中央土地改良区が、昭和33年の設立以来、地域農業の発展とともに歩み続け、めでたく創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

安房中央土地改良区は、館山市及び南房総市にかかる約1,000ヘクタールの農地を受益地とした農業用水の安定的な確保を目的とする県営かんがい排水事業を実施するために、設立されました。以来、安房中央ダムなどの基幹水利施設を建設するために、組合員の皆様は幾多の困難を乗り越え、無事に農業用水を供給するとともに、地域農業農村の発展に尽くしてこられた御努力に対し深く敬意を表します。

また、当地域は、昭和47年度からは生産性の高い農業や食糧自給率を高めるための基盤整備などを目的として、安房中央東部地区外2地区の県営ほ場整備事業が実施されました。これにより、耕地の汎用化とあいまって、担い手農家を中心とした近代的な農業が展開され、県南でも有数の穀倉地帯となっております。そして今後も、土地改良事業の推進、土地改良施設の適切な管理、地域住民と一体となった農村づくりなど、皆様の果たす役割は誠に大きなものがあります。

県では、今後の中長期的な県政の基本方針として、「あすのちばを拓く10のちから」を策定し、その中で、農林水産業の発展の方向性を「大地と海の恵みのちから」として位置付け、「千葉ブランド」、安心な「ちばエコ農産物」などの安定的な生産、千産千消や食育の推進、魅力ある農林水産業の創出などの実現を目指すこととしています。

県としても、これらの諸施策を積極的に展開していきたいと考えておりますので、安房中央土地改良区の皆様には、一層の御支援、御協力をいただきますようお願いいたします。

結びに、50周年という大きな節目を契機として、先人が培ってこられた農業用水をはじめ恵まれた農村環境の保全に努められ次世代に引き継いでいただくとともに、農業・農村の振興のため、ますます御活躍されますことをお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立50周年を祝して

水土里ネット千葉
(千葉県土地改良事業団体連合会)

会 長 森 英 介

安房中央土地改良区が創立50周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。これを記念して、貴重な歴史を編纂した記念誌を発刊されたことは、誠に時宜を得た極めて意義深いものであります。

当地区は、地形上の制約から利水に大変苦勞され、確固たる用水源を確保し、安定的にかんがいしていくことが地域農家の長年の願望でありました。

この悲願を、安房中央ダムの建設と関連するほ場整備等の各種土地改良事業により成し遂げ、多くの困難な業務を克服し、安房中央土地改良区の今日ある姿を築き上げました。本事業にかかわった役職員や組合員の皆様方の功績は計り知れないものがあり、深く敬意を表す次第であります。

さて、私たちの暮らしと命を守る上で大きな役割を担っております農業を巡っては、大変厳しい危惧すべき現象や兆しが生じております。食料自給率の低迷、増え続ける耕作放棄地、農村集落機能の低下と老朽化の著しい土地改良施設、記録が次々と塗りかえられる異常気象の頻発等々、多くの課題が山積しています。

国においては、これらの諸課題の対応に向け、戦後農政の大転換と言われる「品目横断的経営安定対策」が今年度から始まったところであり、この対策と車の両輪をなすもう一つの対策が、集落の共同活動や合意づくりの役割である集落機能の低下に対応していこうとする「農地・水・環境保全向上対策」です。農業は、生産者のみならず地域住民や消費者との協力や理解があって初めて成り立つものです。是非、この対策推進のリーダーシップを貴土地改良区に担っていただきたいものと、大いに期待しています。

結びに、創立50周年を契機に、安房中央土地改良区が一層の発展を遂げられますとともに、中村理事長をはじめ役職員並びに組合員の皆様のご活躍とご健勝を祈念してお祝いの言葉といたします。



半世紀のご尽力に敬意を表します

館山市長 金丸 謙一

安房中央土地改良区50年記念誌の発刊、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

貴土地改良区が、昭和33年5月に安房中央ダムの建設等を目的に設立されて以来、実に半世紀が経過いたしました。この間、事業に携わった組合員の皆様はじめ関係者の並々ならぬご労苦とご尽力に対し、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

安房郡中央部の用水不足を解消するため、安房中央ダムが完成、満水式が行われたのが昭和47年12月。当時、館山市、丸山町、三芳村、和田町にまたがる1,144ヘクタールの田畑に送水するもので、貯水量は210万トンで農業用ダムとしては県内一、現在でも3番目の貯水量を維持していると同っています。

戦後62年、平成になって20年、わが国の農業、とりわけ米づくりは、国内外からの変化の大波にさらされ、農業を取り巻く環境は年とともに厳しくなっています。高齢化、後継者不足などで遊休農地が増え、農業を支える担い手の確保が急務です。また自給率の低下、農産物自由化による輸入農産物増加、米価の低迷で、産地間競争が一段と激しくなっています。

こうした中で、安房の特性を生かした品質の高い作物、地域ブランドづくりを推進し、次世代に引き継ぐ魅力ある農業と環境向上が求められています。幸い、住民の長年の悲願であった「館山自動車道」が、平成19年7月に全線開通となり、首都圏からの交通の便が飛躍的に改善され、時間距離が短くなり、地域のポテンシャルが高まっています。これを好機ととらえ、活性化につなげる必要があります。

安房地域にとって、農業は基幹産業であり、特にその中核である安房中央土地改良区の果たす役割は50年が経過しても、いささかも変わるものではありませんし、さらにその重要性が増しています。

今後も、組合員との合意形成を図りながら、貴重な土地改良の財産を後世に引き継ぐため、50年の節目を契機にいっそうご尽力され、安房中央土地改良区がますます発展されることを祈念して、祝辞といたします。おめでとうございます。



安房中央土地改良区 50周年記念誌発刊にあたり

南房総市長 石 井 裕

安房中央土地改良区設立50周年に際し、記念誌を発刊されますことはまことに意義深く、心からお喜び申し上げます。

南房総地域の農業は、温暖な気候と首都圏近郊に位置するという恵まれた立地条件を生かし、水稻、野菜、果樹、花卉、畜産物など多彩な生産が行われ、新鮮な農畜産物の安定供給とともに豊かな自然環境の保全に重要な役割を果たしております。

このような現在の農業も、振り返りますと水害と干ばつの歴史でもあり、そのため古くから用水路整備、排水路整備、耕地整理など、農業農村の整備事業が積極的に行われてきました。

館山市、三芳・丸山地区を受益とする安房中央土地改良区は、昭和33年5月設立され50年間という長きにわたり、安房中央ダムを始め幹線用水路の建設、ほ場整備の実施等、農業生産基盤の整備が行われてきました。設立以来今日まで、本土地改良区の発展に意欲的に取り組み、積極的な活動を展開されて参りました関係者の皆さんに対し、衷心より敬意を表する次第です。

南房総市の農業は地域の基幹産業として重要な役割を果たしておりますが、農業従事者の高齢化が著しく、後継者が不足していることから、農業の活力低下、遊休農地の増加が懸念されています。また、農産物の輸入自由化による価格低迷などにより、農業を取り巻く環境は大変厳しいものとなっております。

本市では、農業の振興・農村の活性化を図るための重点施策として、「農産物のブランド化と販路の拡大」、「担い手の確保・育成」、「グリーンツーリズムの推進による農村の活性化」について取り組んでいます。ほかにも、ほ場整備や県営かんがい排水事業を導入し、農業生産基盤の整備を促進すると共に、農業用施設の老朽化に伴う対策として、土地改良施設維持管理適正化事業に対する補助制度を定め支援しているところです。

組合員の皆様方におかれましては、この意義ある設立50周年を契機として、新たな決意のもとにより一層の精進を重ねられ、長年培われた貴重な経験と豊富な知識を生かし、直面している問題の解決に御努力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

終わりに、安房中央土地改良区のますますの発展を祈念いたします。

第1章

安房中央 土地改良区 のあゆみ

- 1 安房中央土地改良区の概要
- 2 安房中央土地改良区管内図
- 3 土地改良区のあゆみ



1 土地改良区の概要

本地区は、千葉県南房総に位置し、温暖な気候、都市近郊等自然条件に恵まれた中山間農業地帯である。館山市及び南房総市に跨る受益面積987.2ヘクタール、組合員数2,077人を有し、農業用水の確保を目的として昭和33年に設立された。県営かんがい排水事業により安房中央ダム及び幹線用水路が昭和54年に完成、関連事業として県営ほ場整備事業丸山川右岸、安房中央東部、安房中央西部地区、農業構造改善事業山本安布里、三坂千代地区等により地区面積の99%が整備済みである。

現在、安房中央ダム等基幹土地改良施設の維持管理を主体に農業用水の供給を行っている。

1 設立年月日	昭和33年5月30日 (千葉県第436号)
2 受益面積	987.2 ha
3 組合員	2,077人
4 関係市	館山市、南房総市
5 基幹水利施設	安房中央ダム 総貯水量 2,113千トン 有効貯水量2,096千トン
6 総 代	51名(内欠員1名)
7 理 事	11名
8 監 事	3名
9 職 員	6名

2 受益面積と組合員数

平成19年度現在

関係市	受益面積ha	組合員数人	備 考
館山市	665.9	1,334	
南房総市	321.3	743	
計	987.2	2,077	

3 土地改良区の所在地

千葉県館山市北条1193

TEL.0470-22-1757 FAX0470-22-1752

<http://www17.ocn.ne.jp/~awatoti>E-mail awatoti@basil.ocn.ne.jp

主要水利施設		
施設名	数 量	利用可能水量
ため池	22カ所	2,884 トン
頭首工	4カ所	
取水楼	31カ所	反復使用含む
大幹線用水路	L=4,212m	トネル・サイオン
1号幹線用水路	L=5,892m	#
2号幹線用水路	L=10,541m	#
3号幹線用水路	L=1,372m	#
4号幹線用水路	L=2,916m	#



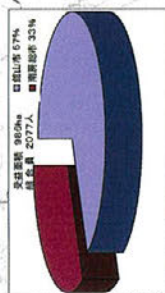
安房中央ダム

安房中央ダム諸元	
有効貯水量	2,096千トン
集水面積	1,487ha
ダム形式	均一性アースダム
堤 高	36m
堤 長	110m
湧出面積	20ha
幹線用水路	L=24,934m

昭和33年着手～昭和54竣工



葛原曜



平久里川防潮堰



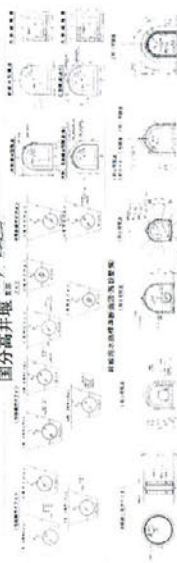
高井湊堰



大正曜



第2号标准用水路



三、單井部分

安房中央土地改良区のあゆみ

編集委員長 鈴木 隆

“房州よいとこ南をうけて、夏は涼風袂を払い、冬も菜種の花が咲く”と房州音頭に謳われるように、この地は、気候風土ともに農作物の生産にとって万能に近い豊かな土地です。この恩恵がある故に、生きるに楽天的な房州人は、アバラ骨が一本足りないなどと有り難くない揶揄を受けたりしました。しかし、ひとたび歴史をひもとけば江戸の時代に限っても、時のお上への義憤を萎えることなく形にした農民騒動、いや農民抗議が、三度もこの地で発しました。アバラ骨どころか硬骨漢続出の地だったわけです。

その中で、切羽詰まった藩財政ゆえの苛政のために、屋代忠位の家臣、悲運の重臣川井藤左衛門が、一方でなんとか藩の増産をと、澁川用水の大工事をしかけ完遂した業績は、本土地改良区事業を語る上で、はずせない記録です。犠牲は大きかったものの、その後のこの用水そのものの効果はもとより、これに付随する治水利水のひろがりの効果は絶大なものでした。

さてその後、米作りに加えて、各種野菜、花、酪農、また裏作としてソラマメ、ピース、サヤが作られ、中でもソラマメは房州ソラマメとして一時東京市場を席卷したこともあります。

この裏作および水稻には、溜め池や、平久里川・丸山川水系の利用が盛んに行われました。ところが、揚水機利用により川水も涸れることがあったりしたため、各農家が田毎に鑿井しての風力による風車揚水が始まり、一時期その風景は房州の風物詩となりました。

山間と丘陵と谷地と平地がこまごまと入り組んだこの地が限界近くまで開拓が進んできて、その大地の稔りを維持するに、いよいよその命である“水”の問題が、大きくクローズアップされてきました。天候の気まぐれな変動による用水の不安定な供給、また、ひとたび洪水となれば、たちまち損傷を受け、土砂による滞留を招く水路、その復旧への整備作業の労苦は筆舌に尽くせぬものでした。

一方で、狭小かつ不定形の田畑は、農耕における目覚ましい機械化の進展がある中で、その非能率性の課題はいよいよ看過できないものとなり、その解決は農耕者にとって選択の余地のない切迫した問題となってまいりました。

そこで、安心安定した営農、そして豊饒な大地作り、この渴望される目標へ向けて、受益面積1,144ha、事業費417,000千円とする壮大な安房中央用水改良工事計画による、待望の“豊房水源地踏査”および“丸山川流域踏査”が昭和28年に開始されました。

こうした事業において、その成否を左右する地域関係者への周知事業の一環として、1市9村の関係代表による協議・説明会と、これを受けての流域住民との地道な対話集会在、定時、臨時をまじえて、ただちに数多く開催されました。その集会の単位は当然のことながら集落単位までおとされ、深更まで及ぶ膝つきあわせての質疑が重ねられました。結果、相当の負担義務のことをも含みの上で、徐々に計画実現に向けての熱い思いと、合意の意志が醸成されていきました。同時に専門家による現地調査は10数回にも及び計画の根底を支える精細な報告が重ねられていきました。

この間、農林省を始めとする所轄官庁への陳情が数次にわたって行われたことはいうまでもありません。とくに県耕地課長、館山市長には多用にもかかわらず深く理解頂き3度に及ぶ農林省陳情にご同行頂きましたことは誠に心強い限りでした。

そして、安房中央用水改良事業促進委員会が、その開催7回を最後にしたあと3年間、息をひそめる思いで推移を見守る中、遂に昭和33年5月30日、安房中央土地改良区の設立が認可されました。

昭和36年には、ダム建設に伴う協定書が、犬切集落、御子神集落、鯨岡集落と県、丸山町、安房中央土地改良区の間で調印されましたが、これとて、3集落の人々の様々に錯綜する思いを乗り越えての決断のたまものであったことはいうまでもありません。

続いて昭和47年には、農林大臣の採択通知により、丸山川右岸地区、安房中央東部地区、昭和49年同西部地区の3地区で県営ほ場整備事業が、順次スタートしました。住民の目の前で面工事に力強く駆動されていく重機の轟音に、事業の進行を文字通り肌で感じたものでありました。引き続き暗渠排水、水路護岸、農道舗装、揚水機場の整備などがよどみなく行われました。

このほ場整備事業は、戦後の農地改革に匹敵するほどに地域住民にとって大きな渦とも言うべきものでした。当時は国の農業政策の方向にいろいろな議論が出始めていた頃で、こうした思い切った事業が展開されることについては、決して楽観視されることはありませんでした。それだけに当事者としては誠に感無量なものでありました。軌を一にして安房中央ダムが満水となり、有効貯水量は2,096,000m³と示されました。

そして、この大量の用水を各ほ場に送り込むインフラとして翌48年には大幹線、1号幹線が、50年には同2号、51年に同3号、52年に4号と順調に完了し、次いで、54年にはそれぞれの支線水口が取り付けられ、遂に安房中央用水事業がしゅん工しました。

そして、3年後の昭和57年に待望の”丸山川右岸工区”同60年には”安房中央東部地区”、同63年には”安房中央西部地区”のほ場整備がしゅん工し、これにより本大事業は一区切り大団円を迎えるに至りました。

本資料作成にあたっての聞き取り訪問の中で、トピックとして複数の組合員より、二つの実績事項について、「あれはよかった」との感想を表された報告がありましたので、紙面をお借りして紹介します。

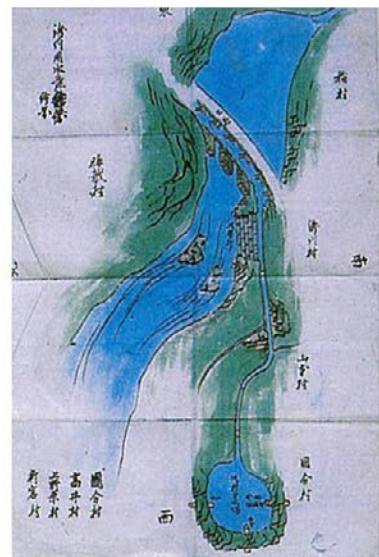
一つ目は、昭和50年当時、国道127号館山バイパスの建設に際し、促進反対の運動も一部にあった中で、当該工事区の英断により共同減歩方式で1.8haの用地を提供するという、早期建設実現に向けるに官に拠らず民の力を十分に発揮した実績です。

二つ目は、安房中央ダム末尾にあたる正木、川崎、西郷、湊、高井、八幡の6地区が、なおも用水不足の虞れがあったことから、安房中央ダムからの余水利と、西郷堰、潮止堰の三者を一体的に整備する水利計画を立てそれを実現した実績であります。真剣に取り組むところに自ずから光る戦略が生まれると言うことでしょうか。

以上、この稿を閉じるに当たって、農地の高度利用を求めて、幾多の障害を乗り越えた先人各位に感謝と敬意を表し、この偉業の記憶とさらなる夢を次の世代に託したいと思います。この地の安全安心と末永い豊穡の未来を祈念するものです。



滝川用水図
資料南総たてやま発見伝より



第2章

回顧録



旧庁舎（元 県館山土地改良事務所）



- 1 安房中央半世紀のあゆみ
—— 前理事長 木曾 由郎
- 2 安房中央50周年記念に寄せて
—— 元水資源公団上席参事 永井 正
- 3 ダム建設の思い出
—— 元農林部技監 岡崎 義雄
- 4 安房中央の思い出
—— 元安房支庁長 吉田 保雄





安房中央半世紀のあゆみ

前理事長 木 曾 由 郎

安房中央土地改良区がここに設立50周年を迎えたことは、誠にご同慶に堪えないところであり、深い感慨を覚えるものであります。

敗戦後の深刻な食糧難に、国を挙げて増産に取り組んだ昭和20年代後半、慢性的な用水不足を解消すべく、27年7月に関係市町村有志によって、「安房中央用水改良事業促進委員会」が発足し、関係省庁へ陳情を重ねて、30年10月に実施設計が承認されたものの、11月に丸山町において、中学校統合に絡み町を2分する対立が起こり、それがダム建設に波及し、建設に反対の陳情がなされ、翌年3月まで委員会と地区民代表、丸山町代表との28回に亘る折衝が繰り返されました。

漸く測量調査の了解を得て、土地改良区設立のための受益者に対する説明会が各所で開催され、その回数延べ65回、戸別訪問40日間に48地区、会議回数26回等々、以上の様に正に寢食を忘れ、心血を注いでの努力と、地元住民の深い理解と協力とによって、昭和33年5月「安房中央土地改良区」の設立が認可されたのであります。

次いで、県道関係調査、ダム建設に伴う協定書調印等、事務的経過を辿って36年2月、ダム建設に事実上着工し、昭和47年有効貯水量210万トンを誇る安房中央ダムがここに完成しました。以上がダム建設の経緯であります。

そして、この水源を基幹とした幹線用水路工事が始まり、54年3月、1号、2号幹線用水路の完成によって、総事業費36億6千9百余万円を投じた安房中央用水改良事業が竣工しました。

また、この用水路工事と並行して、丸山川右岸、安房中央東部、安房中央西部3地区合わせて約1千ヘクタールのは場整備事業が順次着工し、丸山川右岸地区11年、安房中央東部地区13年、安房中央西部地区14年の歳月を費やし、総事業費84億7千余万円の巨費を投じた世紀の大事業がここに完成致しました。時に、昭和63年2月でありました。

私は、昭和49年から理事として、また、62年から理事長として15年間に、多くのことに会いましたが、すばらしい事務局スタッフに恵まれて、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

まず、小澤芳郎事務局長には、私の就任直後から始まったゴルフ場開発問題、安房中央西部地区の竣工式、平成3年4月の豪雨災害による大幹線用水路水管橋台崩落事故等の処理に、関係機関との折衝等に常に積極的に行動し、解決に骨を折って頂きましたが、平成4年3月に退職されました。9年10ヶ月の在職でありました。

4月からは、吉田保雄氏を新事務局長として迎えました。そして事業継続中のゴルフ場への反対運動との対応、また、そのゴルフ場撤退の事後処理、9月の台風の豪雨によるダム余水吐下流の災害復旧対策、平成10年11月九重地区大井の残土置き場の下を通る2号幹線用水路第7号サイホン損壊事件、11年9月7号トンネル入り口付近の地主が地上権を楯に起こした紛争等内外の事故、事件に常に豊富な経験と人脈を活かして関係機関との折衝の矢面に立って問題の処理にあたっていました。

平成14年になり、かねてから辞意を洩らしていた吉田局長が3月31日を以て退職されました。在職丁度10年でありました。4月1日から現職の小原清氏を新事務局長として迎えました。氏は、館山土地改良事務所に何度も勤務された旧知の間柄ですので期待を込めて迎えました。

その6ヶ月後の10月10日私も理事長職を退きました。以上が事件、事故のあらましです。なかなか詳細に書き切れませんが、その都度、事務局長他スタッフまた関係者の助言、協力を得て職責を全うできたこと心から感謝申し上げます。

さて、改良区設立以来半世紀、事業完了後20年を経た今日、先賢の業績を長く顕彰し、次世代に伝えることは、後に続く者の役目ではありますが、現今の農業情勢下、まして事業に携わったことのない若い世代には、なかなか、素直に受け取れないかも知れません、然し今やダムは、稲作のための用水を溜めるだけのもので無く、自然災害、特に洪水の防止、環境保全と景観の形成、更に大きくは国土の保全へと結びつく貴重な財産であると考えます。そのためには、万全の維持管理が不可欠です。幸いに、永年の懸案であったダム設備の更新工事も緒についたとのこと、1日も早い完成を願っております。

終わりに、安房中央土地改良区の更なる発展をお祈り申し上げます。



安房中央50周年記念に寄せて

元水資源開発公団上席参事 永井 正

昨年、平成18年の鴨川金山ダムの会の翌日、安房中央土地改良区事務局長小原清さんの車で、安房中央ダム鯨岡地区の月原秀夫様、犬切地区の黒川幸彦様を訪ね、協定締結後45年ぶりに、当時協定した各集落振興計画、個人別振興計画の達成状況をお尋ねした処、県、土地改良区後継者各位の御努力により、立派に遵守遂行され、満足のお答えを戴いたときは、心底歡喜を覚えました。私が館山に工務課長として赴任したのは、昭和34年6月のことでした。前任地木更津では県営三島ダムだけでしたが、館山では建設中の鴨川の金山ダムと、まだ地元と折衝中の安房中央ダムと2ヶ所でした。

私は兵隊帰りでしたので、同じ卒業年次でも4歳年長で、満州の獣医大学を卒業し、関東軍の獣医将校になり、動員で朝鮮の平壤で終戦の御詔勅を聞き、翌日龍山の師団本部に合流し、米兵の捕虜になり、無傷で佐世保で復員したのでした。同年兵はサイパンで玉碎し、大学の同級生も各地で戦死していました。ですから、戦後は亡き戦友、亡き同級生に代わって、折りから最大の国策だった食料増産に取り組む決意をしていました。

農業土木を再学習し、農大を卒業後、昭和26年初めての赴任先は、朝鮮戦争の直後でもあり、東京に原爆が落ちて安全な処と考えて、上総東部耕地出張所（大原）を希望し、親子4人と母とで赴任しました。中村俊所長は我々は田園の医者だ、又、酒の量と仕事の量は比例すると、茶碗酒を飲み干しました。担当は夷隅中部地区、国吉他2ヶ村の用水改良事業で、主任は田中豊さんで、その下で最初の勤務が始まりました。が、暫くすると、ある工区について、請負会社が倒産し、下請けと債権譲渡をして直営で完成させる事がありました。昭和30年、植田耕地課長に木更津土地改良事務所に転勤を命ぜられ、佐藤敬義所長の指導の下で、昭和18年に着工した三島ダム（京大の高月豊一先生が農林省時代に計画した、東京の小河内ダムと同級生）の諸懸案を解決し、満水式を迎える事ができました。

館山に赴任して一つの仕事は、持木秀係長が担当の加茂川左岸の金山ダム事業で、清水建設により建設中でしたが、積算単価が折り合わず、下請けの十文字土木と契約し、工事を継続させました。大原時代の経験が生きたものでした。徳政所長は私

の父が満州土地開発(株)に在職中、ご一緒だった因縁で、同じ満州帰りとして親しくさせて戴きました。後任は酒の強い香取正二所長に代わりましたが、業務遂行に心からの応援指導をしていただき、有り難い思いで一杯です。私が昭和37年10月水資源開発公団に転出するときは、公団までご一緒してくださり、人事課長に色々口添えをして戴き、有り難い極みでした。

安房中央ダムとして、忘れてならない方は、館山駅前さつき旅館の婿さんで、上田蚕糸専門学校卒の、安房郡農林事務所伊藤善樹所長であります。地元との話が行き詰まった時、土地改良だけでは知恵が足りないことに気づき、後で安房支庁長になった、当時の安房中央担当の吉田保雄係長の進言で出かけ、相談を引き受けて戴いたことでした。

鯨岡地区の集会場では、川上農林水産部長も被害者でしたが、説明役は風下ですから、囲炉裏の焚火の煙で、目が開けられませんでした。法螺貝が置いてあり、鳴らせたらず成してやると言われたので、中学の時、ラッパを吹いていた私は、いきなりボーンと吹いて、皆さんは哑然としていました。

大切は大変でした。家屋が水没するので高所に上がる黒川さんや、館山でアパート経営を希望する小沢金治さんや、三芳村に移転する小沢正さんがおられ、当地を離れる方の耕地を代替え地にさせてもらいました。在来家屋は茅葺き屋根なので、屋根材のある茅生地が山の上にあるのですが、畜産振興の目的で、飼料作物の栽培地として使うために、屋根をトタン葺に改める事もしました。そしてダム用土を高い処に求め、そこまでの道路を作ることで、土取り場跡地を農業生産に利用できるような配慮もしました。

これらは、伊藤善樹所長の県庁に対する働きかけで、県庁の農業経営技術者たちが、我々と寝食を共にしながら、集落経済の現状を分析し、ダム完成後の状況を想定して、作成してくださった、集落振興計画、各個人振興計画に因るものでした。現在は環境アセスメントとして作成を義務化されていますが、当時としては画期的な事でした。

この考えは、犠牲者との話し合いの中で、伊藤所長が、下流の人は負担金で水を得て受益する。犠牲者は家屋敷、田畑山林を出して補償されるだけでなく、下流の人たちと受益を等しくする。即ち、下流の人と一緒に良くなろうと言うものでした。今で言う生活再建補償の上を行く考え方であります。

こうして協定書が千葉県、丸山町、安房中央土地改良区の間で、昭和36年1月21日締結され、着工の運びとなりました。この時の調印した方々は次の通りです。

協 定 者	甲	千葉県知事	柴 田 等
	乙	安房郡丸山町長	鈴 木 利 一
	丙	安房中央土地改良区理事長	山 口 品 次
	立 会 人	館山市長	田 村 利 男
		安房郡三芳村長	安 藤 信 弘

この協定書には出てきませんが、富浦町長遠藤正太郎様が時の安房郡町村会長で安房郡世論を取りまとめて下さいました。それは、ダムの水が丸山川沿岸のみならず、流域外の館山市や三芳村の湊川沿岸に多くを分水する、流域変更の大事業であったからであります。

又、私たちの優秀な測量助手をしていた丸道雄君をダム終了後富浦町に引き取り、水道局長にまでして下さいました。忘れられない恩人であります。

千倉町長関口鉄四郎様は人脈の豊かな方で、犬切関係者との人脈を活用し、各種の協力をして下さいました。

協定書には付属議定書がありまして、用地等買収補償の方法に就いて定めましたが、その中で第10項に変わった項目を設けました。即ち、用地買収補償等の価格は、昭和35年12月現在を基準とし、毎年10月日本銀行調査卸売り物価指数に比例せしむること。これは君津郡の三島ダムが昭和18年用地買収の際、弾丸債券で支払われ、買収残の土地の戦後買収に際しても、戦前の契約価格により支払われ、三島ダムの農家の皆様の苦衷を、私だけでなく犬切の方々もご存じでしたので、とり入れたものでした。しかし、数年後、須藤耕地課長の時、私に電話があり、この項目は削除したとのことでした。

集落振興計画は犬切、御子神、鯨岡の三集落それぞれに就いて作成されましたが、例えば、犬切集落の第一章基本方針では、現状の経営面積を維持する事を前提として、その上で、下流との受益の均衡を図ることを目的とする、として、現状ではダム設置により、12.6%の減収となる。然るに下流受益者は10%の増収を期待しているので、本地区の所得増加目標を25%とし、一戸あたり平均74,000円の所得増を達成させる為の改良計画を樹立する、としました。そして、第二章基本対策では、経営構造、部門別改善方向、部門間の結合方式、労働対策を定め、第三章施設では水稻部門の整備、酪農部門の整備、養鶏部門の整備、労働環境の整備を定めました。そして尚、個人に就いても夫々の方々の希望に基づき振興計画を定め、御子神、鯨岡各集落とも同様に細かく規定しました。

以上の振興計画実規による増加財源に就いては、県道付け替えに伴うダム下流河

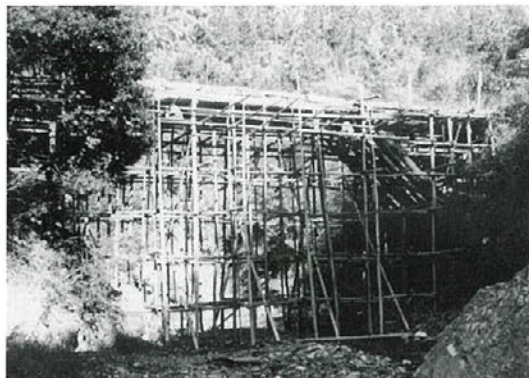
川横断トラス橋を取り止め、路線変更して、ダム直下流を、道路トンネル掘削ズリを盛り土に使用することで河川横断し、工事費を節減し、受益者負担の増加防止に努めました。然し、思わぬ出費もあり、山口理事長の後任の山崎勝平理事長はじめ、役員の方々には一方ならぬご苦勞をお掛けしました。

水公団に転出してからは、取り敢えずオリンピック対策、東京砂漠防止として、荒川の水と多摩川の水とを、東村山浄水場で合流させ、墨田川浄化用水を通水させる仕事に専念しましたが、一段落してから公団本社管理部に移り、公団が国から継承建設したダム等や、又、自ら建設した諸施設の管理規定を作成し、管理予算を決定し、管理しやすい施設を作るよう工務部に申し入れ、ダム水没補償に就いては用地部に安房中央ダム方式を提唱し、実施されてきました。昭和48年、国もようやく水源地対策特別措置法を制定し、水公団方式に成りましたが、現在ではこれ等は全て当たり前のことに成りました。私の本籍地は鴨川市北風原941番地で、犬切集落の近所です。今、満州で荒廃草原緑化の仕事をしていても、安房中央の事は忘れる事が出来ません。ご協力を戴いた総ての関係各位のご芳情に、又、亡くなられた方々の御霊に、厚く深く感謝を申し上げる次第であります。

平成19年8月6日原爆の日に



土取り場での用土運搬、キャリアオーバー
スクレパーをBD17ブルドーザーで牽引



盛土運搬用道路旧県道橋梁架設工事
ダムサイトまでダンプ運搬道路とし使用



ダム建設の思い出

元千葉県農林水産部技監 岡 寄 義 雄

私が館山土地改良事務所に勤務となったのは昭和38年5月でした。当時耕地課長から館山の工務課長のポストが空いているが、誰か行かないかとの話があり、私は大利根用水・両総用水と水路ばかりを担当してきたので、ダムエ事をやって見るのには良い機会だと思い希望した。

東金から通勤は無理なので、一家で引っ越しする事にしたが住宅が無く、職員住宅が出来上がるまでの2ヶ月間は、単身赴任となった。

赴任した昭和38年には築堤工事の準備として、県道が水没してしまうので、その付け替え工事をしていた。

トンネルの長さが360mあり、当時としては県内最長であった。この年の12月13日に落盤事故のあったのは忘れられません。

その時、加茂川沿岸土地改良区理事会の後での忘年会を行っていたら、事故の連絡が入り、すぐ行くべくタクシーを頼んだが、暮なので1台もなく、困っていたら、鴨川支所の小原清さんが（現安房中央土地改良区事務局長）俺が運転して行こうと鴨川支所の車を運転し、暗い夜道の峯岡の峠を越えて現地に急行した。

すでに救出は終わっていたが一人死亡、一人重症だった。支保工・矢板はきちんとしたあったが岩盤のアブラ層が滑り、予期できない不可抗力で不幸な出来事だった。房州へ行った折、このトンネルを通る事があるが、その度に思い出します。

築堤用土の土取場は、私の赴任前に主任の吉田保雄さんにより、既に予定されていた。ここには一軒の農家があり、その宅地を含めての広い場所で、土取場としては好条件の土地である。何しろ200年余も住み慣れた所で未練もあったようだが、100mの高所で日常生活には大変不便なので、この際便の良い下の平地に移転する決意をされたようでした。昭和40年の6月には移転が完了し、便が良くなったと喜んでくれました。

築堤用土の土質試験は、母校の東京農工大学に依頼した。私が大学に行き、行方教授・中田教授の両先生に話したところ、快く引き受けてくれました。

現場へも何度も来て指導してくれました。殊に助手の田中益弘さんは来ると4～5日現場詰所に泊まり込んで頑張り、私達も大変勉強になりました。

また、ダム建設の経験豊富な鹿島建設研究所の鈴木音彦さん（中田教授の教え子）も伴って来て、用土を70m落下させる鉄板シュート（屋根の樋の様な物）の勾配の決定をしてくれたり、転圧の機種や転圧回数など細かく指導してくれ、間隙水圧計の埋設を、指導し実施してくれた。大学には昭和38年から40年まで大変お世話になった。今から考えると全く少ない予算で何回と無く現地に来ての指導など感謝の上もあります。

ダムの現場と言うのは何処も同じですが不便な山の中です。当時は県道は砂利道で穴ぼこだらけ、そこをオートバイでの往き来は大変でした。何とか四輪車が欲しいと農政局に要望し、現地に来てもらい必要性を認められ、やっと昭和39年11月に軽四輪車を購入することが出来た。風雨の日・寒い時など4人乗れるので現場に行くのが大変楽になった。当時はオートバイの免許で軽四輪車の運転は出来たが、どうせなら普通免許を取得しようと、相川芳郎さんと教習所通いを7月の暑期中5時～7時まで、1ヶ月通い取得出来た。

館山に転勤してから1年2ヶ月目の6月頃から、胃の調子がおかしくなり、近所の医者に診察してもらったら、胃潰瘍だと云われる。身辺お酒の好きな人達が多く、酒の付き合いが良すぎたようだ。薬を飲んだり、注射したり治療に努めたがあまり効果がなく、癌の恐れがあると云われ、年が明けてから新しく出来た医師会館センターで胃のレントゲン検査を行った。その結果は肥厚性胃炎なので癌の心配は無いとの事でひと安心したが更に念のため、胃カメラ検査を受け結果は同様だった。後で聞いたのだが、妻は大分心配し、働きに出なければならないのかと覚悟を決めていたようだ。

結局昭和40年の6月にはアルコールはいっさい止めざるを得なくなった。若い時は無理をしてしまうが、何事も程ほどにしなければいけないと痛感した。

築堤用土の運搬は土取り場からスクレーパーでシュートの上の踊り場に集積し、順次落下させる事にした。半円形の鉄板シュートは長さが100mあり山の傾斜面に作られた。勾配1割2分だが、果たしてうまく落下してくれるか気掛かりだったが、最適含水比の用土は、スムーズに滑ってくれ、一同ほっとした。

さすがはダム建設の経験のある土質の専門家が決定した勾配だと感心した。最適含水比を越えると用土が鉄板シュートに付着し、落下しないことがわかり一つの目安となった。

昭和40年1月からグラウト工が始まり、築堤部の表土剥ぎを始めたところ、転石などのため岩盤線の見込み違いで、表土剥ぎ土量が8,000㎡から20,000㎡と増えてしまった。そのため築堤の最下部となるダムの最も大事な床掘部の盛土は3月となったが、天候に恵まれ3月14・15日の2日間で終わりほっとした。

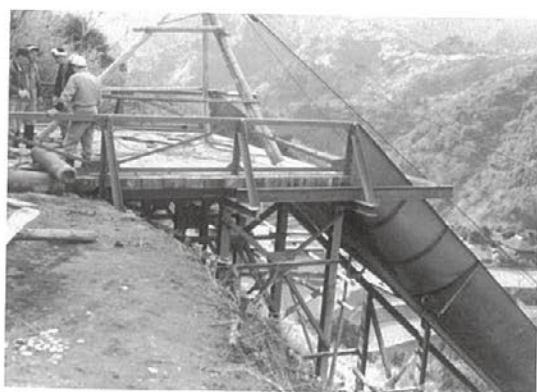
この2日間は朝の7時に現場に行き、土質の状態・施行の方法などの指導をしたり多忙を極めた。

盛り土工は天候に左右されるので、何時も天気ばかりが気掛かりだった。予定より進む場合もあれば、雨が多い梅雨時などは、はかどらない。設計の盛り土日数は1ヶ月に平均11日だが、夏場は20日も施行出来たりする。しかし、1年間を通してみると何とか設計通りに行くもので、40年度は順調であった。土取り場は当初予定した面積では大部不足し、隣接地を拡張したり、集落の共有林を交渉したり、必要量を確保するのが大変だった。

築堤工事の試験データを取る必要があり、盛土の含水比と転圧回数による締固め試験とかシュートを落下する用土の含水比低下の測定なども何回となく行なった。また農業土木学会関東支部の大会では、築堤工事の状況やシュートについての発表を行なった。

ダムを請け負った業者は築堤工事など全く経験の無い東京の2流業者で、技術者も不足で直営工事のようだった。従って日曜日・休日なども必ず職員が現場に行かねばならなかった。人員不足なので耕地課長に再三増員を要求したが実現しなかった。

今思うに、よくも少人数で頑張れたものと、若さのパワーに依ってこそ出来たものと感心している。そして共に工事に携わり、苦労を共にした人々との会合の席では、当時を懐かしく思い出し話に花が咲いている。今でも房州に行った時に、満水のダムを見るのが楽しみです。



盛土運搬用シュート、長さ100m、現国道付近まで降りしダムサイトまではダンプ運搬



盛土用土取り場、シュートまでスクレーパー等で運ばれた



安房中央の思い出

元安房支庁長 吉田保雄

昭和26年4月県庁耕地課に就職し、その後茂原土地改良事務所在勤中用排水係の香取正二さん（後館山土地改良事務所長）から、此度館山で安房中央ダムが始まるので行ってみないかとの話はしがあり、当時、徳政忠所長のおられた館山へ赴任しました。ダムの計画は、長年検討されてきたが実現するには問題が大きく、殊にダムサイトの位置がきまっていない状態で計画をすすめるのに関係者はだいぶ苦労されたようで、それまで三芳村を初め数カ所の予定地を調査されたとのことでしたが、それだけ小規模の溜め池、ポンプしかない安房地方では地元から安定した水源への要望が強かったことでした。

安房中央用水事業計画書は28年、29年にも作成されておりましたし、事業採択も昭和31年にされておりますが、改良区の設立申請を行っても事業推進の主体はあくまでも館山市が中心となっており、館野村長から町村合併により館山市農林統計課長に抜擢された高木哲三さんがその後市長本間譲さんの全面的な支援のもとに人的、経済的、精神的な貢献されたことは特筆すべきことであります。

高木さんが、その後館山市収入役、安房中央土地改良区理事長に就任され三芳、丸山、館山に跨る今日の改良区の基礎を作られたのは、氏の人徳によるところが大きくその後も氏の薫陶をうけた木曾由郎理事長に引き継がれました。

初代理事長には、県農業信用組合連合会役員から、館山市小原出身の山口品次さんが就任されましたが改良区の設立認可になっても地元負担金の徴収ははかどらず、事業費の地元負担25%はもとより改良区経常費は、地元農協から融資の状態です。借入れ先である農林漁業金融公庫職員のかかなり厳しい指導をうけ、借入れ保証人として改良区理事の他に関係市町村長まで保証人になることを要求されこれはその後暫く続きました。さすが、豪傑肌の山口さんも体調をくずされましたがいつも笑顔を絶やさず周囲を盛り立てて戴いたことを思い出します。

改良区の基盤強化に懸命の努力をする一方、ダム予定地用地確保を含め事業実施の理解を得るために補償交渉に入りましたが、当時、町内の中学統合問題で町を2分しての反対運動がおこなわれており、用地取得の個別折衝にははいれない状態で、その間ダム建設反対同盟（委員長村松治市氏）も設置されました。

この障害打破のため考え出されたのが、ダムの建設により農業用水の供給を受け利益を得る受益者と同様にダム水没を含む関係者にもメリットを与えるような施策をとることにしようと、地元集落振興計画を立て、これを基本として交渉にはいりました。この計画には当時、安房農林事務所長伊藤善樹氏や館山市長、安房郡町村会長遠藤正太郎さんはじめ関係町村長、館山土地改良事務所永井工務課長の皆さんが大変ご苦労されました。

結果として、丸山町犬切、鯨岡、御子神集落に道路、水道、集乳所等の施設建設等地元関係者と打ち合わせのうえ、きめ細かい計画が立てられ実施されました。本人の希望で、館山市でアパート経営兼大工の小沢享さん、下流集落で酒販売業に転職した小沢正さんの一家はいまでも成功され頑張っております。この手法は、後日小生が45年赴任した大原土地改良事務所の勝浦ダムの補償でも2戸の移転農家にも適用し、1戸は千葉でアパート経営、1戸は勝浦市内で園芸農家と共に成功しました。

昭和36年1月、漸くダム建設に伴う協定書を締結し、2月7日に仮排水トンネル工事に着工しましたが、ダム上流集水面積が1,487haと大きいためトンネル断面が設計上での数値はかなり大きいと思いましたが、その後仮締切り堤、本堤工事にも越流することなく過ごせましたし、貯水効率のよいダムであることに確信をもてました。また、トンネルズリで築堤した下流排水路が一夜にして流失した洪水には驚きました。

翌37年11月から、県道付替え工事に着工しましたが、昭和38年12月、このトンネル掘削（頂設導坑）中に落盤事故があり1名犠牲者を出してしまい、事故直後、負傷者を和田町の中原病院に搬送するときのやるせなさや、岩手県九戸村からダムの建設作業に従事されていた作業員の方達と共に、地元鯨岡地区にあるお寺で行われた葬儀での皆さんの嘆きは悲しいものでした。

仮排水トンネルに引き続いて行われた県道付け替えトンネルも同様でしたが、ともに頂設導坑方式で、拡幅工事は殆ど手作業で緩みやすい岩盤をいかに早期に巻き立てるか作業員の技術と経験に待つところがで、殊に工事請負業者が東京の2流会社で労務や資材の確保も含めて、現場技術者、作業員が苦労され、支払い問題で地元商店にまで心配をかけましたが流石に東北の作業員は忍耐強いものでした。

ダム本体工事は、39年9月着工となり、均一性アースダムのタイプは秋田県相野野ダム、金山ダムに続いての型式となりますが、均一性用土がダムより500m上流で100m高地の小沢儀一さん所有畑からシュートを使用して運搬しましたが、シュート型式と最適含水比の検討で当時事務所岡崎義雄課長が苦労されたときいておりますし、その後の学会で、同課長が研究報告をされましたが、当時、鹿島

建設研究所鈴木音彦博士東京農工大学田中助手の協力も特記すべきことです。

昭和39年5月の移動で県耕地課用排水係へ転勤し安房中央地区も担当しましたが、当時の農林省担当班長が梶木又三さん（後参議院議員）で安房中央用水には大変理解を示されいろいろ配慮を戴きました。また、ダム余水吐は洪水量が大きく地形上からも側溝式、堤長50.5m、越流水深1.5mで放水路がトンネルで放流部の落差が大きくスキージャンプといった特殊タイプとなるため、農林省試験場に水利実験を依頼し、千葉県から佐々木技師（後耕地課長）を派遣して結論をだしてもらいました。放水量毎秒308トン（時間雨量時間排除200年確率）の放水は、国道410号直下流のため素晴らしい眺めとなります。しかし、通常の（数ヶ年に起こり得る）洪水量は、計画洪水量よりはるかに少量であるため、静水池の構造にも多少影響がありました。余水吐堤の施行に当たっては、急峻な地形のなかで脆い岩盤でありながらリッパ等の重機の掘削を阻む施行機械の組み合わせ問題で、主任の相川芳郎さんが大変苦勞されましたし、この設計方針で、後日会計検査院の調査官との論争点となりました。

また、ダムサイトの地質の関係で対建設省問題があり、当時耕地課長であった宮地寛さんの恩師でありこの界の権威者である、京都大学沢田敏男教授（後文化勲章受賞者）に現地調査をして戴き報告書を戴いたのはありがたいことでした。昭和43年度末築堤工が竣工し、昭和44年から大幹線を手始めに3号4号幹線、さらに昭和54年、1・2号幹線が完了するまで延長25kmの建設工事が行われました。

改良区設立当時から、暫く続いた低い賦課金徴収の問題は、用水補給だけでは多様化する地元要求とはマッチせず、ほ場整備事業を取り入れ、丸山川右岸、安房中央東部、安房中央西部のほか、構造改善事業、団体営事業等を管内各地でとりあげ、事業が進むにつれて土地改良全体についての理解がすすみ、改良区の組織強化が進められてきました。

ダム、水路、ポンプ等は事業完了後長い年月の経過とともに各施設の老朽化が進んでおりますが、その一方近年この施設維持管理に対する国、県の補助事業が殆ど期待できない状態であり今後は多分の費用を充当して改良区単独で対応せざるを得ないのを憂慮いたします。

昭和64年から10ヶ年間土地改良区でお世話になりましたが、この間一番大きな出来事は、第2号幹線7号トンネルの破壊工作問題でした。トンネル上部に、東京湾を渡って運んでくる土砂を急激に積み上げられたため、トンネルが崩壊の危機にさらされましたが施行業者は倒産寸前であり、且つ利潤の多い作業であるため一層エスカレートし工事を進めたので、構造物保護のため県土木部、商工労働部で自制を求めたが聞き入れず、ついには、作業坑からトンネル内に土砂を投入したので

県警察により財産損壊罪で関係者が逮捕され、一応危機は回避されたが、その間トンネル安全確認のため木曾理事長を先頭に職員が毎日のように200mのトンネル内を調査しました。その後、土地所有者が度々変わり地上権の設定問題の対応に困りましたが、最終的に当時の農林水産部長布施剛さんにより解決できました。その決断と実行力には深い敬意と感謝を捧げます。

また、地区内の開発が進むにつれ優良農地の転用が大小には関係なく益々増加しており、一方農業経営の厳しさから厳しい判断が求められています。昭和62年から理事長に就任した木曾由郎さんは、昭和39年から土地改良に携わって以来、長年の土地改良事業への貢献が認められ平成9年に叙勲（勲六等単光旭日章）の栄に浴されたのも氏の人柄によるものであり、シベリア帰りの忍耐強さと決断力は安房中央土地改良区の発展に大いに貢献されたところであり感謝いたします。嶺岡山系の小向ダムと同様に安房中央ダムのダム上流区域は、地滑り区域が多く細かい土粒子が運ばれてくるためダムの堆砂量が多く、この排土関係問題がおおきなテーマとなっております。今後この現象は引き続いておきることであり、永続的な対策工事が行われることとなりますが貯水効力の素晴らしい安房中央ダムのより有効な利用を祈念いたします。



堤体基礎部の処理作業



堤体基礎部の盛土と転圧作業

安房中央ダム堤体



春の丸山湖



錦秋の丸山湖



第3章

実施された 主な事業

- 1 安房中央ダムの概要
- 2 丸山川右岸地区概要
- 3 安房中央東部地区概要
- 4 安房中央西部地区概要
- 5 事業一覧表



実施した
主な事業

県営かんがい排水事業 安房中央地区

1 はじめに



安房中央ダム

本地区は、千葉県南房総に位置し、温暖な気候と大消費地首都圏にあり恵まれた自然環境にあり、館山市、南房総市に跨る水田約987ヘクタールの中山間農業地帯である。

古来から、農業用水は小規模なため池、河川水、風車井戸などに依存し常に用水不足に悩まされてきた。昭和33年水源を2級河川丸山川に求め、県営かんがい排水事業により安房中央ダムが建設され昭和54年度に完成した。

(1) かんがい面積

平成19年3月31日現在 (ha)

市町村名	当初計画			現かんがい面積			
	水田	畑	計	水田	畑	計	%
館山市	824.4	—	824.4	686	—	686	71.8
南房総市	320.1	—	320.1	269	—	269	28.2
計	1144.5	—	1144.5	955	—	955	

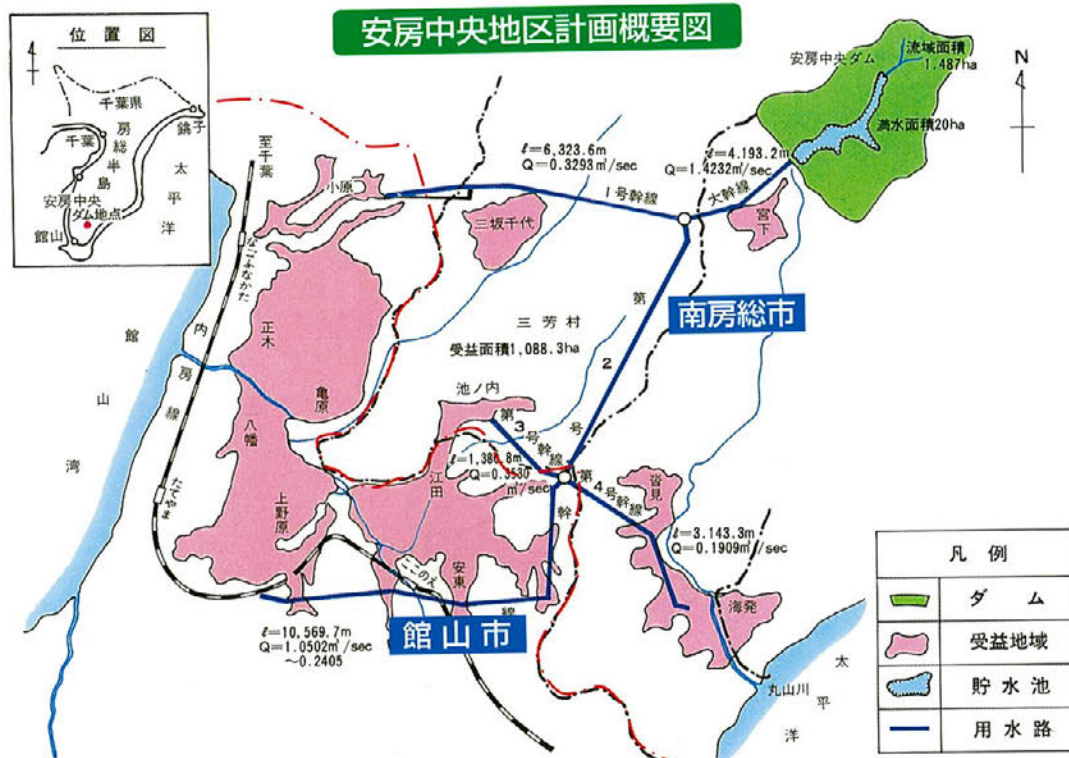
(2) 気象

計画基準年の気象諸元

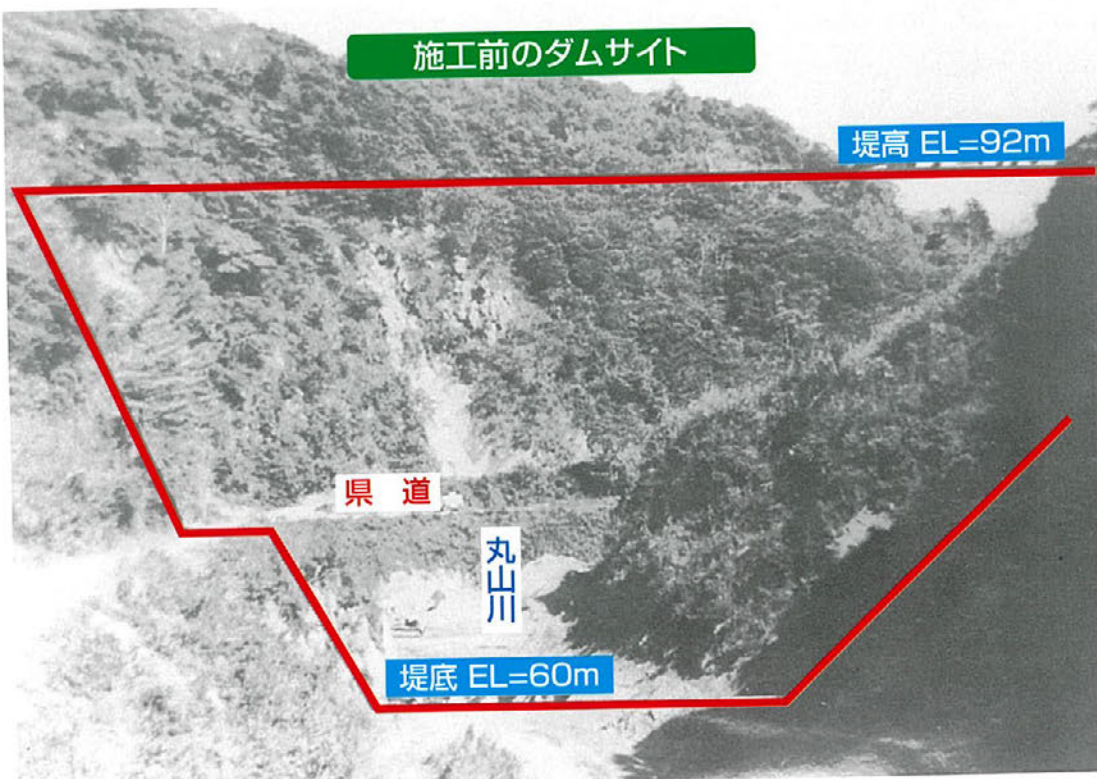
かんがい期間の合計雨量	1/10年確率値	610.5mm	昭和53年	619.0mm
有効雨量	1/10年確率値	444.5mm	昭和53年	448.8mm
旱天日数	1/10年確率値	124日	昭和53年	126日

2 事業の目的

かんがい 館山市、南房総市(旧安房郡丸山町、三芳村)の2市に跨る水田1,088.3haの用水補給を行う。



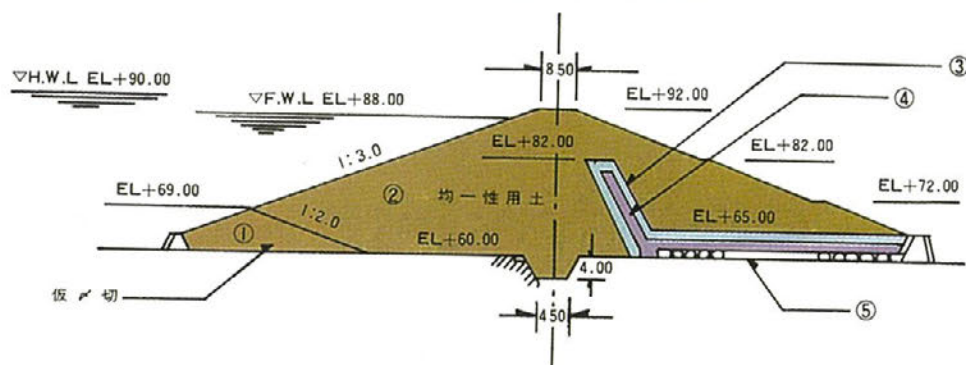
施工前のダムサイト



3 ダム

- 水源 2級河川丸山川
南房総市川谷地先
- ダム諸元 集水面積 1,487ha
総貯水量 2,113,000m³
有効貯水量 2,096,000m³
- 堤体の形式 排水砂利層を河床に配した均一性アースダム

堤体標準断面図



堤高	堤長	内法	外法	堤頂巾	余裕高	堤底巾	備考
m	m			m	m	m	
36	110.0	3.0割	2.5割	5.50	4.00	188.5	

盛土量	内 訳					
	① 仮締切堤	② 不透水性用土	③ 半透水性用土	④ 透水性用土	⑤ 排水砂利層	⑥ 余盛土
m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³	m ³
197,580	5,197	177,949	8,848	3,931	795	860



完成時の堤体と管理室



管理室

4 取水設備

形 式	利用水深	取水量	取水塔	主 弁	副 弁	低水位弁
フローティングタイプ	H =20.30m HWL=90.00m LWL=69.70m	Qmax 1.5401 m ³ /S	正八角形鉄骨 H =29.5m Φ= 8.00m	ホロージェットバルブ Φ=600mm	バタフライバルブ Φ=800mm	バタフライバルブ Φ=700mm



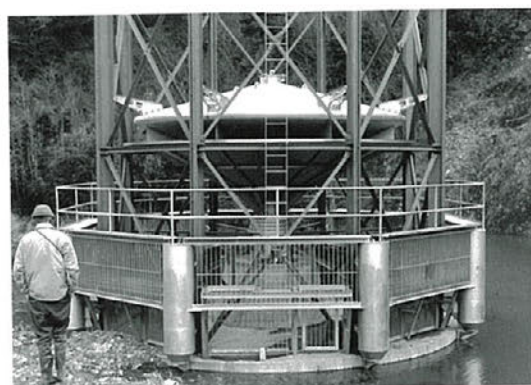
本取水設備は、フローティングタイプ取水設備でフロートの浮力により水位面に追従し常に表面取水が可能である。

取水トンネル内に設置してあるホロージェットバルブを開閉することにより取水量をコントロールできる構造である。

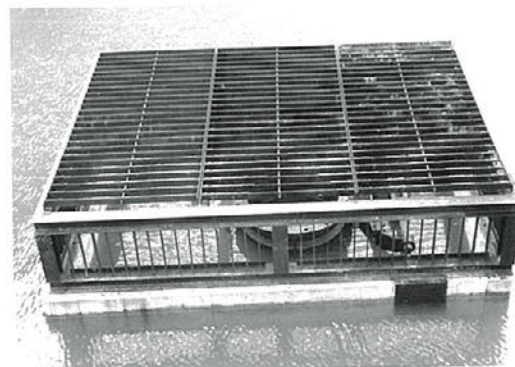
なお、バルブの開閉は操作室にある油圧ユニットにより油圧で操作する。取水操作が安全であり、かつ容易に操作できる。



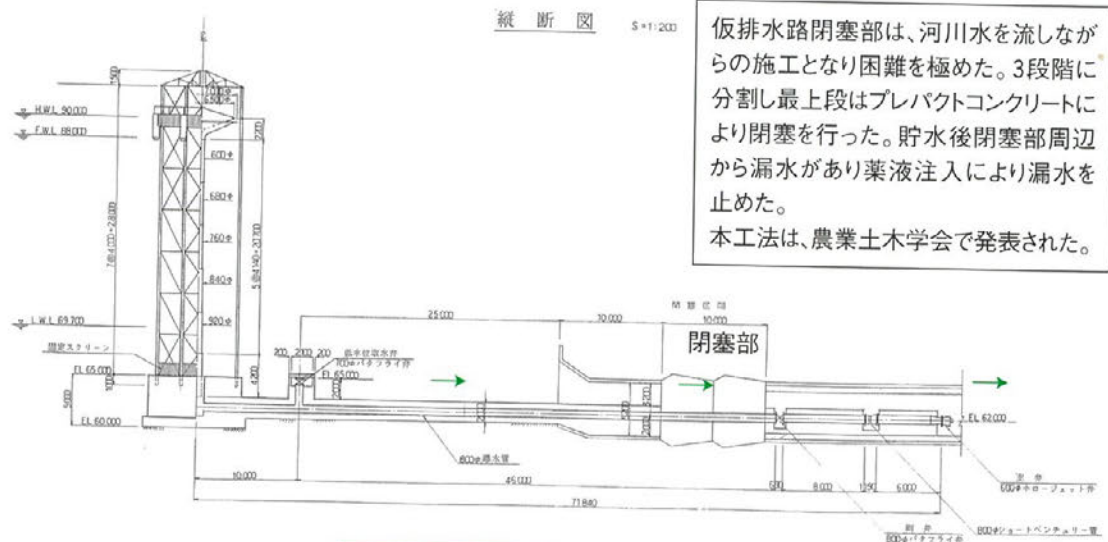
フローティングタイプ取水塔



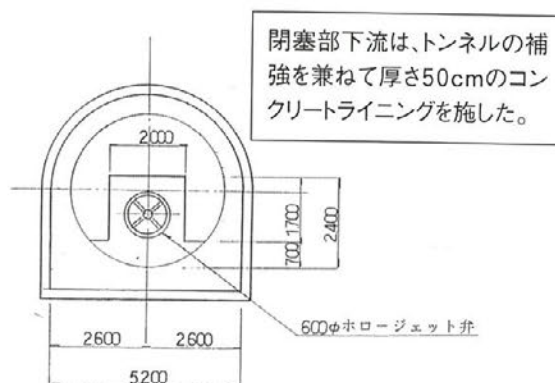
表面取水設備



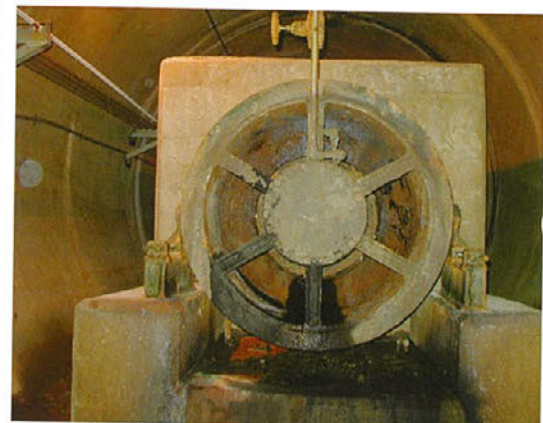
低水位取水設備



取水装置及び閉塞構造図



主井配置図



主井 ホロージェットバルブ



取水設備操作室



操作用油圧ユニット

5 余水吐

形 式	構 造	設 計 洪水量	異 常 洪水量	極 限 洪水量	越流堤長	越流水深	減勢方式	備 考
側水路 越流式	鉄筋コン クリート	m ³ /S	m ³ /S	m ³ /S	m	m	水バネ型 フリップ バケット	放水路は トンネル
		308.66	370.39	617.32	50.00	2.00		



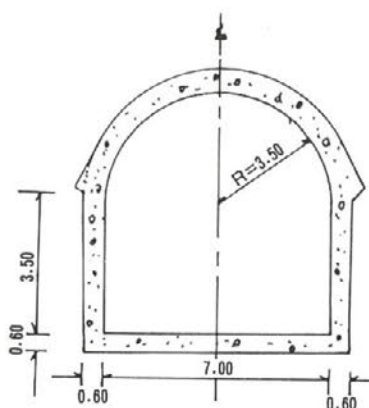
側溝式余水吐 Qmax308m³/s



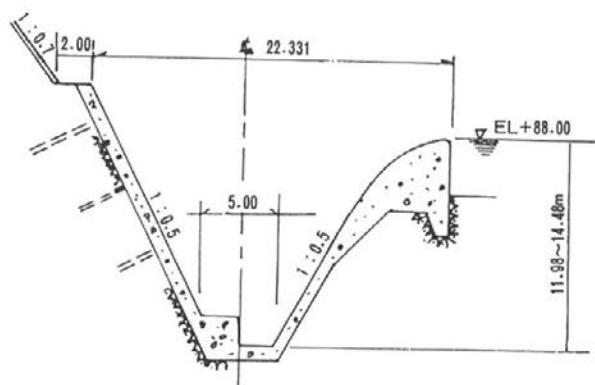
放水トンネル Qmax617m³/s



余水吐トンネルと減勢工及び取水トンネル



余水吐放水トンネル



側溝式余水吐断面

6 付替道路

(1) 県道

ダム建設に伴い水没する県道千葉～丸山線(現、国道401号線)延長1,399m、トンネル1ヶ所、橋梁1ヶ所を付け替えた。

諸元

延長	道 路 工			トンネル工			橋 梁 工	
	延長	車道幅員	勾 配	延長	幅 員	勾 配	延長	形 式
m	m	m	0~ 1:23	m	m	1:17	m	単純合成 格子鉄桁
1,339.0	1,035.0	4.50 4.00		364.0	4.50 4.00		45.0	

上段全幅員



付替県道 現国道410号線



丸 山 橋



付替県道と川谷トンネルL=364m 現国道410号線

(2) 周囲道路

延長	道路工			トンネル工			橋梁工	
	延長	車道幅員	勾配	延長	幅員	勾配	延長	ヶ所数
m	m	m	0~	m	m	0~	m	
		3.50	1/8		3.50	1/12		5
1,253.0	782.0	3.00		218.0	3.00		253.0	

上段全幅員



犬切橋



二の滝橋とトンネル

7 幹線用水路

幹線用水路は、ダム下流から自然流下方式で開水路、トンネル、サイホンの連続である。末端水路は、県営ほ場整備事業等によりパイプライン化されかんがいされている。

幹線用水路工事は、昭和46年度から始まり当時、用水路トンネル工事としては初めてパイプ鋼製支保工を採用して掘削し、コンクリートライニングも従来の人力巻立工法から1スパン12mの鋼製スライディングホームを採用して行われた。本工法は、農業土木学会関東支部講演会で発表された。

路線名	開 渠	トンネル	暗 渠	逆サイホン	その他	計	通水量	備 考
大幹線用水路	m 171.1	m 2,873.3	m 75.6	m 1,081.3	m 10.6	m 4,211.9	m ³ /S 1.4232	
第1号幹線用水路	—	4,688.4	—	1,204.2	—	5,892.6	0.3293	
第2号幹線用水路	—	6,235.2	—	4,306.0	—	10,541.2	1.0502	
第3号幹線用水路	—	272.0	—	1,100.0	—	1,372.0	0.3530	
第4号幹線用水路	—	952.3	—	1,964.0	—	2,916.3	0.1909	
合 計	171.1	15,021.2	75.6	9,655.5	10.6	24,934.0	0.3293	



第1号水管橋



滝ノ谷分水工



用水トンネル



平久里川水管橋

8 事業費

(1) 事業費

総事業費 3,669,170 千円

内 訳

工事費 3,486,988 千円

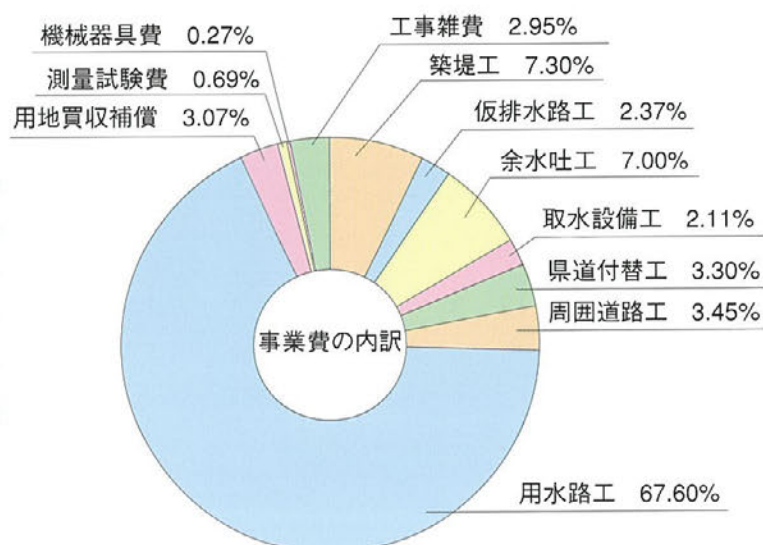
事務費 182,182 千円

単位:千円

工 種	事業量	工事費	比率%	備 考
築 堤 工	V=192,413 m ³	254,550	7.30	
仮排水路工	L= 305.1 m	78,806	2.26	仮締切工を含む
余水吐工	L= 207.4 m	244,089	7.00	
取水設備工	取水塔H= 29.5m Φ= 8.0 m	73,575	2.11	
県道付替工	L= 1,398.9 m 橋梁 1ヶ所	115,071	3.30	
周囲道路工	L= 863.1 m 橋梁 5ヶ所	120,301	3.45	
用水路工	L= 24,934 m	2,357,204	67.60	
用地買収補償	取水塔H= 29.5m Φ= 8.0 m	107,051	3.07	
測量試験費	L= 1,398.9 m 橋梁 1ヶ所	24,060	0.69	
機械器具費	L= 863.1 m 橋梁 5ヶ所	9,415	0.27	
工事雑費	一式	102,866	2.95	
工事費合計		3,486,988	100.00	

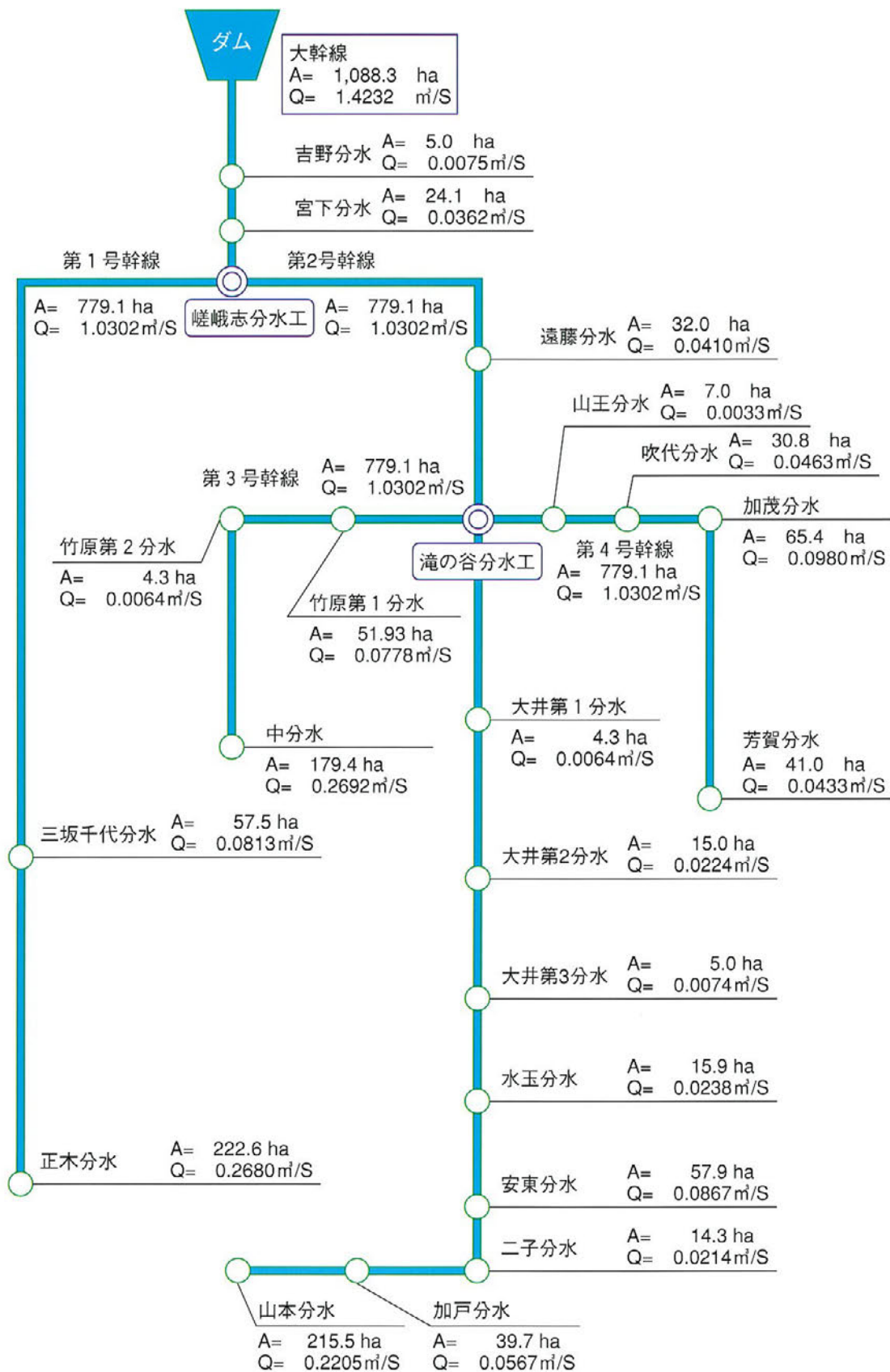
(2) 負担区分

負担区分	負担率%
国 庫	50
千葉県	25
市 町 村	—
地元負担	25





計画用水系統図



実施した
主な事業

県営ほ場整備事業 丸山川右岸地区

はじめに

農業生産基盤の整備は、近代農業展開の物的基礎であります。

特にほ場整備事業は農地改革と並ぶ戦後日本農業の2大革命であるとまで言われ、事業は飛躍的に拡大、推進がなされて来ました。

ここ丸山川右岸地区のほ場整備も昭和47年関係者、皆様の努力により事業に着手し以来11ヵ年を経て漸く本年事業のしゅん工を見たわけではありますが、ここに特筆すべきことは、ほ場整備計画に欠かすことの出来ない用水の確保のため、本事業に先立ち、約1,100ヘクタールを受益とする安房中央ダム建設が昭和33年着工し、21年の歳月をかけて昭和54年完成を見ております。

このように実質ほ場整備事業は関連を含め24年の長期にわたっており、この事業を支えて来た、受益者の方々、関係者の皆様の血のにじむような御努力に対し、頭の下がる思いであります。

この間農業をとりまく社会状況の変化は目まぐるしいものがあり、農業関係者のきびしい対応をせまられている現状であります。この中にあって耕地の汎用化を目標に土地基盤整備事業を成しとげた皆様の果たす役割に大いに期待するものであります。

これからは、地元関係者の皆様、先輩の皆様の血と汗で築き上げたこの大いなる遺産を明日に伝えて、新しい近代農業経営を花と咲かせるよう祈ってやみません。

終りにあたって、今日までこの事業推進のために御苦労されました諸先輩や、地元関係者の皆様に心からの感謝を捧げます。

昭和57年11月

館山土地改良事務所

所長 加藤 義純

竣工にあたって

県営ほ場整備事業丸山川右岸地区が本年度めでたく竣工の運びとなりましたが、これはひとえに関係諸機関の御指導と格別の御高配を賜ったことと、あわせて役員及び組合員の皆様方の日夜にわたる努力の賜ものと衷心より感謝申し上げます。

これによって先きに竣工された丸山川左岸地区と合わせて、丸山町の主要農地は近代的農業基盤として甦った次第であります。

顧みるに、昭和46年に準備委員会を設立し、当時の石井誠一町長を筆頭に各集落を尋ね、朝に夕に膝をつき合わせての説明会や同意の取りまとめに奔走したものであります。当時としては安房中央ダムが完成いまだであり、水がこないうちはほ場整備をはじめるのは時期尚早という声や、安房中央ダム建設費の負担に加えてほ場整備の負担をするのは過重であるという意見もございましたが、この大事業に対する組合員各位の理解により次第に同意がまとまっていきました。当時の予想では48年度に着工できればと思っていたのですが、1年はやい47年8月12日農林大臣より採択の通知を戴き、宮下に鍬入れするにいたったスピードぶりは他には余り例のないことと聞き及んでおります。

初年度21,000千円の事業費ではございましたが、年々予算を増やして戴き3億をこえる年もございましたので昭和54年度には235ヘクタールの面工事は全て終了し、その後暗渠排水や排水路の護岸、幹線農道の舗装、揚水機場等々整備水準の向上につとめ、安房郡はもとより本県においてもトップクラスの整備水準を誇るようになりました。

また、丸山川にかけた丸郷橋は、学校・郵便局・農協・医療機関等の利用面において地域の発展に貢献していることはもとより、加茂の幹線排水路の改修は隣接未整備地域の将来の農地開発構想の迎合出来るよう関係機関とも十分に検討を加えて施工しております。このように本事業は組合員の利益のみにとどまらず、広義においては丸山町発展のためにもその一翼をになっていたとしても過言ではないものと自負出来るものと思っております。

今後は整備された立派な農地を守り農業経営の安定化を図っていくことが我々に課せられた責務であります。竣工にあたり組合員各位の子々孫々までの御繁栄をお祈り申し上げます。

昭和57年11月

安房中央土地改良区丸山川右岸工区
工区長 山 口 治 市

整備前



昭和50年撮影

整備後



昭和57年撮影

南房総市沓見付近

整備前
(宮下工区)



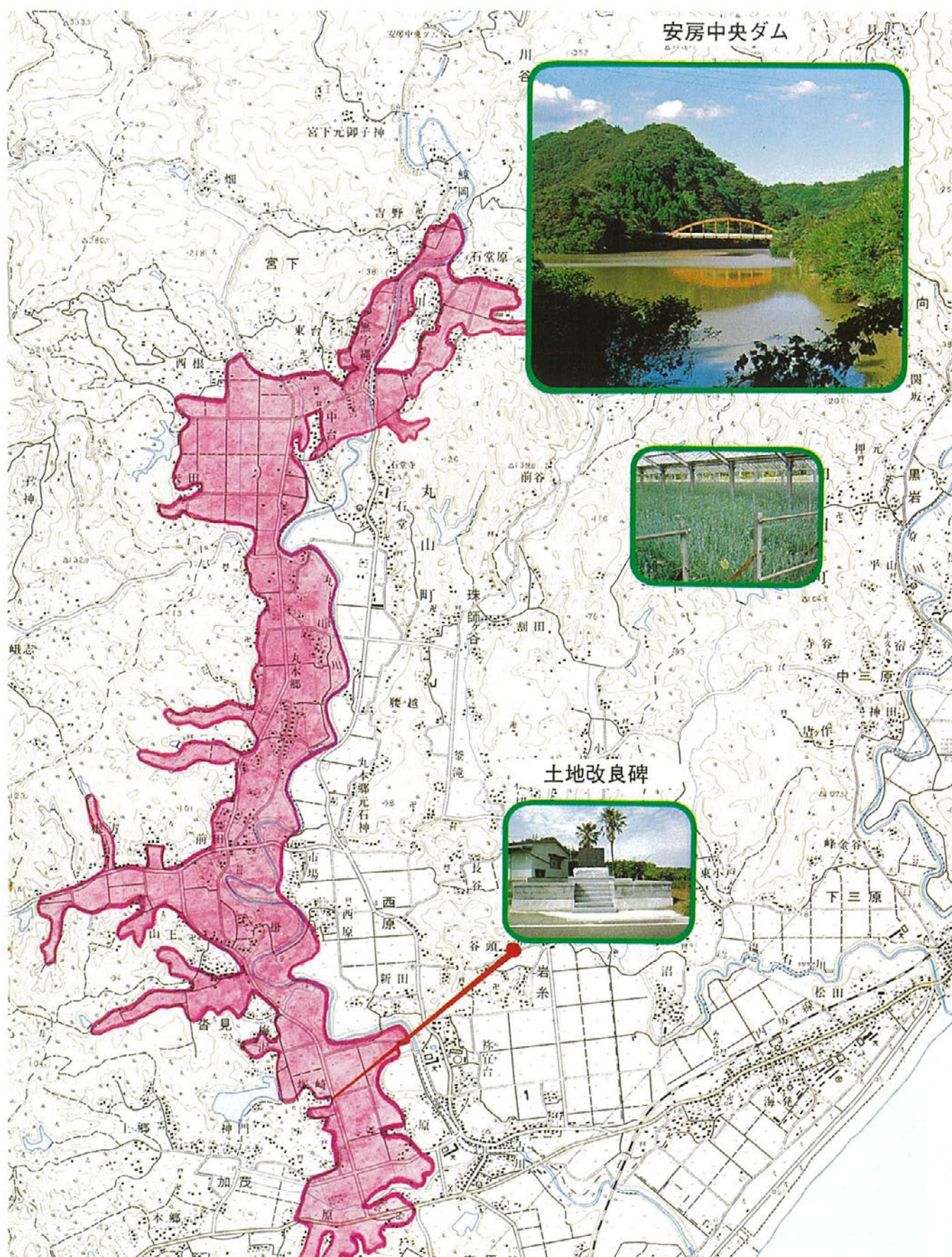
昭和48年撮影

整備後



昭和57年撮影

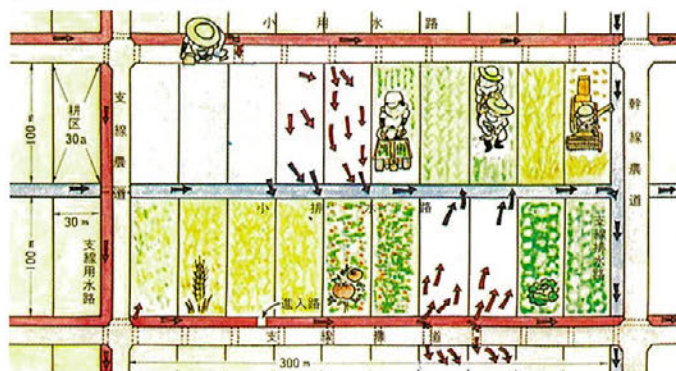
南房総市宮下付近



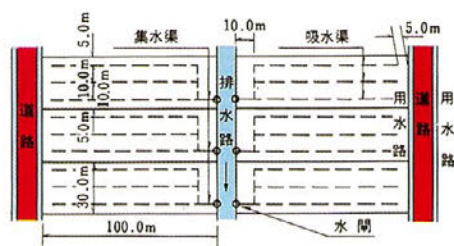
大きくなった圃場



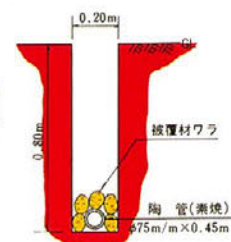
区画の配置



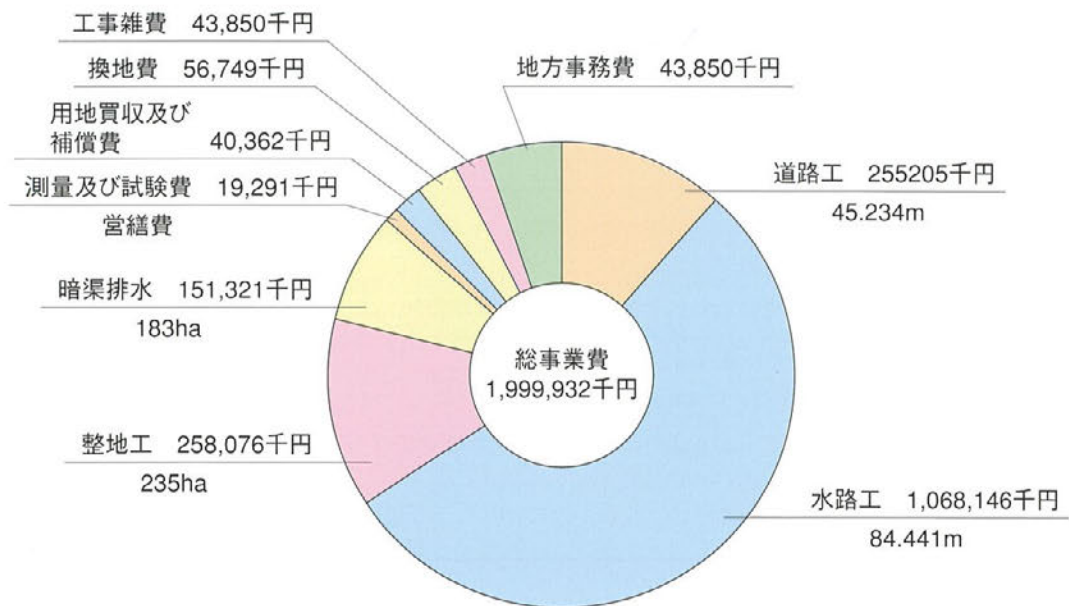
暗渠排水配置図



吸水渠断面図



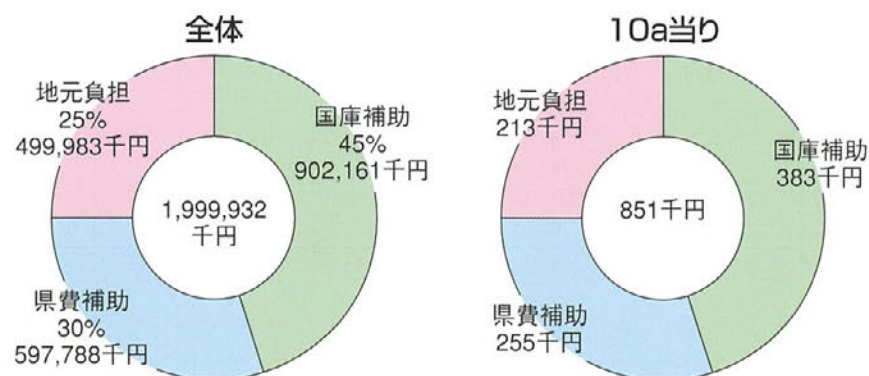
総事業費



年度別事業費



事業費負担内訳



土地改良碑

事業名	県営圃場整備事業		
地区名	丸山川右岸地区		
事業主体	千葉県		
管理主体	安房中央土地改良区		
事業概要	整地工	二三五ヘクタール	暗渠排水 一八三ヘクタール
	道路工	四四五、二三四メートル	
	水路工	八四、四一一メートル	

房総半島の南端に位する我が丸山町は、北は嶺岡山系が連なり、東西を小高い丘陵が囲み、南は太平洋に接し、空気は澄み、光は強く、気候温暖な農業適地で、中央を丸山川が南北に流れ、その右岸に二三五ヘクタールの耕地が展開する。

古くから米と酪農と野菜を中心とした農業を行ってきたが、圃場は未整備の遑田であり、農道も狭く、灌漑もその多くが田越しという有様で、大型機械の導入もできず、農民憂患のもとをなしていた。

折りしも、米の需給をめぐる不均衡が社会問題化し、昭和四十五年からは米の生産調整が始まるという重大な局面を迎え農業経営の合理化が急務となり、土地改良を要望する声が農民の中から出はじめた。

とは言え、莫大な費用と労力を要する圃場整備事業は決して容易なものではなく、反対賛成こもごも入りかい、関係者による啓蒙、説得が根気よく続けられ、よくこの難関を乗り越え、遂に昭和四十七年八月十二日農林大臣の採択を得て丸山川右岸地区が誕生し、事業計画の確定を待つて翌年一月二十六日起工した。

以来この事業は工事関係者と組合員の協力の下に着々と進められていった。この間、社会情勢の変化もあつて、水田の高度利用と汎用化が要望されるや、再三にわたり農林水産省や県に陳情し、暗渠排水や排水路の護岸等、整備水準の向上を図り、昭和五十七年ようやく竣工のはこびとなった。

本事業の概要をみるに、耕地は長辺百メートル、短辺三十メートルの三十アールを原則とし、大型農業用機械や自動車等の通行を勘案して幅員七メートルの幹線道路を配し、全ての耕地に乗り入れ得るよう支線農道を配置した。用水路はベンチフリュームとし、排水路はU字溝及びU型柵渠にて護岸し、暗渠排水は深さ八十センチメートル、間隔十メートルで陶管を埋設した。

顧みるに、起工以来十一年、総額約二十億円の巨費を投じ、我等が悲願とした圃場整備の大事業は遂に完成した。

今や我が郷土、石堂原、川谷、宮下、丸本郷、前田、沓見、加茂の営農基盤は一変し、高い生産性を誇る近代農業地域として甦り、稲作、酪農はもとより、洋菜、花卉等が導入され、若い農業後継者が嬉嬉として働き、豊穡の秋を迎えようとしている。誠に今昔の感に堪えない。

ここに、事業の完成を記念して、関係諸官庁、安房中央土地改良区、並びに工区役員及び組合員五二一名の物心両面の御支援御協力に対し、深甚なる誠意を表すると共に、記念碑を建立して、この偉業を永く後世に伝えるものである。

昭和五十七年十一月

安房中央土地改良区丸山川右岸工区長 山口 治 市
題字 千葉県知事 沼田 武 書



県営ほ場整備事業 安房中央東部地区



竣工にあたって

安房中央東部地区は温暖な気候と恵まれた風土、加えて安房中央ダムの豊かな水源を利用した農業の近代化を図るため昭和47年ほ場整備事業に着手し以来13年の歳月を経て本年漸く完成いたしましたことは誠に意義深く心からお喜びを申し上げますと共に今日までこの事業推進のためにご苦労されました諸先輩や地元関係者の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。しかるにこの間農業をとりまく社会状況の変化は目まぐるしいものがあり、水田利用再編対策を始めとして農業関係者は厳しい対応をせまられている現状です。今後この厳しい農業状況をのりこえてゆくためには関係者が苦労して築かれた諸施設を十分に活用され合理的な農業経営に努めていただきますようお願いいたします。

最後に地元関係者皆様の益々の発展をご祈念申し上げます。

昭和60年 3 月

館山土地改良事業務所
所長 丸 山 三 郎

竣工にあたって

安房中央東部地区は、県営ほ場整備事業として、昭和47年度に農林省より採択されました。受益面積は377ヘクタールで、この地域は房州特有の温暖な気候に恵まれて、水稻を主体として酪農及び洋菜類の栽培が行われているところでもあります。

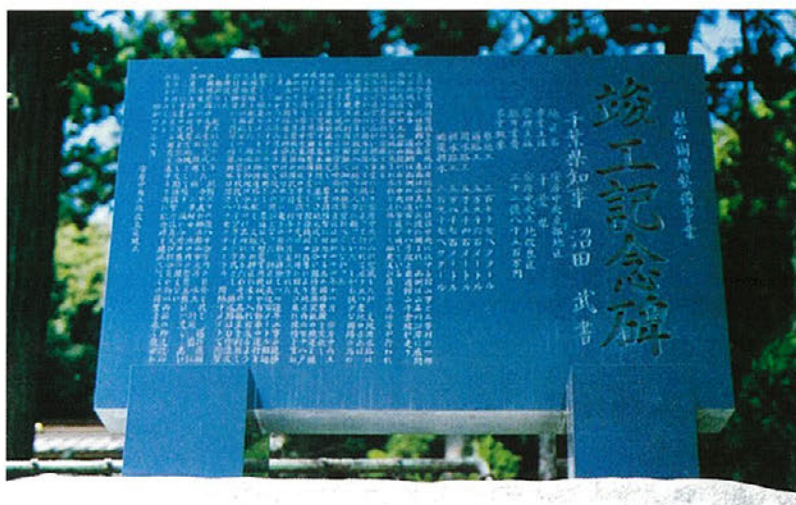
農業の近代化が唱えられている今日、基盤整備が着工以来13年間の歳月と総事業費32億8千余万円の巨費を投じてここに完成いたしました。この間国及びその他関係機関の御懇切なる御指導と格別の御高配を賜わり、併せて役員及び組合員各位の深い御理解ある御協力をいただきましたことを、この機会をおかりして厚く御礼申し上げます。

顧みるに安房中央土地改良区は、昭和44年に土地改良事業推進協議会を発足し、各部落役員を始めとして受益者の集会を行い、膝つき合わせての説明会や同意の取りまとめに奔走した当時、安房中央ダムに関連する幹線用水路の工事は着手したばかりで支線分水口の位置決定にせまられて、ほ場整備事業計画が急務であり、最近の農業をとりまく諸状況は厳しく、近年水田利用再編対策を始めとして、米作農家にとって厳しい状況で農業経営の念願である省力化のため大型機械導入に必要なほ場の大区画化と集団化を目的とし、ここに乾田化された立派な基盤が出来営農の安定化へと進めることができ、今後はこれ等の施設の善良なる維持管理をし、長く後世に残し農業の発展に寄与したいことを願っております。

昭和60年3月

安房中央土地改良区

理事長 高 木 哲 三



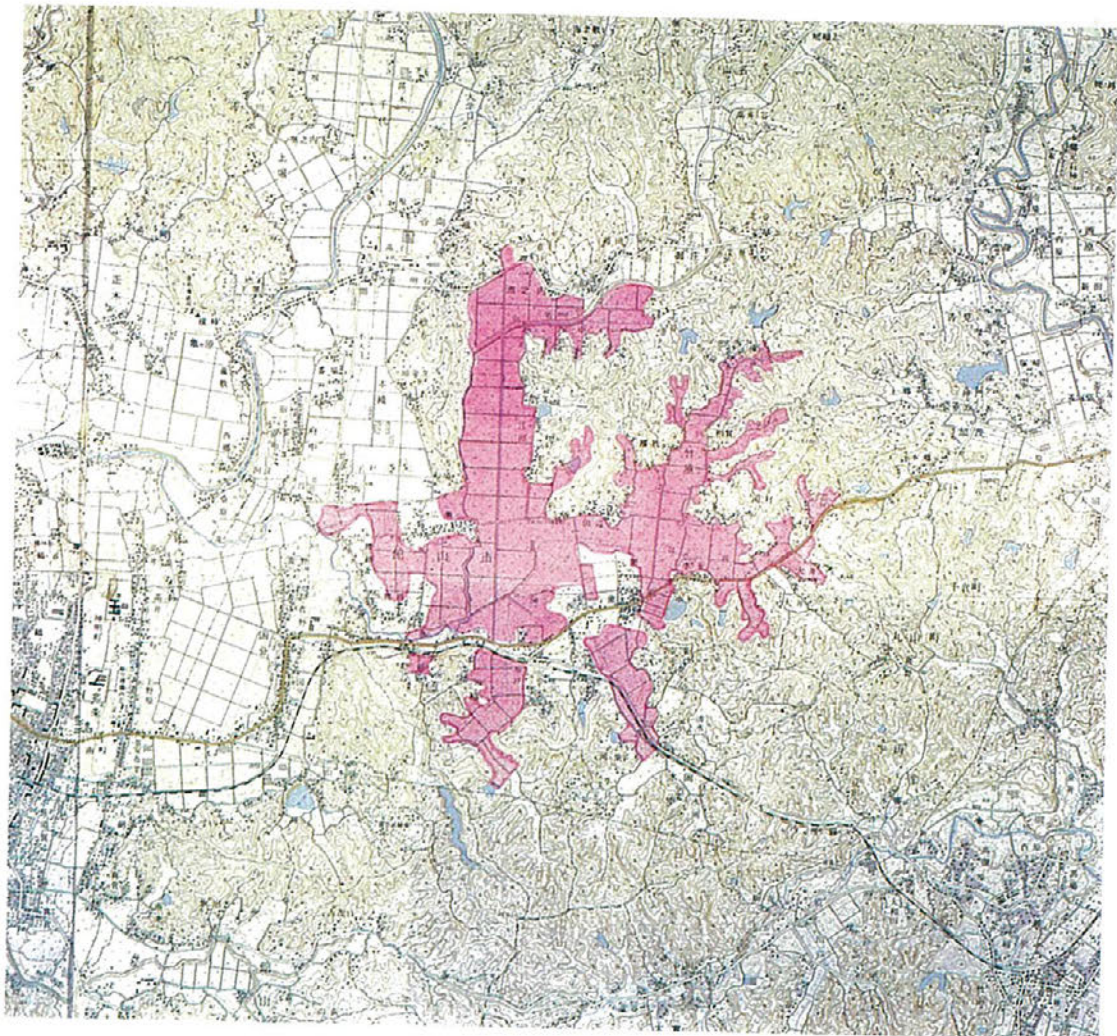
事業の概要

事業目的

本地域は、千葉県南部に位置する館山市及び安房郡三芳村の水田地帯で、用水施設は滝川からの揚水機2ヵ所、山名川設置の井堰5ヵ所、溜池9ヵ所にてかんがいていたが、周辺土地の開発等により年々用水不足を期すに至り、その対策として館山市及び三芳村・丸山町・和田町の4市町村、約1,088haの耕地を対象に、県営かんがい排水事業安房中央地区として、ダム及び幹線用水路の整備が昭和33年から53年まで実施され完了している。

排水についても、2級河川滝川・山名川の改修を別途事業（土木部）で改修中であり、これ等の事業に併せて区画を整備し、用水路は幹線の分水口がTP44m～51mの高さを有するため、その高低差を利用してパイプライン方式により配水する。又、地区内小排水路の整備に併せ、排水不良地域に暗渠排水を施し乾田化を図る。

これ等の事業を総合的一体的に行い事業効果の効率を図るものである。



営業計画

基幹作目を米、野菜（キュウリ、トマト、イチゴ）、酪農として、ライスセンター、及び各種中型機械（トラクター、コンバイン等）を導入し共同利用を図る。

計画諸元

総面積 437ha
完了後受益面積 377ha
受益農家戸数 616戸

(1) 用水計画

単位用水量 1.1574l/s/ha
減水深 10mm/d
代掻水深 120mm
粗用水量 { 代掻時 0.001244m³/S
常時 0.001157m³/S
計画基準年 昭和22年
かんがい期間 5月1日～8月18日
代掻日数 23日(5月1日～5月23日)
かんがい方式 パイプライン方式

(2) 排水計画

基準雨量 180mm/日
確率1/10
排水方式 自然排水
単位排水量 { 山地 0.01042m³/S
平地 0.01667m³/S

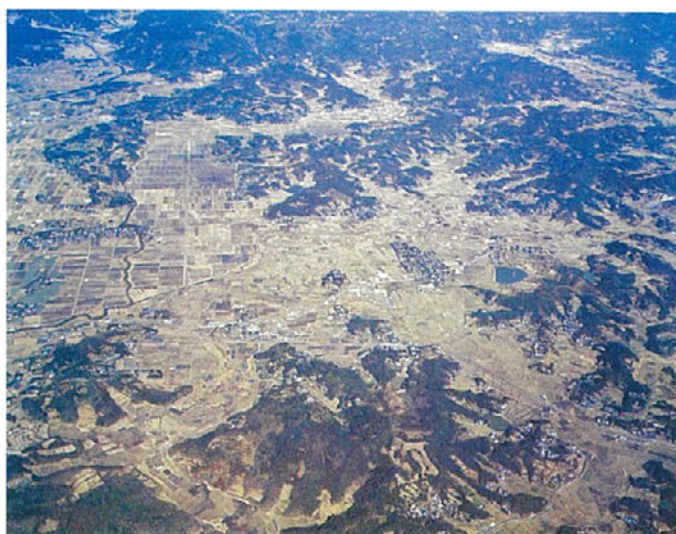
(3) 1区画の大きさ

100×30m 30a

受益面積

事業名	項目	地目 区分	田	輪換耕地	普通畑	小計	その他	計
ほ場整備	現況		382.2	—	26.3	408.5	27.9	436.4
	計画		318.1	36.0	23.0	377.1	59.3	436.4
暗渠排水	現況		324.4	—	—	324.4	—	324.4
	計画		261.0	36.0	—	297.0	—	297.0





整備前



整備後



主要工事〈総括〉

工 種	工事内容			
	全体事業量	内 訳		構 造
整地工	A=377ha	水田	A=354ha	土量 673,437m ³
		畑	A=23ha	
用水路工	L=55.4km	幹線	L=17.6km	石綿管、塩ビ管、Φ250～400mm
		支線	L=37.8km	塩ビ管 Φ200mm以下
排水路工	L=58.7km	幹線	L=8.3km	ブロック護岸、U型柵渠
		支線	L=50.4km	U型柵渠、U字溝、土水路
道路工	L=59.6km	幹線	L=4.1km	アスファルト舗装
		支線	L=55.5km	碎石、土造
		橋梁	N=5ヵ所	合成桁、PC桁、10m以上
暗渠排水	A=297ha	集水渠		塩ビ管 Φ100～75mm
		吸水渠		陶 管 Φ75間隔10m

用水路 (バイプライン)



護岸された排水路



大きくなった圃場

整地されたは場と田植え風景

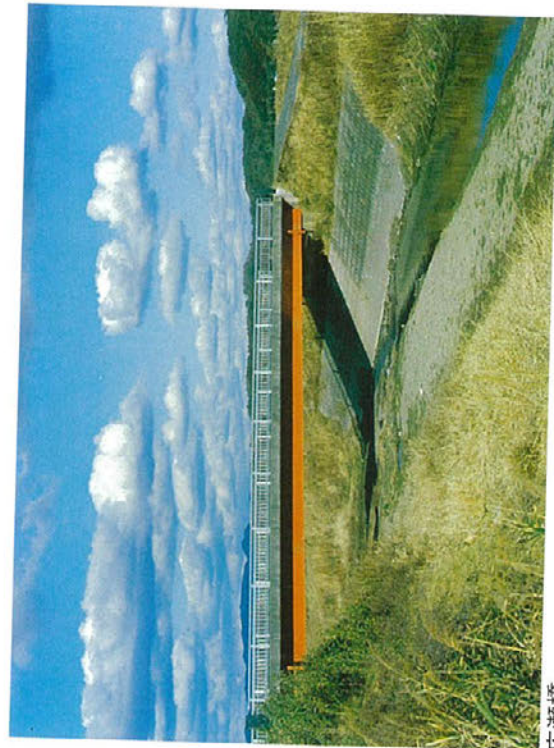
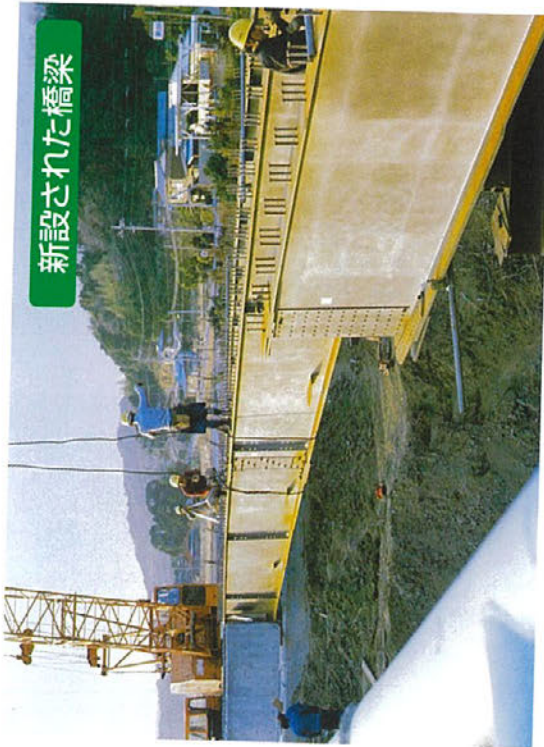


舗装された幹線道路



幹線道路と稲都大橋

新設された橋梁

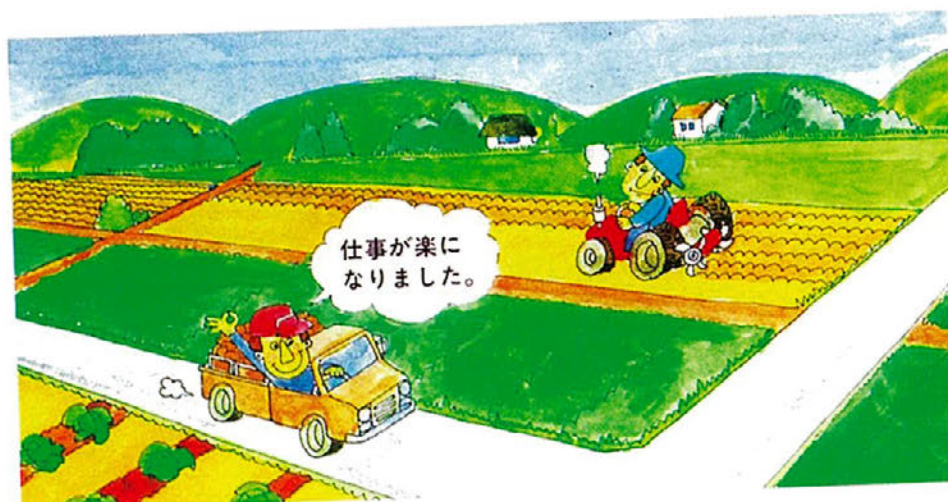
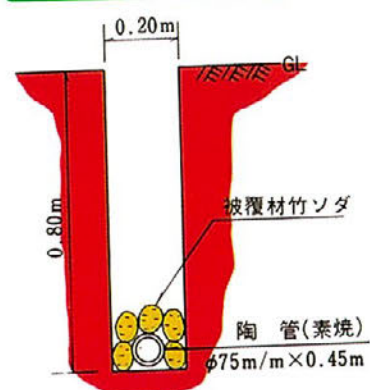


広瀬橋

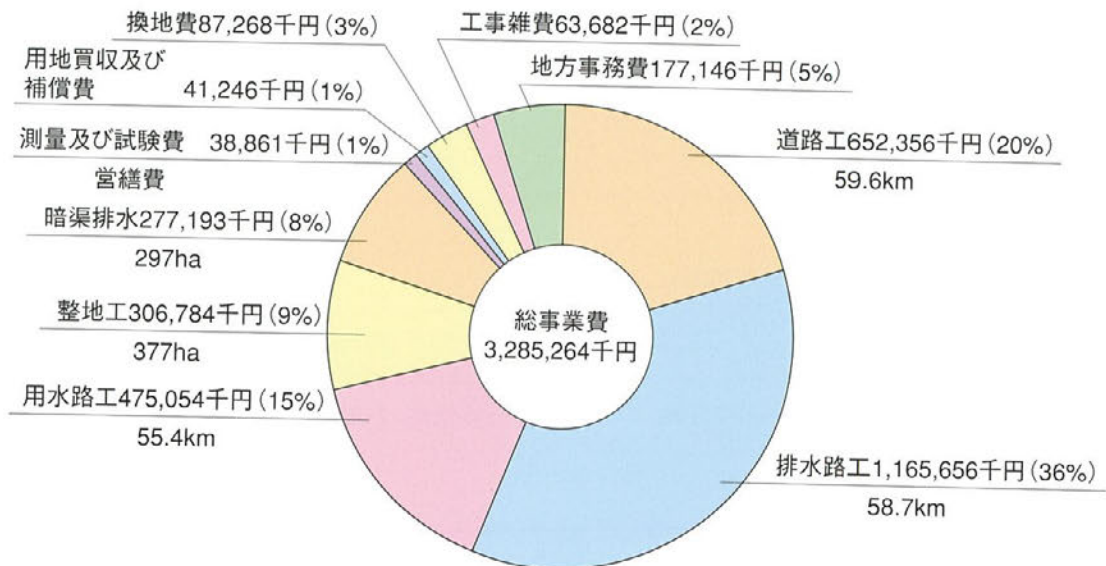
乾田化された圃場



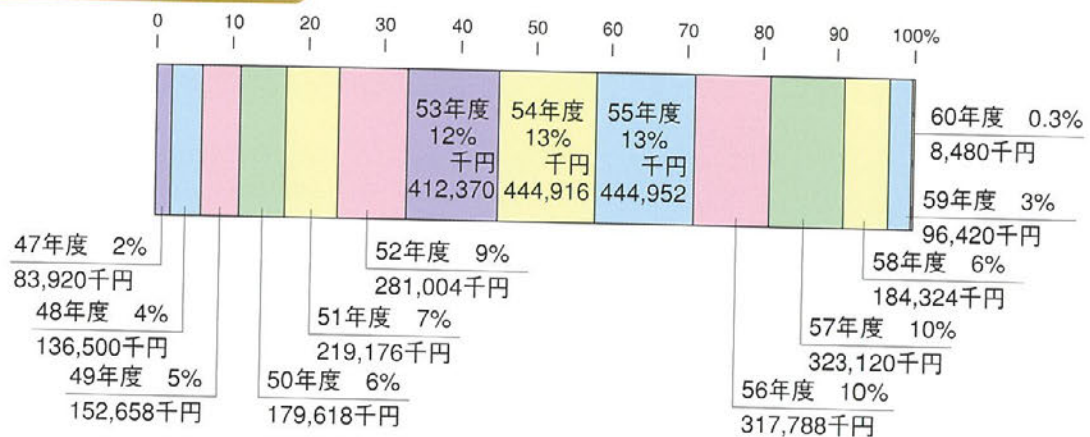
吸水渠断面図



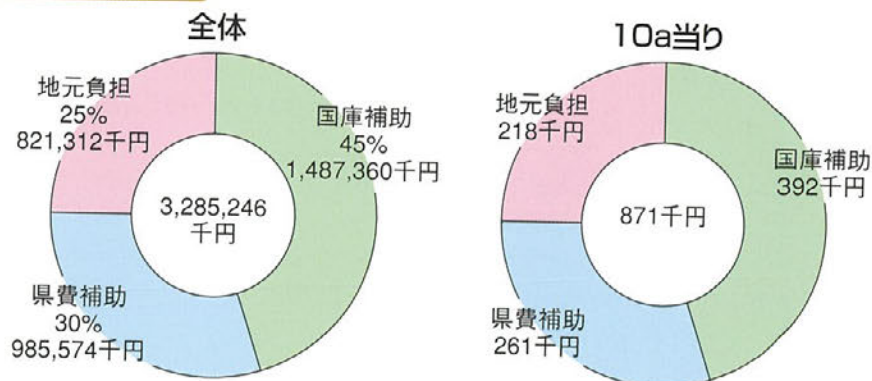
総事業費



年度別事業費



事業費負担内訳



工期 昭和47年度～昭和60年度

竣工記念碑

（題字：千葉県知事 沼田武書）

地区名	安房中央東部地区	
事業主体	千葉県	
管理主体	安房中央土地改良区	
総事業費	三十二億八千五百万円	
事業概要	整地工 三七七ヘクタール	用水路工 五三四〇〇メートル
		排水路工 五八七〇〇メートル
	道路工 五九六〇〇メートル	暗渠排水 二九七ヘクタール

本県営圃場整備事業区域は、房総半島の畧々中央に位する館山市と三芳村の一部を包含し、北は嶺岡山系、東南は小高い丘陵に囲まれ、西側は山名川沿岸に展開する地域である。

道路網は南側に国道百二十八号線と、県道館山千倉線が走り、北部に県道和田丸山館山線があり、中央に市道が通じている。この地域は温暖な気候に恵まれ、水稻を主体として酪農及び蔬菜の栽培等が行われ房州特有の農産物の宝庫である。

用水源は県営かんがい排水事業により安房中央ダムが完成したが、支線用水路は全くなかなくかんがい排水は、総べて田越に因つて行われており、且つ農地の区画は、不整備で農産物等の搬出入は総べて人力に頼つていた。しかも狭少な圃場のために大型農機具の利用は困難で畑作転換等望むべくもなかった。

この様な現状により、安房中央土地改良区は昭和四十年十一月、安房中央土地改良事業推進協議会を発足し、農業諸情勢に対処するため圃場整備を実施し、用排水施設を完備する基本構想に基づき地元民と話し合い、圃場整備実施の機運を醸成した。

そこで県営圃場整備事業として関係機関の指導により地区内六百十八戸の同意を得て、安房中央東部地区の事業認可を受け、同時に国及び県に陳情を重ね昭和四十七年農林大臣の採択を得、同年十二月着工された。

以来工事関係者と組合員の協力の下に幾多の困難を排除しつつ逐年工事の進捗をみ、昭和六十年三月ようやく竣工のはこびとなった。

耕区は長辺百メートル短辺二十メートルの三十アールを原則とし、農道は大型農業用機械や自動車の運行を勘案して幅員七メートルの幹線道路を配し、又総ての耕区に乗り入れできるよう支線農道を配置した。

用水は幹線の分水口が高所にあるため、その高低差を利用して石綿管及び塩化ビニール管を伏設しバイブライン方式とし、排水路はU型柵渠にて護岸し、暗渠排水は深さ八十センチメートル、間隔十メートルで陶管を埋設した。

顧みるに、起工以来十三年、総額三十二億八千余万円の巨費を投じ、遂に悲願の圃場整備の大事業は完成した。

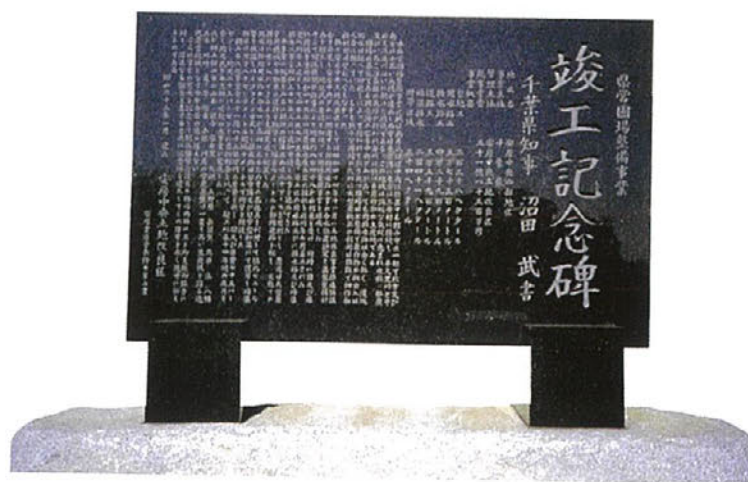
今や我が郷土館山市大井、水玉、竹原、蘭、江田、安東、二子、広瀬、腰越、稲、三芳村中、池の内の営農基盤は一変し、高い生産性を誇る近代農業地域として甦り、誠に今昔の感に堪えない。

ここに事業の完成を記念して関係諸官庁役員及び組合員の物心両面の御支援御協力に対する深甚なる謝意を表すると共に記念碑を建立してこの偉業を永く後世に伝えるものである。



実施した
主な事業

県営ほ場整備事業 安房中央西部地区



竣工にあたって

安房中央西部地区は、南房総の気候温暖で豊かな水源に恵まれた農業適地であり、高生産性農業を柱とした農業の合理化、及び近代化を図るため、昭和49年にほ場整備事業に着手、以来、14年の歳月を経て、本年漸く完成いたしました。将来の農業経営にとって、誠に意義深く心からお喜びを申し上げます。

このような大事業が無事完成し得ましたことは、事業推進のためにご苦労されました諸先輩や、地元関係者の御熱意のたまものであり、皆様に心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。

しかし、この間農業をとりまく社会状況は目まぐるしいものがあり、水田の高度利用と汎用化が叫ばれている「水田農業確立対策」の推進を始めとして、農業関係者は厳しい対応をせまられている昨今です。

このような厳しい農業の状況をのりこえてゆくためには、関係者が苦労して建設した土地基盤を十分に活用され、合理的な農業経営を図られますようお願い申し上げます。

終わりに地元関係者皆様の益々の発展をご祈念申し上げます。

昭和63年 2 月

館山土地改良事務所
所長 鈴木 幸 男

農業の発展に寄与

安房中央西部地区は県営ほ場整備事業として昭和49年度に農林水産省より採択されました。受益面積372ヘクタールで、この地域は温暖な気候に恵まれ、水稻を主体として酪農及びいちご、洋菜類の栽培が行われているところでもあります。

農業を取りまく状況は誠に厳しいものがありますが、基盤整備が着工以来14年間の歳月と総事業費31億8千余万円の巨費を投じてここに完成いたしました。この間、国及びその他関係機関の御懇切なる御指導と格別なる御高配を賜わり、併せて役員及び組合員各位の深い御理解ある御協力をいただきましたことをこの機会をおかりして厚く御礼申し上げます。

顧みるに安房中央土地改良区は、昭和44年に土地改良事業推進協議会を発足し、各地域役員を始めとして受益者の集会を行い、啓蒙説得が根気よく続けられ同意の取りまとめに奔走しました。当時、安房中央ダムに関連する幹線用水路工事も着々と進捗し、支線分水しての位置決定に迫られてほ場整備事が急務でありました。近年、水田農業確立対策事業推進により水田の汎用化が叫ばれて米作農家にとって厳しい状況で、農業経営の念願である省力化のため大型機械導入に必要なほ場の大区画化と集団化を目的とし、ここに乾田化された立派な基盤ができ営農の安定化へと進めることができ、今後はこれらの施設の善良なる維持管理をし、長く後世に残し農業の発展に寄与したいことを願っております。

昭和63年2月

安房中央土地改良区
理事長 木 曾 由 郎



事業の概要

事業の目的

本計画地域は房総半島の南端部に位置し、館山市北部を流れる平久里川を挟んだ水田地帯で、用水源は平久里川及び滝川より揚水機6ヵ所、井堰4ヵ所、溜池7ヵ所にてかんがいしていたが、周辺地域の開発等により年々用水不足を期すに至り、用水源の確保として、館山市、三芳村、丸山町、和田町の4市町村の耕地、約1,088haを対象に、県営かんがい排水事業安房中央地区として、安房中央ダム（有効貯水量2,096,000 m^3 ）及び幹線用水路の整備が昭和33年～53年まで実施され、完了している。

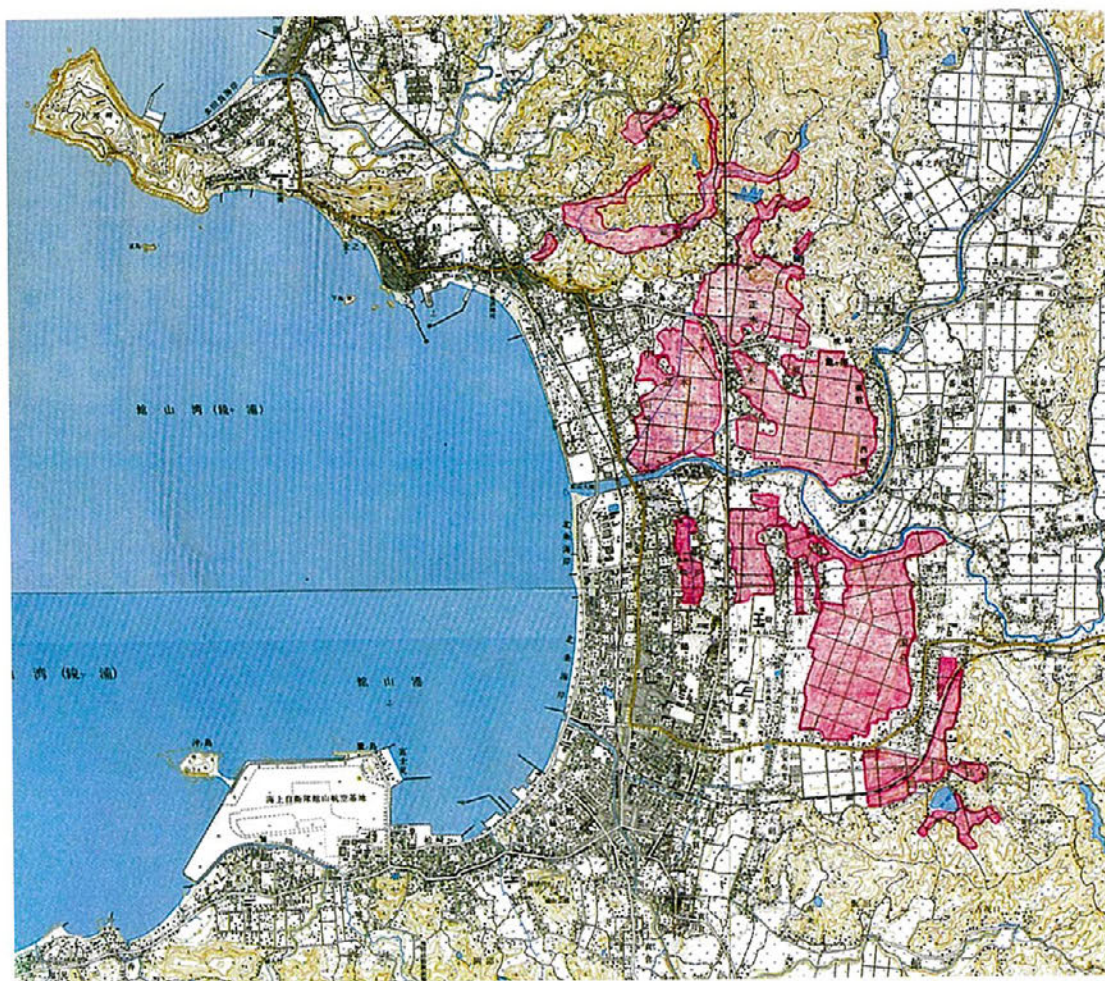
排水については、地区内の排水路が未改修のため、幹線排水路及び小排水路を区画整理と合わせ整備し、用水については幹線用水路から自然の落差を利用して、パイプライン方式により配水する。また排水不良地域には暗渠排水を施し、乾田化する。

これらの事業を総合的・一体的に行い、農地の高度利用とともに農業の合理化を図ることを目的とする。



受益面積

事業名	項目 区分	地目 田	輪換耕地	普通畑	小 計	その他	計
ほ場整備	現 況	342	—	31	373	18	391
	計 画	229	82	27	338	53	391
附帯区域	現 況	17	17	—	34	6	40
	計 画	17	17	—	34	6	40
計	現 況	359	17	31	407	24	431
	計 画	246	99	27	372	59	431



計画諸元

総面積 431ha
完了後受益面積 338ha
受益農家戸数 848戸

(1) 用水計画

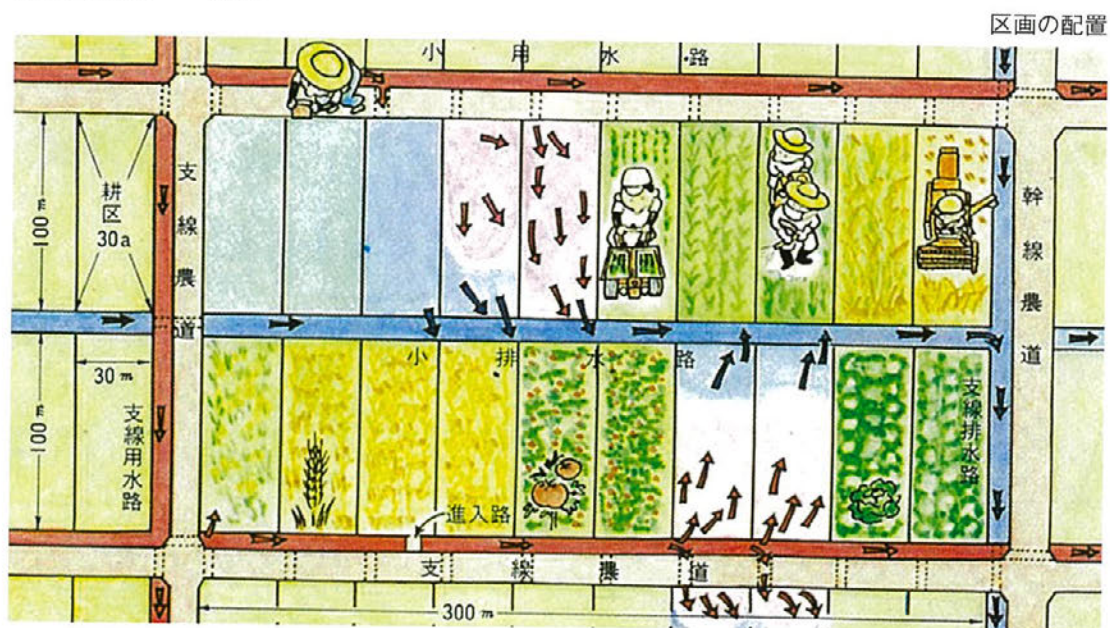
単位用水量 $\begin{cases} 1.2731 \text{ } \ell/\text{S}/\text{ha} \text{ (代掻期)} \\ 1.1554 \text{ } \ell/\text{S}/\text{ha} \text{ (普通期)} \end{cases}$
減水深 10~11 mm/日、代掻水深 116 mm
粗用水量 $\begin{cases} \text{代掻時 } 0.6229 \text{ m}^3/\text{S} \\ \text{常時 } 0.5663 \text{ m}^3/\text{S} \end{cases}$
計画基準年 昭和22年
かんがい期間 5月1日~8月18日
代掻日数 23日 (5月1日~5月23日)
かんがい方式 パイプライン方式

(2) 排水計画

基準雨量 180 mm/日、確率 1/10年
排水方式 自然排水
単位排水量 $\begin{cases} \text{山地 } 0.0255 \text{ m}^3/\text{S}/\text{ha} \\ \text{平地 } 0.0204 \text{ m}^3/\text{S}/\text{ha} \end{cases}$
全排水量 32.191 m^3/S

(3) 1区画の大きさ

100×30m 30a



主要工事〈総括〉

工 種	工事内容		
	全体事業量	内 訳	構 造
整地工	A=338ha	水田	A=311ha
		畑	A=27ha
用水路工	L=57.5km	幹線	L=10.6km 石綿管、塩ビ管、Φ250～450mm
		支線	L=46.9km 塩ビ管 Φ200mm以下
排水路工	L=42.9km	幹線	L=8.1km ブロック護岸、U型柵渠
		支線	L=34.8km U型柵渠、U字溝
道路工	L=55.9km	幹線	L=5.9km アスファルト舗装、碎石舗装
		支線	L=50.0km 碎石舗装
暗渠排水	A=241ha	集水渠	塩ビ管 Φ75～100mm
		吸水渠	陶管 Φ75mm間隔10m
附帯区域	A=34ha	用水路	L=6.3km 塩ビ管 Φ75～200mm
		排水路	L=4.4km U型溝

施工前



施工後

整備前



整備後



整備前



整備後



大きくなったは場（整地工）

用水源(用水路工)



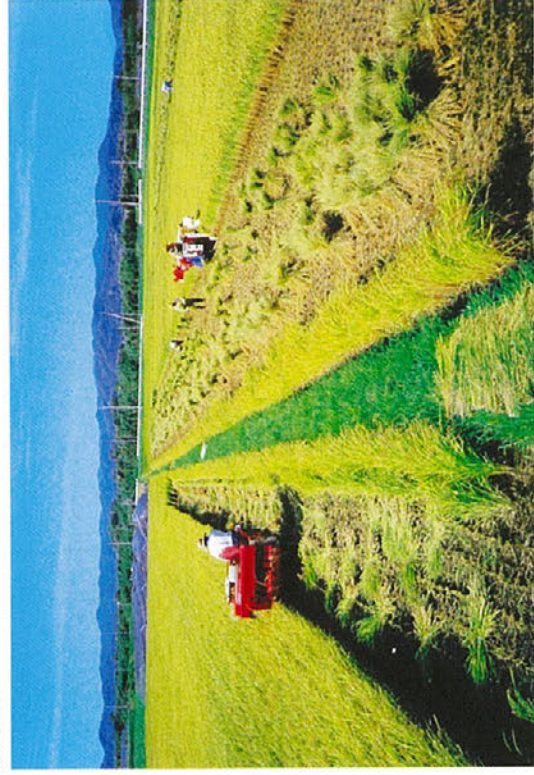
安房中央ダム(丸山川)



西郷堰(平久里川)



施工後



施工後



幹線道路(道路工)



支線道路



潮止堰(平久里川)



平久里機場

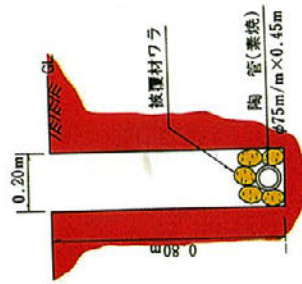


乾田化された圃場（暗渠排水）



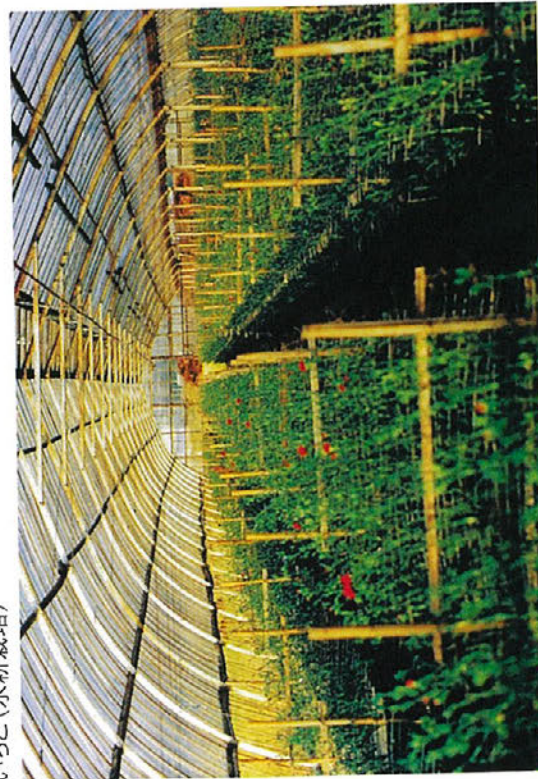
トレンチャー施工

吸水渠断面図

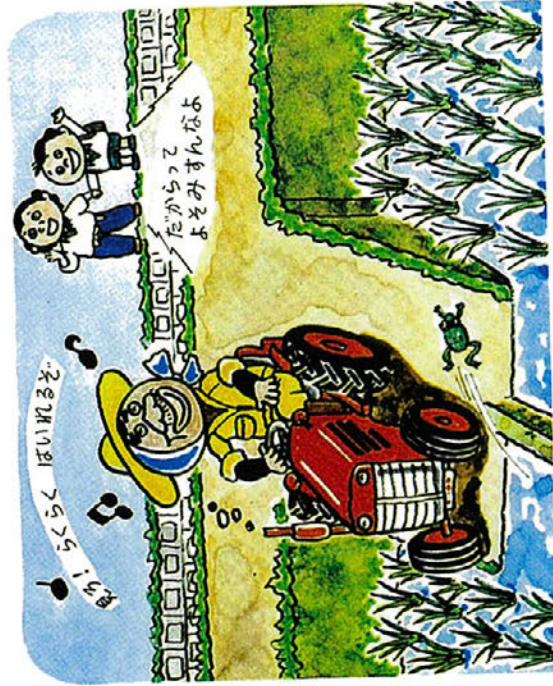


ハウス

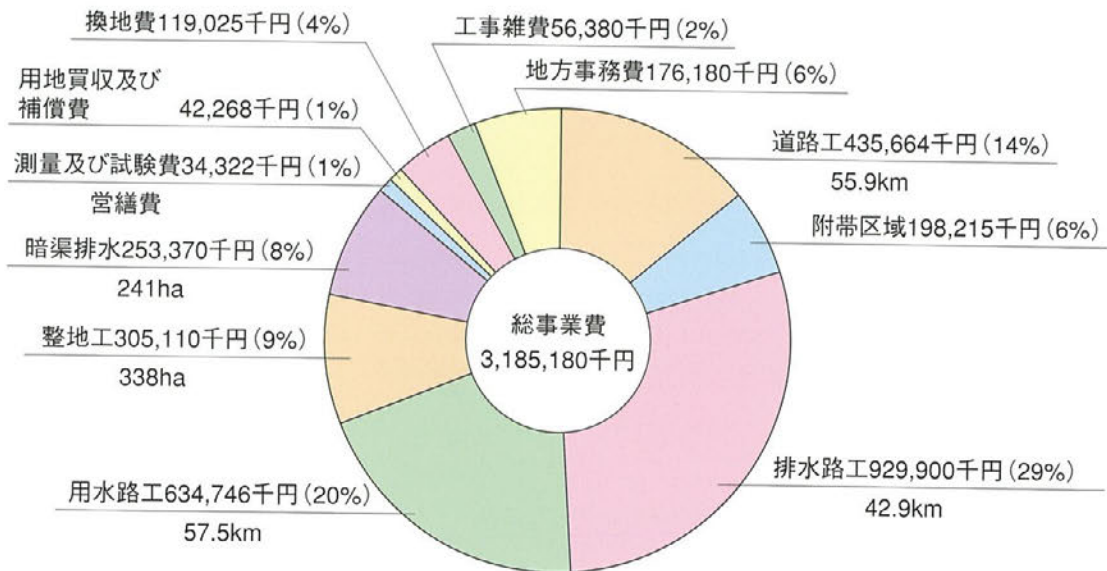
いちご（水耕栽培）



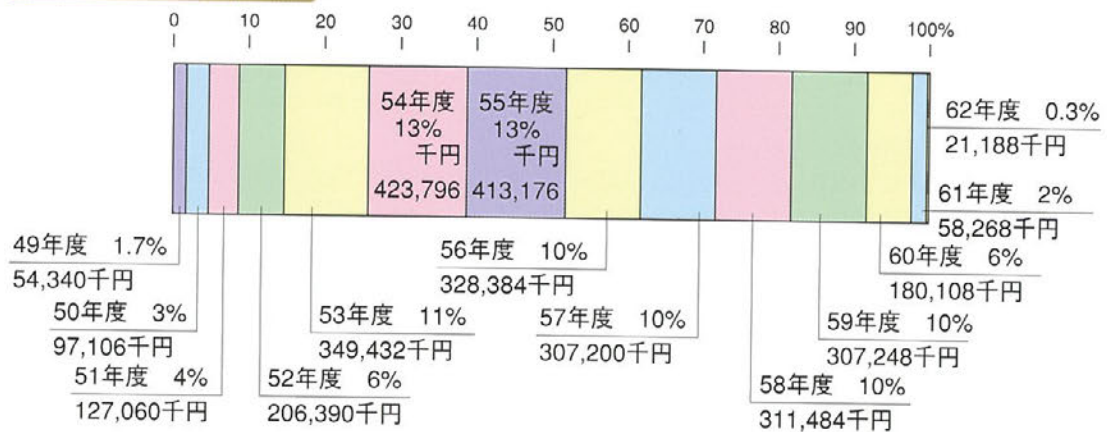
カーネーション



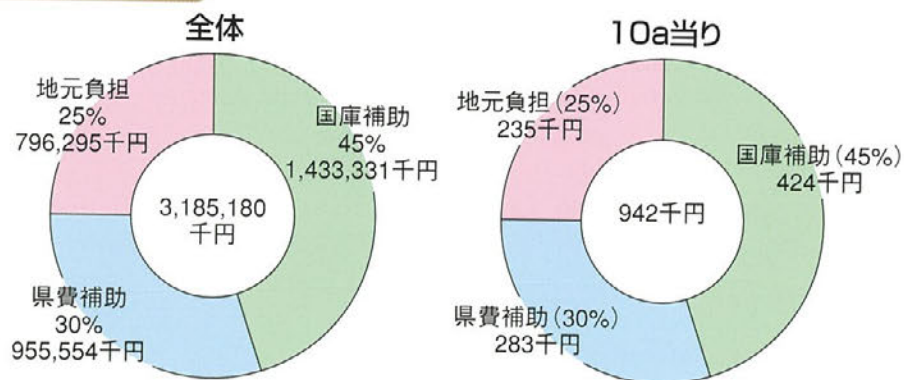
総事業費



年度別事業費



事業費負担内訳



工期 昭和49年度～昭和62年度

竣工記念碑

（題字：千葉県知事沼田武書）

地区名	安房中央西部地区		
事業主体	千葉県		
管理主体	安房中央土地改良区		
総事業費	三十一億八千五百万円		
事業概要	整地工 三三八ヘクタール 用水路工 五七、五〇〇メートル 排水路工 四二、九〇〇メートル	道路工 五五、九〇〇メートル 暗渠排水 二四一ヘクタール 附帯区域 三四ヘクタール	

碑文

本県営圃場整備事業区域は、南房総のほぼ中央に位置する館山市の一部で、北方及び南方は高い丘陵が連立し西方は東京湾に東方は三芳村に接続し、平久里川とその支流滝川沿いに開けた地域である。この地域は温暖な気候に恵まれ水稲酪農、及びいちご洋菜類の栽培が行われ房州に於ける農産物の主産地である。

圃場の基盤である用水源の安房中央ダムがあつても用排水路は全く無く、灌漑用水は総べて田越に因つて行われており、且つ圃場は不整備で農産物の搬出入は人力に頼つていた。しかも狭少な圃場のために大型農機具の利用は困難で畑作転換利用を望むべくもなかつた。

偶々安房中央土地改良区としては昭和四十四年十一月に土地改良事業推進協議会を発足し、安房中央ダムに関連する幹線用水路工事の分水位置決定と基盤整備計画を樹立し、地区民の要請と相俟つて圃場整備事業を醸成した。

そこで関係機関の指導により地区内八百四十八戸の同意を受け、同時に国及び県に陳情を重ね昭和四十九年四月農林水産大臣の採択を得同年七月着工された。更に附帯工区として山本工区及び正木亀ヶ原工区の用水路並びに排水路及び暗渠排水工事を昭和五十七年三月に追加申請し工事を進めてきた。

本事業の概要をみるに耕地の標準区画は三十アールを原則とし、農道は大型農業用機械や自動車運行を勘案して幅員七メートルの幹線道路を配し又、総ての耕地に乗り入れできるよう支線農道を配置した。

用水は幹線用水路の分水口が高所にあるためその高低差を利用して塩化ビニール管を布設し、パイプライン方式とし排水路はU字溝及びU字型側溝にて護岸し、暗渠排水は深さ八十センチメートル間隔十メートルで陶管を埋設した。

顧みるに、総額三十一億八千五百万円の巨費を投じ、国及び県費七十五パーセント、地元二十五パーセントの負担割合を以つて、起工以来十四年間の歳月を費し地元民多年悲願の世紀の大事業が完成した。

我が郷土館山市の山本、国分、安布里、大網、上野原、長須賀、高井、湊、八幡、正木、川崎、亀ヶ原、那古、小原、川名の営農基盤は一変し高い生産性を誇る近代農業地域となり、今や今昔の感に堪えない。

ここに事業の完成を記念して関係諸官庁役員の物心両面に亘る御支援御協力に対し、深甚なる謝意を表すると共に記念碑を建立してこの偉業を永く後世に伝えるものである。

昭和六十三年一月建立 安房中央土地改良区

暗きょ排水の維持管理は十分に行おう

1. 排水路の維持管理

暗きょの機能を十分に保持するためには、まず、暗きょの排水口が水面上に出ている必要があります。もし、排水口が泥の中に埋まっているようでは、その機能は十分発揮できません。したがって、排水路は常に整備するとともに、排水口が汚物や泥でふさがれないよう努めて、排水路の管理を怠らないことが大切です。

2. 暗きょの故障

ア 暗きょの故障

水甲から排水が見られないときは、①暗きょ及び水甲の閉そくあるいは破損による通水不能、②塩ビ管暗きょ等にかかる保護材の目詰り等の故障が予想されます。これらの場合、故障箇所より上流では田面が過湿状態となります。

イ 故障箇所の修復

通水不能の場合には破損管を取替えるか、閉そくしている土砂を流出させますが、この場合、土砂の流去・保護材の目詰りには、水甲を閉じて暗きょ内の水位が管内に満たされたとき水甲を開け、水勢によって沈殿分を排除させるか、ジェットノズルあるいはポンプを用いて水の圧送で除去する方法もあります。これでも通水不能の場合は、さらに他の管の破損が予想されます。

ウ 維持管理上の注意事項

維持管理上の主な注意事項は次のとおりです。

- (ア) 暗きょを施工した年は、吸水きょ・集水きょの上は代かきを入念に行う。
- (イ) 集水きょの施工してある箇所を工事する場合には十分注意する。
- (ウ) 暗きょの清掃は代かき前及び落水期の年2回実施する。
- (エ) 排水路は春さきの通水前と落水後の2回水路の溝さらいをする。

3. 水甲の維持管理

ア 水甲操作の一般的管理は次のとおりです。

- (ア) 水甲の閉そくは上流から下流に、開放は反対に下流から上流に向かって行う。この場合、一時に数個の水甲を開放しないよう注意する必要がある。
- (イ) 代かき前の水甲の取扱いは支障のない限り早く閉じて地下水の上昇を図る。
- (ウ) かんがいは、水甲を閉じてなるべく一昼夜以上経たのち行う。
- (エ) 水甲はなるべく水位調節ができるものを用いる。

イ 水甲の故障とその修理

水甲を閉じたとき水が噴出する場合には、接合の不完全又は管の破損が考えられます。逆に、水位が上がらないのは水甲からの漏れが考えられます。

実施された主な事業一覧表

単位:千円

事業名	地区名	主な事業内容	事業費	工期	施設の所在地
県営かんがい排水事業	安房中央	安房中央ダム 均一性アースダム 堤高 36.00m、堤長110m 総貯水量 2,113,000m ³ 満水面積 20ha 集水面積 1,487ha	3,699,171	昭和36年～ 昭和53年	南房総市川谷211-7 (右岸) 212-8 (左岸)
県営平久里川 用水障害事業	平久里川	鋼製越流型シェルトアイプロラーゲート 長 18.00m×高2.5m、2門	89,000	昭和42年～ 昭和45年	館山市正木字川田 (右岸) 同北条正木字下の原 (左岸)
農業用河川 工作物応急対策事業	西郷	鉄筋コンクリート固定堰:全長L=33.80m 転倒ゲート:長5.00m×高1.00m 1門	83,642	昭和54年～ 昭和57年	館山市亀ヶ原字蔵敷 53-4
県営ほ場整備事業	丸山川右岸	受益面積A=227.5ha	1,999,756	昭和47年～ 昭和57年	南房総市 (皆見・前田・宮下)
県営ほ場整備事業	安房中央東部	受益面積A=377.0ha	3,284,182	昭和47年～ 昭和60年	館山市 (竹原・稲・江田・広瀬・腰越・大井) 南房総市 (池之内)
県営ほ場整備事業	安房中央西部	受益面積A=372.0ha	3,185,176	昭和49年～ 昭和63年	館山市 (正木・亀ヶ原・川崎・北条・湊・高井・国分・小原他)
県営施設整備事業	安房中央	用水路工改修 トンネルL=1.5km	298,820	昭和62年～ 平成 3年	南房総市下滝田地先
県営かんがい排水事業	吹代	用水路工 パイプライン	314,120	平成 8年～ 平成11年	南房総市吹代
団体営 かんがい排水事業	安馬谷	用水路工 パイプライン	12,930	昭和52年～ 昭和53年	南房総市安馬谷
農業構造改善事業	山本・安布里	受益面積A=61.0ha		昭和42年～ 昭和45年	館山市山本・安布里
農業構造改善事業	三坂・千代	受益面積A=62.1ha	289,000	昭和48年～ 昭和50年	南房総市三坂・千代

第4章

次世代に 引き継ぐため の取り組み

- 1 県営かんがい排水事業（更新事業）
【安房中央ダムの改修計画】
- 2 県営老朽ため池等整備事業
【葛原堰の改修計画】
- 3 新農業水利システム保全対策事業
【安房中央西部地区防潮堰の管理】
- 4 土地改良施設維持管理適性化事業
【土地改良施設の維持管理】
- 5 農地・水・環境保全向上対策事業
【地域住民と一体となった取組み】

整備された頭首工



田植え体験



進む堆積土



山本堰



1 県営かんがい排水事業(更新事業) 安房中央地区

1.事業の必要性

本地区は、受益面積955haの農山村地帯であり、用水源は2級河川丸山川上流に設置された安房中央ダムを主水源として、館山市、南房総市(旧丸山町・三芳村)の2市に跨る受益地に、農業用水を供給している。

安房中央ダムは、昭和31年度に事業採択された「県営安房中央用水改良事業」で建設されたダム基幹水利施設であるが、そのうち特に施設の老朽化等により取水機能が著しく低下し、受益地区内の用水不足・維持管理費の増嵩、また、経年劣化等による施設の安全性が懸念されることから、取水設備等を更新し農業用水の安定供給と維持管理費の節減、施設の安全確保を図る。

2.事業概要

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 1) 位 置 | 南房総市川谷地先 |
| 2) 受益面積 | 955 ha |
| 3) 総事業費 | 9億2千万円 国50%、県25%、関係市15%
改良区10% |
| 4) 工 期 | 平成16年度から平成24年度予定 |

3.事業の内容

取水設備の更新、操作設備の更新、管理室等の補修



老朽化進む取水設備



取水弁ホロージェットバルブ



進む堆積土

2 県営ため池等整備事業 葛原地区

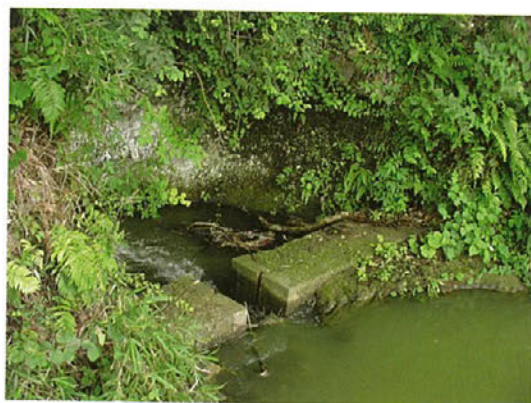
本地区は、館山市正木地先に位置し受益面積40haにかんがいするため池（通称、葛原堰）であり、安房中央ダムからパイプラインにより用水を受給し調整池の要素を持っている。

しかし、堰は昭和2年に築造されて80年が経過し、築堤上部からの漏水が見られ、洪水吐の能力不足により洪水時に堤体越流の危険が大きく堤体決壊の危険性があることから、本事業により堤体並びに洪水吐を改修して機能回復と安全性を確保し、農業用水の安定供給と維持管理費の節減を図る。

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 1.事業名 | 県営ため池等整備事業 |
| 2.地区名 | 葛原地区 |
| 3.事業主体 | 千葉県（安房農林振興センター） |
| 4.主な工事内容 | 堤体工、余水吐工、緊急放流工、土砂吐工等 |
| 5.事業費 | 1億470万円 国50%、県25%
関係市15%、改良区10% |
| 6.工 期 | 平成16年度から平成21年度予定 |



浸食され危険な堤体



現況余水吐



整備された土砂吐工



改修された余水吐

3 農業水利システム保全対策事業安房中央西部地区

昭和47年3月に供用開始以来35年が経過し、扉体及び巻上げ装置の老朽化が著しく平成16年度に新農業水利システム保全対策事業として採択を受け、保全計画を作成し、更新事業を現在実施中である。

平成18年度までに扉体の塗装、管理室の補修、巻き揚げ機の更新を実施し、本年度は、自動開閉システム導入の一環として水位計を設置する計画である。平成20年度に遠方監視システムを整備し事業完了予定である。

事業の実施により、施設の延命化、施設管理費の節減、施設管理の安全対策などが図られ、農業用水の安定供給が可能となる。

1.事業名	新農業水利システム保全対策事業
2.地区名	安房中央西部地区
3.事業主体	安房中央土地改良区
4.主な工事内容	扉体の塗装、巻き揚げ機の更新、操作室の補修、 遠方監視システムを整備
5.事業費	1億3千万円 国50%、県25%、関係市15% 改良区10%
6.工 期	平成16年度から平成20年度予定



更新された巻揚げ機



巻揚げ機架設作業



整備された頭首工

4 土地改良施設維持管理適性化事業

県営かんがい排水事業、県営ほ場整備事業で造成された施設は、供用開始以来30余年が経過し、いずれの施設も老朽化が進み更新時期を迎えている。

県営事業の他、土地改良施設維持管理適正化事業を計画的に実施し、農業用水利施設の適正な維持管理を進め、農業用水の安定供給を図る。

管理施設

1 ため池	32ヶ所	利用可能貯水量	2,884千トン
2 頭首工	4ヶ所		
3 揚水機場	32ヶ所	反復機場を含む	
4 幹線用水路	L=24.93km		
5 橋梁	5ヶ所		



安馬谷揚水機場 H18



山名川水管橋 H18



平久里川水管橋 H17

5 農地水環境保全向上対策事業

農道や排水路等地域住民も利用される土地改良施設の管理は、農業者と地域住民が一体となって管理することが求められております。

先人が培ってきた水土里を守り後世に引き継ぐため農業者、自治会、PTA、JA、水土里ネット安房中央等が構成団体となり活動組織を作り、その保全活動に対して農林水産省、県、関係市から併せて水田で10aあたり4,400円が支給されるもので平成19年度から実施されております。

水土里ネット安房中央では活動組織の一員として参画し、各活動組織の委託を受けて管理事務を行っております。

平成19年度現在、水土里ネット安房中央管内では館山市関係2地区、南房総市関係2地区計4地区で取り組んでおります。

各活動組織では、農道や排水路の草刈、花を植栽したり美化活動等地域に見合った活動計画を立て保全活動を実施しております。



山本整美の会

地域住民一体管理が行われている山本堰



丸山川右岸環境保全組合

田植えの体験学習・南房総市立南小学校



丸山川右岸環境保全組合

丸山湖桜の下刈り



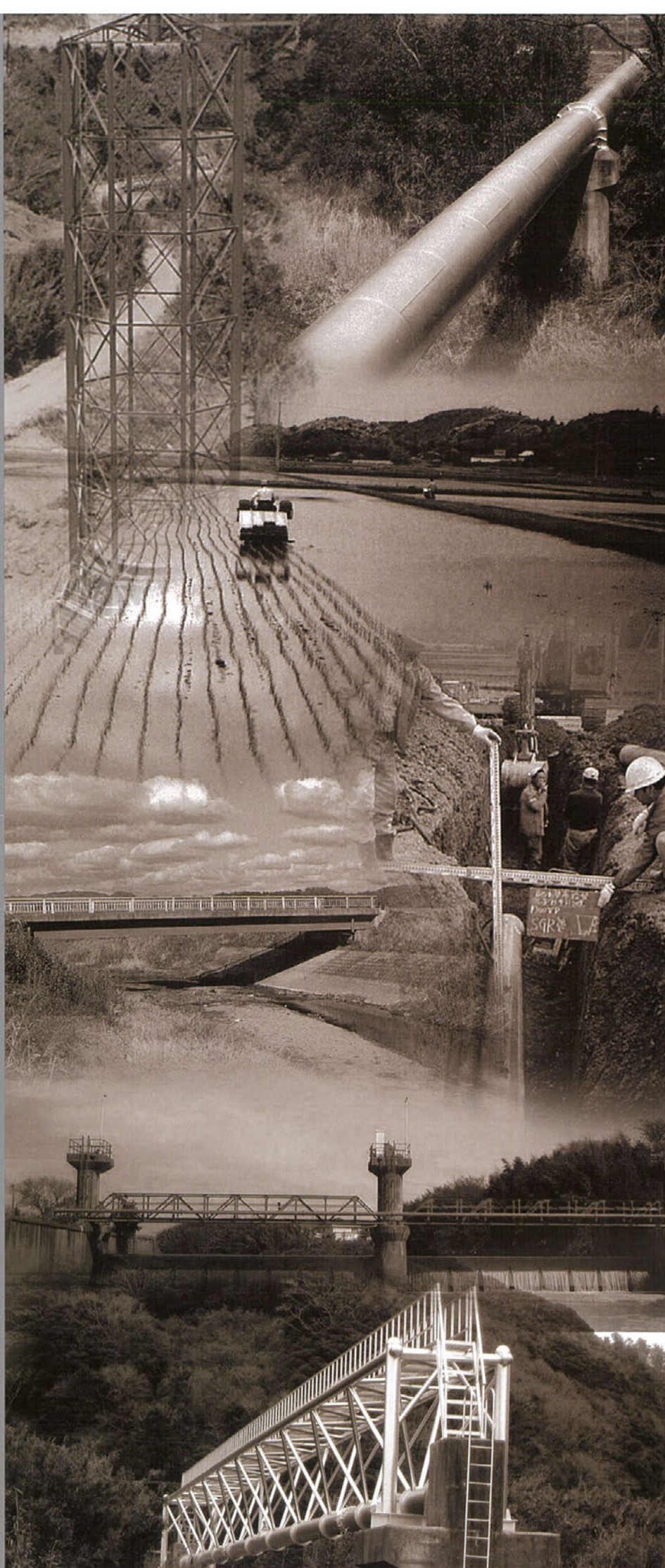
江田農地里の会

幹線排水路の草刈り

第5章

土地改良区の 運営に携わって こられた方々

- 1 歴代理事長
- 2 現職役員
- 3 組織と事務局
- 4 土地改良区の主な受賞例歴
- 5 歴代役員名簿
- 6 歴代総代名簿
- 7 職員名簿



1 歴代理事長

	氏 名	生年月日	任 期	主 な 顕 彰
初 代	山 口 品 次	M25. 7.26	昭和33年10月11日 昭和41年10月10日	勲六等単光旭日章
二 代	山 崎 勝 平	M25. 5.30	昭和41年10月11日 昭和48年 3月 4日	勲五等瑞宝章
三 代	高 木 哲 三	T 2.12.16	昭和48年 3月 5日 昭和62年11月11日	勲五等瑞宝章 従六位叙勲
四 代	木 曾 由 郎	T14. 9.14	昭和62年11月12日 平成14年10月10日	全土連会長賞 勲六等単光旭日章
五 代	中 村 保	S 5. 9.30	平成14年10月11日	全土連会長賞



初 代 山口 品次



二 代 山崎 勝平



三 代 高木 哲三



四 代 木曾 由郎



五 代 中村 保

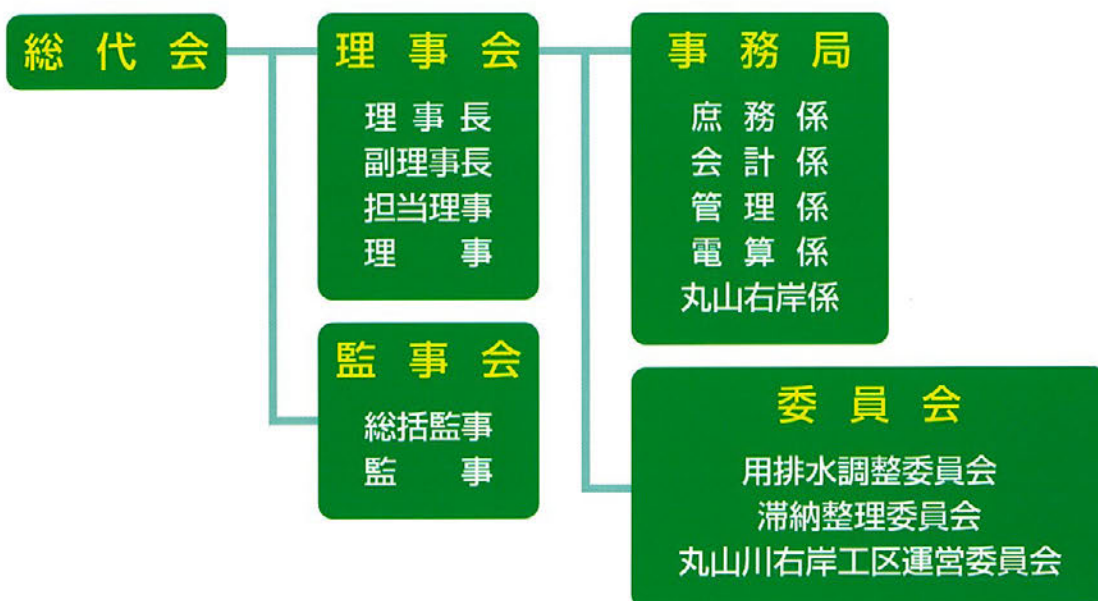
2 現 職 役 員

役 職	氏 名	役 職	氏 名
理 事 長	中 村 保	総括監事	鈴 木 幸 雄
副理事長	山 田 一 夫	監 事	正 木 茂 雄
担当理事	山 田 重 義	監 事	三 平 孝 司
担当理事	粕 谷 勤		
担当理事	石 井 勲		
理 事	長谷川 正 次		
理 事	羽 山 榮		
理 事	小 柴 忠 夫		
理 事	網 代 哲 夫	安房農林振興センター 基盤整備部長	佐 野 治
理 事	笹 子 英 一	記念誌編集委員長	鈴 木 隆
理 事	野 村 愛 二		



3 組織と事務局

1 組 織



1 事務局

平成19年4月1日現在

職 名	氏 名	備 考
事務局 長	小 原 清	嘱 託
管 理 係 長	火 焚 常 夫	ダム管理主任技術者
会 計 係 長	庄 司 利 夫	
電 算 係 長	中 村 友喜生	
庶 務 係 長	小 倉 久 子	嘱 託
丸山右岸係長	上 野 和 子	嘱託、土地改良協会兼務職員

事務局職員



4 土地改良区の主な受賞歴

年 月 日	受 賞 名	備 考
昭和59年3月28日	全国土地改良事業団体連合会銅賞	
平成3年3月27日	全国土地改良事業団体連合会銀賞	
平成11年3月29日	全国土地改良事業団体連合会金賞	



銅 賞



銀 賞



金 賞

5 歴代役員名簿

副理事長

	氏 名	生年月日	任 期	備 考
初代	山 崎 勝 平	M25. 5.30	昭和33年10月11日 昭和41年10月10日	
二代	高 木 哲 三	T 2.12.16	昭和41年10月11日 昭和48年 3 月 4 日	
三代	小 柴 源 吾	M34.11.10	昭和48年 3 月 5 日 昭和53年10月10日	
四代	高 橋 章	T 6. 2.15	昭和53年10月11日 昭和57年10月10日	
五代	木 曾 由 郎	T14 .9.14	昭和57年10月11日 昭和62年11月10日	
六代	白 幡 辰 男	M41.12.18	昭和62年11月11日 平成 2 年10月10日	
七代	齊 藤 為 治	M43. 3.29	平成 2 年10月11日 平成 6 年10月10日	
八代	錦 織 積 一	T 1.10.24	平成 6 年10月11日 平成10年10月10日	
九代	山 田 重 義	S 5.10.10	平成10年10月11日 平成14年10月10日	
十代	山 田 一 夫	S15. 4. 5	平成14年10月11日	

総括監事

	氏 名	生年月日	任 期	備 考
初代	田 山 省 吾	M25. 5.30	昭和33年10月11日 昭和35年10月 7 日	
二代	岡 本 薫	T 2.12.16	昭和35年10月11日 昭和37年10月10日	
三代	岸 國一郎	M36.10.12	昭和37年10月11日 昭和41年10月 5 日	
四代	高 橋 徳太郎	T 6. 2.15	昭和41年10月 6 日 昭和45年10月 5 日	
五代	山 田 廣	T14 .9.14	昭和45年10月 6 日 昭和49年10月 5 日	
六代	川 上 安太郎	M41.12.18	昭和49年10月 6 日 昭和53年10月 5 日	
七代	高 橋 良 平	T 9. 1.20	昭和53年10月11日 昭和57年10月10日	
八代	岡 本 茂	T 9. 7.30	昭和57年10月11日 昭和61年10月10日	
九代	角 田 利 夫	T10. 2.20	昭和61年10月11日 平成 2 年10月10日	
十代	白 幡 辰 男	M41.12.18	平成 2 年10月11日 平成10年10月10日	
十一代	須 藤 八 夫	T14. 8.16	平成10年10月11日 平成18年10月10日	
十二代	鈴 木 幸 雄	S10. 3.31	平成18年10月11日	

昭和33年10月11日
昭和35年10月10日

昭和35年10月11日
昭和37年10月10日

昭和37年10月11日
昭和39年10月8日

85

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
庶務担当理事	高 木 哲 三	第三選挙区	
会計担当理事	山 口 隆 次	第五選挙区	
理事	石 川 寿 男	第一選挙区	
同	山 田 隆 司	第六選挙区	
同	三 平 元 博	第二選挙区	
同	飯 田 秀 夫	第三選挙区	
同	木 曾 竹 松	第三選挙区	
同	鈴 木 馨	第四選挙区	
同	小 柴 源 吾	第二選挙区	
同	石 川 友 一	第五選挙区	
同	小 柴 孝	第四選挙区	
同	遠 藤 秀次郎	第六選挙区	
同	磯 貝 正	第四選挙区	
同	高 橋 徳多郎	第八選挙区	
同	松 田 賢	第七選挙区	
総括監事	岸 國一郎	第一選挙区	
監事	石 井 謹 吾	第五選挙区	
同	青 木 静 夫	第八選挙区	

第4代

理事定数 20名
監事定数 3名

任期 昭和39年10月 9 日
昭和41年10月 6 日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	山 口 品 次	第二選挙区	
代行理事	山 崎 勝 平	第一選挙区	
庶務担当理事	高 木 哲 三	第三選挙区	
会計担当理事	山 口 隆 次	第五選挙区	
理事	石 川 寿 男	第一選挙区	
同	木 曾 竹 松	第三選挙区	
同	白 幡 辰 男	第二選挙区	
同	飯 田 秀 夫	第三選挙区	
同	山 田 隆 司	第六選挙区	
同	遠 藤 秀次郎	第六選挙区	
同	鈴 木 馨	第四選挙区	
同	磯 貝 正	第四選挙区	
同	小 柴 孝	第四選挙区	
同	小 柴 源 吾	第二選挙区	
同	石 川 友 一	第五選挙区	
同	高 橋 徳多郎	第八選挙区	
同	松 田 賢	第七選挙区	
員外理事	本 間 讓		館山市長
同	石 井 常 吉		丸山町長
同	安 藤 信 弘		三芳村長
総括監事	岸 國一郎	第一選挙区	
監事	岡 本 松 寿	第七選挙区	
同	石 井 謹 吾	第五選挙区	

第5代

理事定数 20名
監事定数 3名

任期 昭和41年10月 6 日
昭和45年10月 5 日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	山 崎 勝 平	第一選挙区	
代行理事	高 木 哲 三	第三選挙区	
庶務担当理事	小 柴 源 吾	第二選挙区	

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
会計担当理事	山 口 隆 次	第五選挙区	
理事	石 川 寿 男	第一選挙区	
同	鈴 木 俊 一	第二選挙区	
同	石 川 友 一	第五選挙区	
同	錦 織 機 一 郎	第六選挙区	
同	山 口 品 次	第二選挙区	
同	木 曾 竹 松	第三選挙区	
同	鈴 木 馨	第四選挙区	
同	飯 田 秀 夫	第三選挙区	
同	小 柴 孝 雄	第四選挙区	
同	高 梨 藤 雄	第四選挙区	
同	岡 村 文 五 郎	第五選挙区	
同	松 田 賢 俊	第七選挙区	
同	高 橋 重 俊	第八選挙区	
員外理事	本 間 譲		館山市長
同	高 木 鉄 男		丸山町長
同	山 口 治 夫		三芳村長
総括監事	高 橋 徳 多 郎	第八選挙区	
監事	山 田 廣	第一選挙区	
同	遠 藤 秀 次 郎	第六選挙区	

第6代

 理事定数 20名
 監事定数 3名

 任期 昭和45年10月 6 日
 昭和49年10月 5 日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	高 木 哲 三	第三選挙区	
代行理事	小 柴 源 吾	第二選挙区	
庶務担当理事	石 川 寿 男	第一選挙区	
会計担当理事	山 口 隆 次	第五選挙区	
理事	山 崎 勝 平	第一選挙区	
同	櫻 井 善 次 郎	第二選挙区	
同	木 曾 竹 松	第三選挙区	
同	鈴 木 俊 一	第二選挙区	
同	飯 田 秀 夫	第三選挙区	
同	高 梨 貢	第四選挙区	
同	加 藤 義 市	第四選挙区	
同	鈴 木 馨	第四選挙区	
同	山 口 治 市	第五選挙区	
同	錦 織 機 一 郎	第六選挙区	
同	遠 藤 秀 次 郎	第六選挙区	
同	高 橋 良 平	第八選挙区	
同	安 西 邦 雄	第七選挙区	
員外理事	本 間 譲		館山市長
同	石 井 誠 一		丸山町長
同	山 口 治 夫		三芳村長
総括監事	山 田 廣	第一選挙区	
監事	川 上 安 太 郎	第五選挙区	
同	岡 本 松 寿	第七選挙区	

第7代

 理事定数 17名
 監事定数 3名

 任期 昭和49年10月 6 日
 昭和53年10月 5 日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	高 木 哲 三	第三選挙区	

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
代行政理事	小 柴 源 吾	第二選挙区	
庶務担当理事	飯 田 秀 夫	第三選挙区	
会計担当理事	錦 織 機一郎	第六選挙区	
理事	鈴 木 俊 一	第二選挙区	
同	鈴 木 馨	第四選挙区	
同	加 藤 義 市	第四選挙区	
同	羽 山 茂	第二選挙区	
同	石 川 繁 雄	第一選挙区	
同	高 橋 章	第四選挙区	
同	石 井 勉	第一選挙区	
同	木 曾 由 郎	第三選挙区	
同	山 口 治 市	第五選挙区	
同	山 口 正 夫	第五選挙区	
同	遠 藤 幸 雄	第六選挙区	
同	安 西 邦 雄	第七選挙区	
同	吉 田 耕 一	第八選挙区	
総括監事	川 上 安太郎	第五選挙区	
監事	岸 國一郎	第一選挙区	
同	高 橋 良 平	第八選挙区	

第8代

理事定数 17名
監事定数 3名

任期

昭和53年10月11日
昭和57年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	高 木 哲 三	第三選挙区	
代行政理事	高 橋 章	第四選挙区	
庶務担当理事	山 口 正	第四選挙区	
会計担当理事	飯 田 秀 夫	第三選挙区	
理事	鈴 木 馨	第四選挙区	
同	鈴 木 俊 一	第二選挙区	
同	石 川 繁 雄	第一選挙区	
同	石 井 勉	第一選挙区	
同	木 曾 由 郎	第三選挙区	
同	齊 藤 為 治	第四選挙区	
同	小 柴 賢	第二選挙区	
同	錦 織 機一郎	第六選挙区	
同	山 口 治 市	第五選挙区	
同	三 浦 正	第六選挙区	
同	松 村 三千夫	第五選挙区	
同	吉 田 耕 一	第八選挙区	
同	畠 山 信太郎	第七選挙区	
総括監事	高 橋 良 平	第八選挙区	
監事	岸 國一郎	第一選挙区	
同	山 口 正 夫	第五選挙区	

第9代

理事定数 17名
監事定数 3名

任期

昭和57年10月11日
昭和61年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	高 木 哲 三	第三選挙区	
副理事長	木 曾 由 郎	第三選挙区	
庶務担当理事	山 口 治 市	第五選挙区	
会計担当理事	鈴 木 俊 一	第二選挙区	
理事	石 井 勉	第一選挙区	

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事	高 橋 章	第四選挙区	
同	齊 藤 為 治	第四選挙区	
同	小 柴 賢	第二選挙区	
同	白 幡 辰 男	第二選挙区	
同	鈴 木 清 吾	第四選挙区	
同	龍 崎 行 一	第三選挙区	
同	秋 山 芳 男	第四選挙区	
同	村 松 三 夫	第五選挙区	
同	三 浦 正	第六選挙区	
同	錦 織 積 一	第六選挙区	
同	吉 田 耕 一	第八選挙区	
同	田 村 正 巳	第七選挙区	
総括監事	岡 本 茂	第七選挙区	
監事	石 川 繁 雄	第一選挙区	
同	角 田 利 夫	第五選挙区	

第10代

 理事定数 16名
 監事定数 3名

 任期 昭和61年10月11日
 平成2年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	木 曾 由 郎	第三選挙区	
副理事長	白 幡 辰 男	第二選挙区	
庶務担当理事	錦 織 積 一	第六選挙区	
会計担当理事	齊 藤 為 治	第四選挙区	
理事	小 宮 博	第一選挙区	
同	伊 東 清 志	第一選挙区	
同	鈴 木 俊 一	第二選挙区	
同	山 田 重 義	第二選挙区	
同	山 口 正	第四選挙区	
同	高 木 哲 三	第三選挙区	
同	龍 崎 行 一	第三選挙区	
同	秋 山 芳 男	第四選挙区	
同	山 口 治 市	第五選挙区	
同	山 田 一 夫	第五選挙区	
同	岡 本 茂	第七選挙区	
同	高 橋 俊 男	第八選挙区	
総括監事	角 田 利 夫	第五選挙区	
監事	多 田 登	第二選挙区	
同	川 名 信 三	第八選挙区	

第11代

 理事定数 13名
 監事定数 3名

 任期 平成2年10月11日
 平成6年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	木 曾 由 郎	第三選挙区	
副理事長	齊 藤 為 治	第五選挙区	
庶務担当理事	錦 織 積 一	第六選挙区	
会計担当理事	山 田 重 義	第二選挙区	
理事	小 宮 博	第一選挙区	
同	鈴 木 武 守	第一選挙区	
同	山 口 正	第四選挙区	
同	龍 崎 行 一	第三選挙区	
同	秋 山 芳 男	第四選挙区	
同	山 田 一 夫	第五選挙区	

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事	山 口 純 一	第五選挙区	
同	岡 本 茂	第七選挙区	
同	川 名 信 三	第八選挙区	
総括監事	白 幡 辰 男	第二選挙区	
監事	高 木 哲 二	第三選挙区	
同	須 藤 八 夫	第四選挙区	

第12代

理事定数 13名
監事定数 3名

任期 平成6年10月11日
平成10年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	木 曾 由 郎	第三選挙区	
副理事長	錦 織 積 一	第五選挙区	
庶務担当理事	山 田 重 義	第二選挙区	
会計担当理事	龍 崎 行 一	第三選挙区	
理事	小 宮 博	第一選挙区	
同	川 崎 昭 久	第一選挙区	
同	山 口 正	第四選挙区	
同	吉 野 幹 男	第四選挙区	
同	川 名 利 夫	第四選挙区	
同	山 田 一 夫	第五選挙区	
同	山 口 純 一	第五選挙区	
同	八 木 善 太 郎	第七選挙区	
同	高 橋 康 人	第八選挙区	
総括監事	白 幡 辰 男	第二選挙区	
監事	高 木 哲 二	第三選挙区	
同	須 藤 八 夫	第四選挙区	

第13代

理事定数 13名
監事定数 3名

任期 平成10年10月11日
平成14年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	木 曾 由 郎	第三選挙区	
副理事長	山 田 重 義	第二選挙区	
理事	岩 崎 隆	第一選挙区	
同	鈴 木 初 夫	第一選挙区	
同	羽 山 榮	第二選挙区	
同	山 口 利 守	第三選挙区	
同	吉 野 幹 男	第四選挙区	
同	川 名 利 夫	第四選挙区	
同	山 田 一 夫	第五選挙区	
同	山 口 純 一	第五選挙区	
同	座 間 忠	第六選挙区	
同	粕 谷 勤	第七選挙区	
同	獅子田 秀 夫	第八選挙区	
総括監事	須 藤 八 夫	第四選挙区	
監事	中 村 保	第三選挙区	
同	鈴 木 隆	第二選挙区	

第14代

理事定数 13名
監事定数 3名

任期 平成14年10月11日
平成18年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	中 村 保 夫	第三選挙区	
副理事長	山 田 一 夫	第五選挙区	

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
担当理事	山 田 重 義	第二選挙区	
担当理事	粕 谷 勤	第七選挙区	
担当理事	吉 野 幹 男	第四選挙区	
理事	羽 山 榮	第二選挙区	
同	山 口 利 守	第三選挙区	
同	岩 崎 隆	第一選挙区	
同	石 井 勲	第四選挙区	
同	鈴 木 幸 雄	第五選挙区	
同	座 間 忠	第七選挙区	
同	鈴 木 初 夫	第一選挙区	
同	池 田 正 義	第八選挙区	
総括監事	須 藤 八 夫	第四選挙区	
監事	鈴 木 隆	第二選挙区	
同	正 木 茂 雄	第三選挙区	

第15代

理事定数 11名

監事定数 3名

任期 平成18年10月11日
平成22年10月10日

役 職 名	氏 名	被選挙区	備 考
理事長	中 村 保	第三選挙区	
副理事長	山 田 一 夫	第五選挙区	
担当理事	粕 谷 勤	第七選挙区	
担当理事	山 田 重 義	第二選挙区	
担当理事	石 井 勲	第四選挙区	
理事	長谷川 正 次	第一選挙区	
同	羽 山 榮	第二選挙区	
同	小 柴 忠 夫	第四選挙区	
同	網 代 哲 夫	第三選挙区	
同	笹 子 英 一	第六選挙区	
同	野 村 愛 二	第八選挙区	
総括監事	鈴 木 幸 雄	第五選挙区	
監事	正 木 茂 雄	第三選挙区	
同	三 平 孝 司	第二選挙区	

6 歴代総代名簿

初代 定数 101名

自 昭和33年 7月25日
至 昭和37年 7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区 館山市 北条八幡	安滝 鈴岩 鈴石 小長谷 田口 木崎 木川 宮川 益金 一太 英利 直 誠助 登巖 清夫 二良 重雄 一吉 登見 雄雄 平藏 次吾 衛兵 広衛 智保 郎二 一男 一之博 雄	第三選挙区	三篠 三矢 吉萩 小八 高山 中小 安鈴 浅飯 森脇 飯飯 本鶴 齊高 安鈴 小高 磯高 須須 平瀬 平野 野原 滝日 形木 口澤 澤西 木沼 田宅 田田 田間 下藤 橋西 木柴 梨貝 梨田 田 治雄 蔵一 治茂 郎強 夫三 夫郎 市吾 司郎 志一 浩吾 夫勉 保保 治夫 馨郎 貢正 雄浩 要 謹房 近恒 作次 益哲 実源 恵与 省昌 総広 順忠 秀文 静豊 次藤	第五選挙区	石渡 小和 安青 石山 山岡 亀松 鈴亀 石川 野小 小遠 佐久 黒小 錦伊 笹岡 伊高 高青
第二選挙区 正木 亀ヶ原 川崎	田口 木崎 木川 宮川 益金 一太 英利 直 誠助 登巖 清夫 二良 重雄 一吉 登見 雄雄 平藏 次吾 衛兵 広衛 智保 郎二 一男 一之博 雄	第四選挙区	石青 鶴磯 多秋 吉石 川 川木 賀辺 田山 田井 壁 繁利 英周 正英 良平 雄一 雄雄 登見 雄平 蔵	第六選挙区	橋辺 柴田 西木 川口 口口 村田 岡木 田井 上宮 柴原 泉藤 間川 林織 丹子 本達 橋橋 木
				第七選挙区	利喜 謙富 義友 隆正 政二 文五 武光 七之 長謹 安政 三英 太秀 亮恒 政機 喜 徳重 静
				第八選挙区	磯好 孝治 弥一 一次 夫郎 二五 雄雄 助治 吾郎 治郎 雄市 郎太郎 治郎 武市 薰晃 郎俊 夫
				第九選挙区	

二代 定数 101名

自 昭和37年 7月25日
至 昭和41年 7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	安滝 鈴岩 鈴角 小長谷 田口 木崎 木田 宮川 益金 一太 英利 直 誠助 登巖 清代 二良 夫		石青 鶴磯 多秋 吉石 川 川木 賀辺 田山 田井 壁 繁利 英周 正英 良平 雄一 雄雄 登見 雄平 蔵	第二選挙区	鈴山 佐加 杉神 伊山 松 木田 藤藤 田崎 藤田 本 省善 兵直 一隆 常太 吾兵衛 次郎 雄郎 晋一

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第二選挙区	鈴木 三平 白幡 生木 鈴生 庄司 大和田 平 三鈴 木谷 笹山 原 八朔 口 小山 形 山澤 口 小高 木 飯田 田 原田 田 山井 井 石宅 宅 森	第四選挙区	飯田 忠秀 飯本 幸文 本齊 文 鶴宮 静 宮石 藤 石高 藤 高安 藤 鈴石 高 高磯 高 齊北 高 鈴小 高 小神 高 和山 高 山山 高 山亀 高	第六選挙区	伊石 寛友 石井 謹 鈴木 春 佐藤 春 荒井 謹 亀井 謹 川田 謹 岡上 謹 小小 謹 小柴 謹 佐原 謹 久間 謹 小泉 謹 黒川 謹 内藤 謹 長谷 謹 錦織 謹 伊丹 謹 結本 謹 岡西 謹 安木 謹 青橋 謹 高橋 謹
第三選挙区		第五選挙区		第七選挙区	
				第八選挙区	
				第九選挙区	

三代 定数 101名

自 昭和41年 7 月25日
至 昭和45年 7 月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	岡田慶治郎 吉野木川田崎口田田藤藤木木田宮川川介田木木木口 青石杉岩山安山佐加鈴鈴角小長石伊池鈴鈴鈴山	第三選挙区	井司司木幡日木木平平名柴藤田本上木原下藤間田 櫻関庄庄鈴白八鈴鈴三三川小伊山松川鈴萩鶴齊本飯	第四選挙区	市太郎 幸八太郎 総一郎 初恵太郎 敏実益勝 静義和 英昭為藤
第二選挙区					

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第五選挙区	石井 鈴木 泰英 磯貝 柴井 治良 小亀 井木 正重 青吉 野口 重 山坂 口夫 山福 本夫	第六選挙区	日和 吉田 善蔵 吉井 井口 一巳 山鈴 木名 二郎 川川 村岡 清雄 岡松 岡丹 五郎 伊谷 丹川 治武 長谷 川角 太郎 錦織 機一郎	第七選挙区	加内 瀬藤 嘉一 座間 間泉 重雄 小久 西本 太亮 佐安 岡本 邦 岡高 橋金 青高 木静 高橋 益夫
				第八選挙区	

四 代 定数 101名

自 昭和45年 7 月25日

至 昭和49年 7 月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名		
第一選挙区	吉野久子 西村益長 土岐政 伊介野田 中山藤川 山佐田川 石角田川 石小宮川 石小崎形 岩鈴崎木 鈴鈴木木 鈴鈴安田 安石田中 田杉司山 庄幡木 羽白田 白鈴木 角鈴木 鈴三平 三松本 川上 八井 石谷 鶴井 桜井 伊藤	第三選挙区	森小柴 森山口 萩原崎 宮崎井 宮石井 石小原 小遠澤 山吉藤 行飯口 飯田井 飯田貝 飯田田 本間下 鶴川藤 相橋井 高井浜 今小木 鈴押足 高梨藤 齊田 須藤川 加平井 石藤西 齊安田 和吉村	第六選挙区	好幸三郎 三正茂 克己中 幸太郎 初実男 恵敏男 実一郎 太郎 秀夫 義章 良新 清博 徳貢 義治 正淳 為治 吉太郎	第七選挙区	鈴木喜一郎 川山口安太郎 山青政清二 青木道一 青木道隆 小坂隆茂 行縄茂次 高木一夫 高山蔵太郎 山福武雄 日吉太郎 内藤雄一 伊丹市 長谷太薫 座間一市 加久太 小佐太 久岡本 岡本市 畠山太 島橋薫 高橋康平 青木平夫
第二選挙区		第四選挙区		第八選挙区			
		第五選挙区					

五代 定数 101名

自 昭和49年7月25日
至 昭和53年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	久雄 誠治一子 木田生崎野藤川田中川川田木木山崎野木村野田柴藤滝木平山名木木口田木井 鈴安佐岩吉佐石杉田石石角鈴鈴秋石上鈴西上吉小伊小上三丸川鈴鈴山増鈴石	第三選挙区	昇雄 義男 繁清 次郎 男 登司 夫 一 市 弘治 中 城 実 誠 夫 吉 夫 治 治 忠 貢 夫 彰 誠 一 市 章 次 俊正 辰 善 恵 初 忠 正 太 勝 直 慶 佐 益 豊 秀 徳 為 公 己 義 正 司野木幡 藤井澤原上上川田田下木 崎山井田形島野田藤川梨梨西田橋藤橋井 庄俣鈴白森加桜小小井井相飯飯鶴鈴林宮秋石原小小吉須齊平高高安和高加高石	第五選挙区	光博 雄雄 夫 郎 実 実 敏 茂 司 夫 夫 夫 一 清 守 夫 一 雄 茂 松 次 正 夫 夫 郎 康 夫 三 良正 卓 三 四 桂 辰 秀 正 清 通 嘉 房 福 勝 英 俊 信 金 三 信 本浜足井木村辺田木菅縄立山井口木口井木瀬橋子縄間浦田西山橋藤名 根小押石鈴松渡真高伊行間鶴吉山青山亀鈴加高笹結佐久三近安畠高齊川
第二選挙区		第四選挙区		第六選挙区	
				第七選挙区	
				第八選挙区	

六代 定数 103名

自 昭和53年7月25日
至 昭和57年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	久雄 誠造子 勲徳子 一子 子雄 木田良京 崎岐介 田崎野藤川 鈴安鈴岩土伊吉岩吉佐石		彦保 喜正 二八 平勇 中田林木山滝辺井田野崎 田杉小鈴秋小渡石角上石	第二選挙区	一雄 郎 一 一 勉 雄 男 義 春 一 良道 吉 俊 清 敏 辰 正 梅 精 木平山木名林山幡木木井 鈴三丸鈴川小羽白鈴鈴石

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第三選挙区	川飯山伊関鈴鈴山秋石相井小中井井原原平飯鶴林鈴	第四選挙区	飯渡高今小鈴押渡小齊須小石平安和野渡高御伊松井伊	第六選挙区	守茂清夫夫宏男一治一茂雄夫治郎治雄郎剛康博三
	健 藤昭栄 利 佐 正忠 ^太 文 貞主勝直慶	第五選挙区	田辺橋井浜木足辺柴藤田高井川西田口邊橋神藤下上菅 丈 善之 良喜正為徳政正 幸三 開三	第七選挙区	井縄口井山木木瀬藤織子藤木田間田田木西橋橋名
				第八選挙区	龜行山吉鶴鈴鈴加内錦笹遠鈴池佐久角梅八安高川

七 代 定数 103名

自 昭和57年 7月25日
至 昭和61年 7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	雄醇造徳一子一男志治男守晃一昇守夫勉郎代吉子一雄 久 良 佐久義武清政保武 喜 秋 二八平勇良道	第三選挙区	越山木島木幡木山口部積田藤辺木平口口辺辺川上澤澤 塚丸鈴田鈴白鈴羽山磯穂山伊渡鈴三山山渡渡相井小中	第四選挙区	勇夫雄勲守一市一弘勇夫章郎博馨雄一要治治敏次忠治 博文 利勝直行 丈 仁 ^太 良喜 為徳政正 建
第二選挙区	鈴木安鈴伊岩吉佐山伊山杉鈴小鈴小渡小石石角上石鈴三		男郎一夫雄男義夫夫美武治三弥正一正進男雄夫司郎淳 藤吉五俊重義辰正由富好 眞昭 延 正秀正忠恵 ^太		吉飯井行山飯鶴龍鈴飯渡高石小鈴押渡秋齊須小石平半

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第五選挙区	安西 富 弥 渡邊 幸雄 加藤 末郎 高橋 三正 子 開 御伊 三 伊松 作 井伊 賢 井 敏 亀 守 石 男	第六選挙区	行 縄 茂 山 口 夫 山 口 郎 鈴 木 宏 鈴 木 男 笹 子 寛 笹 子 市 久 子 一 池 田 茂	第七選挙区	佐久間 正治 庄司 忠男 岡本 茂 粕谷 勤 川名 久 高 博 斉 夫 川 三

八代 定数 100名

自 昭和61年 7 月25日
至 平成 2 年 7 月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	鈴木 鈴 上石 高小 長小 石角 井山 鈴伊 杉磯 鈴木 鈴 鈴山 別羽 山増 川鶴 庄白 鈴木 亀羽 山山 石渡	第三選挙区	吉三 丸三 川渡 島谷 井小 中吉 飯井 小飯 渡飯 三鶴 渡林 茅石 小石 重出 繁齊 須小 石平 半半 伊	第六選挙区	鈴木 鈴 鈴伊 石久 野行 山山 高渡 石山 錦笹 笹遠 遠安 梅粕 川高 杉川
第二選挙区	雄醇 造吉 子一 俊夫 夫博 代正 男男 志男 裕守 喜夫 繁雄 郎勇 雄勲 一男 弘男 義浩 雄正 進郎 彌久 良平 勇利 正静 秋康 八武 初清 保武 文茂 幸孝 達行 一辰 正高 栄	第四選挙区	明雄 郎寿 一雄 一男 義郎 保雄 夫雄 行勇 夫郎 雄市 夫夫 巨郎 豊謀 己馨 道治 良敏 次忠 治忠 男道 吉恒 清秀 憲一 雅恵 太博文 吉丈 文一 直英 光仁 太益 春為 政正 建三	第七選挙区	司讓 宏男 敏男 男茂 夫郎 彦雄 一夫 市一 茂和 通勇 仁勤 久人 昭勇
		第五選挙区		第八選挙区	健嘉 和幸 一俊 豊幸 昭一 治英 政善 康

九 代 定数 70名

定数改正

自平成2年7月25日
至平成6年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	高角石上山川鈴木本小川飯川羽鈴須亀羽山吉三三八吉木	第四選挙区	山中吉飯千飯渡渡三佐久渡高茅石景石出繁齊石平小須安	第五選挙区	川鈴荒鈴川山久吉渡石加錦笹笹関畠柏安高川菅
第二選挙区	木田崎野崎崎木多柴名沼上山木藤田山口野平平日田曾		口村野田葉田辺田浦間邊山野川山井山田藤井川高田西	第六選挙区	名木井木名口田井邊田瀬織子子上山谷西橋橋名沼
第三選挙区	利佐輝平武昭武文敏源利行正高一恒倫		新正博丈伊一信英仁太一郎良謀馨道治次忠敏良彰	第七選挙区	利健豊彰正英幸幸昭治英義輝康常
				第八選挙区	夫司一一二夫男勇雄一昭市一茂一之亨享人夫勇栄

十 代 定数 70名

自平成6年7月25日
至平成10年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	上野崎宮井崎木多木口木沼上司木高井山口本平平日	第三選挙区	秋山千太郎	第五選挙区	山田利弥
第二選挙区	石小石川鈴木本鈴滝鈴飯川庄鈴小石羽山秋三三八	第四選挙区	谷田村野田葉田澤田田間邊山木西井井藤田藤柴		久保田正利
			秋山千太郎		田本西名木井木名口坂井邊田織瀬子間上西谷
			千三義正四丈幸幸信英邦光為彦	第六選挙区	山久押安川鈴荒鈴川山小吉渡石錦加笹座関武安柏
				第七選挙区	田保田正利

選挙区	氏 名	選挙区	氏 名	選挙区	氏 名
第八選挙区	高橋良彰 高橋常夫		鎌田和夫 菅沼好夫		

十一 代 定数 70名

自 平成10年7月25日
至 平成14年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名						
第一選挙区	上野平吉 石崎博 小滝正 小宮雄 鈴宮祐 伊木昇 鈴東夫 多木寛 鈴飯田 森川誠 川上薫 庄司義 鈴藤武 須井次 石山口雄 羽山進 山本男 秋本寿 三平強 三八平 秋日太 粕山谷郎	第四選挙区	岡井田義夫 吉野正由 吉野四 原弘 石渡喜 飯宗 渡重 網哲 渡英 高邊邦 鈴山木 安西井 石井藤 斉田 太輪 齊柴 三塚 小篠作 篠須神	第五選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第六選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第七選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第八選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼
第二選挙区	上野平吉 石崎博 小滝正 小宮雄 鈴宮祐 伊木昇 鈴東夫 多木寛 鈴飯田 森川誠 川上薫 庄司義 鈴藤武 須井次 石山口雄 羽山進 山本男 秋本寿 三平強 三八平 秋日太 粕山谷郎	第四選挙区	岡井田義夫 吉野正由 吉野四 原弘 石渡喜 飯宗 渡重 網哲 渡英 高邊邦 鈴山木 安西井 石井藤 斉田 太輪 齊柴 三塚 小篠作 篠須神	第五選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第六選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第七選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第八選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼
第三選挙区	上野平吉 石崎博 小滝正 小宮雄 鈴宮祐 伊木昇 鈴東夫 多木寛 鈴飯田 森川誠 川上薫 庄司義 鈴藤武 須井次 石山口雄 羽山進 山本男 秋本寿 三平強 三八平 秋日太 粕山谷郎	第四選挙区	岡井田義夫 吉野正由 吉野四 原弘 石渡喜 飯宗 渡重 網哲 渡英 高邊邦 鈴山木 安西井 石井藤 斉田 太輪 齊柴 三塚 小篠作 篠須神	第五選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第六選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第七選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼	第八選挙区	久保田輝夫 田木健一 木井木彰 井口英 木井幸 邊昭 田積 織高 瀬浩 子信 子藤輝 田光 谷正 田愛 村沼

十二 代 定数 70名

自 平成14年7月25日
至 平成18年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区	上野平吉 上野平敏 上野川崎木田寄沼本間木川井山根 石長山鈴木多鈴山神飯松源鈴木黒石羽山	第三選挙区	石井栄一郎 三平恒孝 三八日井田岸上上野上澤邊田田邊山代 石三三石宇山井井吉井深渡飯飯渡高綱	第四選挙区	鈴木景石秋秋齊小須小小安安吉吉伊石渡 木上山井山山藤柴田柴柴西西井野菅田邊 昭郎已寿男要信夫立志郎惇孝勇博雄一雄
第二選挙区				第五選挙区	三正和忠清彦太寛昭幸

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第六選挙区	吉村義美 鈴木喜之司 鈴井健正 石井織 錦瀬 加	第七選挙区	笹子高司 内藤利明 遠藤信吉 柏谷保宏 松田輝夫 梅田	第八選挙区	高橋忠雄 杉田記 川名岩 菅沼好夫

十三代 定数 51名

定数改正

自平成18年7月25日
至平成22年7月24日

選挙区	氏名	選挙区	氏名	選挙区	氏名
第一選挙区 館山市	上野平吉 上野博 角田勲 多田夫 鈴森紀 森田雄 飯田男 小沼雄 鈴林進 三木二 磯平司 羽部寿 萩原淳 吉野雄 八日明 宇田一郎	第四選挙区	山岸一雄 井上稔 井上道 原正文 深澤幸 渡邊光 神作精 高田喜 池田政 飯弘 小教 齊信 小太郎 石淳 小仲 安弘 西男	第五選挙区 南房総市	景山正巳 和邊幸 渡尾形茂 鈴木一 吉井寛 伊菅文 岡村高 角田 加瀬子 遠藤高 松田輝 梅田幹 高橋忠 高野正
第二選挙区				第六選挙区	
				第七選挙区	
				第八選挙区	
第三選挙区					

7 事務局職員一覧

平成19年4月1日現在

職 名	氏 名	採用年月日	退職年月日	備 考
事務局長	山 口 一 成	昭和36年2月4日	昭和57年5月18日	
〃	小 澤 芳 郎	昭和57年5月26日	平成4年3月31日	嘱託
〃	吉 田 保 雄	平成4年4月1日	平成14年3月31日	〃
〃	小 原 清	平成14年4月1日		〃
管理係長	火 焚 常 夫	昭和48年12月1日		
会計係長	庄 司 利 夫	昭和49年6月1日		
電算係長	中 村 友喜生	昭和52年4月1日		
庶務係長	小 倉 久 子	昭和38年6月20日		H17年3月より嘱託
右岸係長	上 野 和 子	平成17年7月1日		嘱託
	磯 辺 正 純	昭和33年10月11日	昭和39年5月14日	
	景 山 つや子	昭和33年10月11日	昭和37年3月31日	
	田 中 豊	昭和36年4月1日	昭和38年7月8日	嘱託
	須 藤 幸 子	昭和37年4月23日	昭和38年4月6日	
	伴 流 美枝子	昭和38年5月13日	昭和38年6月15日	
	岩 崎 佐 一	昭和38年4月15日	昭和60年10月31日	
	根 岸 泰 源	昭和38年8月20日	昭和39年3月31日	
	出 口 三 郎	昭和39年6月1日	昭和62年10月31日	
	生 稲 明	昭和41年4月1日	昭和43年3月31日	嘱託
	本 間 吉 孝	昭和46年3月15日	昭和49年3月27日	
	出 口 房 雄	昭和46年6月1日	昭和46年9月29日	
	磯 辺 博 男	昭和47年11月1日	昭和55年3月31日	
	佐 藤 寿 子	昭和49年4月15日	昭和51年1月17日	
	田 中 みどり	昭和59年7月1日	平成4年3月31日	換地技術職員
事務長	小 柴 清 一	昭和47年4月1日	平成5年3月31日	丸山川右岸工区
〃	川 名 正 二	平成5年4月1日	平成17年3月31日	〃
	小 原 晴 美	昭和47年4月1日	昭和63年3月31日	〃
ダム管理人	渡 辺 茂	昭和49年7月1日	昭和49年9月30日	安房中央ダム
〃	山 崎 悦 男	昭和50年6月7日	昭和52年11月30日	〃
〃	安 田 重 雄	昭和52年12月1日	昭和59年3月1日	〃
〃	玉 川 裕	昭和59年4月1日	昭和61年4月30日	〃
〃	佐久間 康	昭和61年5月1日	平成16年3月31日	〃

第6章

土地改良区 管理施設 一覧表

1 土地改良区管理施設一覧表

2 年表

1. 土地改良区管理施設一覧表

種 類	構造及び規模	竣工年度	数量	施設の所在地	備考
安房中央ダム (2級河川丸山川)	均一性アースダム:堤高 36.00m 堤長110m 総貯水量 2,113,000m ³ 満水面積 20ha 集水面積 1,487ha	S53	1	南房総市川谷211-7(右岸) 212-8(左岸)	余水吐:堰長 50.00m 測水路越流式 取水装置:H=29.50m フローティングタイプ鉄骨 Qmax=1,5401 m ³ /s
平久里川防潮堰 (2級河川平久里川)	鋼製越流型シエルタイプローラーゲート 長 18.00m×高2.5m、2門	S45	1	館山市正木字川田(右岸) 同北条正木字下の原(左岸)	操作室:鉄筋コンクリート 非常用自家発電機
西郷堰 (2級河川平久里川)	鉄筋コンクリート固定堰:全長L=33.80m 転倒ゲート:長5.00m×高1.00m 1門 水中モーターポンプ:Qmax=0.072m ³ /s 口径φ=200mm×37kw 1.0基	S57	1	館山市亀ヶ原字蔵敷 53-4	操作室:建築ブロック積 油圧作動 吸水槽:幅2.00m×長1.50m×高1.70m
湊高井堰 (2級河川滝川)	ゴム引布製起伏堰:全長L=37.80m 長14.75m×高1.70m 2門 水中モーターポンプ:Qmax=0.072m ³ /s 口径φ=200mm×37kw 1.0基	H2	1	館山市高井字西原(右岸) 館山市高井字月除(左岸)	操作室:建築ブロック積 電動空圧ユニット 吸水槽:幅1.60m×長2.50m×高m
国分高井堰 (2級河川滝川)	鉄筋コンクリート固定堰:全長L=16.20m 鉄製水門:長2.00m×高1.50m 6門 電動巻き上げ	S31	1	館山市山本字亀井2,281地先	昭和32年4月設置 昭和52年8月水利権譲渡
小 計	4ヶ所				
大幹線用水路	トンネル:無筋コンクリート巻立 H=1.70m,B=1.50m サイホン:B型ヒューム管 φ=1.100m	S47	4211.9	自:南房総市川谷地先 至:南房総市山名地先	U字型 L= 171.10m トンネル L=2,948.90m サイホン L=1091.90m
第1号幹線用水路	トンネル:無筋コンクリート巻立 H=1.70m,B=1.50m サイホン:ヒューム管,石綿管 φ=700mm~450mm	S49	5892.6	自:南房総市山名地先 至:館山市正木地先	トンネル L=4,688.40m サイホン L=1,204.20m
第2号幹線用水路	トンネル:無筋コンクリート巻立 H=1.70m,B=1.50m サイホン:ヒューム管,FW管 φ=1,100mm~600mm	S53	10541.2	自:南房総市山名地先 至:館山市山本地先	トンネル L=6,235.20m サイホン L=4,306.00m
第3号幹線用水路	トンネル:無筋コンクリート巻立 H=1.70m,B=1.50m サイホン:ヒューム管,石綿管 φ=600mm~400mm	S50	1372	自:館山市竹原地先 至:南房総市中地先	トンネル L=292.00m サイホン L=1,100.00m

第4号幹線用水路	トンネル・無筋コンクリート巻立 H=1.70m, B=1.50m サイホンヒューム管, VU管 φ=500mm~300mm	S51	2916.3	自:館山市竹原地先 至:南房総市加茂地先	トンネルL=952.30m サイホンL=1,964.00m
計	L=24,934m				
平久里川第1揚水機 (2級河川平久里川)	両吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.0946 m³/s 口径φ=250mm×45kw 1.0基 全揚程 28.00m 鉄筋コンクリート平塚:A=36.45m²	S52	1	館山市正木字市台免514-19	吸水水槽 :B=1.50m×L=4.20m×H=6.00m 契約電力番号:06722-20019-71-00 47kw
国分高井揚水機 (2級河川平久里川)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.039 m³/s 口径φ=150mm×22kw 1.0基 建築ブロック積平屋:A=12.96m²	S55	1	館山市山本字亀井2,281	吸水水槽 :B=2.00m×L=2.50m×H=2.20m 契約電力:07919-20004-76-0025kw
平久里川第2揚水機 (2級河川平久里川)	両吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.066 m³/s 口径φ=150mm×22kw 1.0基 全揚程 28.5m	S52	1	館山市正木台免514-19	契約番号:06722-20019-71-00 47kw
西郷堰揚水機 (2級河川平久里川)	水中ポンプ : Qmax=0.039 m³/s 口径φ=200mm×37kw 1.0基	S57	1	館山市亀ヶ原字蔵敷53-4	吸水水槽 :B=2.50m×L=1.80m×H=2.20m 契約番号:01601-20051-79-00 41kw
湊・高井揚水機 (2級河川平久里川)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.039 m³/s 口径φ=150mm×45kw 1.0基	H4	1	館山市高井字月除1,584	吸水水槽 :B=1.60m×L=2.50m×H=5.40m 契約番号:03904-20058-70-00 48kw
小原揚水機 (葛原堰)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.039 m³/s 口径φ=125mm×15kw 1.0基 加圧	S56	1	館山市小原字桜田1,308	吸水水槽 :B=2.40m×L=4.00m×H=4.00m 契約番号:02703-20001-73-00 18kw
葛原堰揚水機 (葛原堰)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.0266 m³/s 口径φ=150mm×18.5kw 1.0基 全揚程34.5m	S61	1	館山市正木字葛原	葛原堰 契約番号:06803-20053-74-00 22kw
中入揚水機 (山本堰)	水中ポンプ : Qmax=0.039 m³/s 口径φ=50mm×2.25kw 1.0基	S58	1	館山市山本字	吸水水槽 :B=1.50m×L=1.30m×H=2.70m 契約番号:07907-20066-74-00 3kw
上野原揚水機 (第1号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.028 m³/s 口径φ=100mm×7.5kw 1.0基 全揚程15.50m	S61	1	館山市国分字五反田526	排水路落差水槽 契約番号:02304-20030-74-00 9kw
広瀬・腰越揚水機 (第1号幹線排水路)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.0266 m³/s 口径φ=150mm×18kw 1.0基 全揚程21.2m	S55	1	館山市広瀬字伊田原1,628-2	吸水水槽 :B=2.00m×L=1.80m×H=2.20m 契約番号:06101-20061-72-00 14kw
稲第1揚水機 (第1号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.0416 m³/s 口径φ=150mm×22kw 1.0基 全揚程28.5m	S58	1	館山市稲字一町田279-2	吸水水槽 :B=2.00m×L=1.80m×H=2.20m 契約番号:00604-20024-77-00 25kw

稲第2場水機 (第1号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.007 m³/s 口径Φ=80mm×3.7kw 1.0基 全揚程17.6m	S53	1	館山市稲字鳥打780-3	吸水槽 : B=2.00m×L=2.00m×H=2.00m 契約番号:00609-20019-73-00 5kw
竹原場水機 (第1号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.0416m³/s 口径Φ=150mm×18.5kw 1.0基 全揚程24.5m	S59	1	館山市竹原字田辺1,081	吸水槽 : B=2.00m×L=1.80m×H=1.90m 契約番号:04310-20066-75-00 21kw
藺場水機 (第1号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.0502m³/s 口径Φ=150mm×11kw 1.0基 全揚程15m	S62	1	館山市藺字二又1,081	吸水槽 : B=1.60m×L=1.60m×H=1.90m 契約番号:03701-20063-70-00 13kw
大井第1場水機 (排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.0416m³/s 口径Φ=150mm×18.5kw 1.0基 全揚程24.5m	S56	1	館山市大井字竹之下1,8242	吸水槽 : B=2.00m×L=2.00m×H=2.40m 契約番号:01101-20054-74-00 21kw
大井第2場水機 (排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.0067m³/s 口径Φ=80mm×3.7kw 1.0基 全揚程17.6m	S59	1	館山市大井字大溝1,735	吸水槽 : 井戸杓 Φ=900mm 契約番号:01101-20058-72-00 5kw
二子場水機 (第4号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.028m³/s 口径Φ=100mm×11kw 1.0基 全揚程16.0m	H3	1	館山市二子字新関664	吸水槽 : B=1.30m×L=0.80m×H1.40m 契約番号:03701-20075-76-00 13kw
安馬谷場水機 (2級河川丸山川)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.0266m³/s 口径Φ=150mm×18.5kw 1.0基 全揚程34.5m	S58	1	南房総市安馬谷字加茂原	吸水槽 : 井戸杓 Φ=1,200mm 契約番号:70006-20055-73-00 22kw
芳賀堰場水機 (芳賀堰)	片吸込渦巻ポンプ : Qmax=0.0656m³/s 口径Φ=150mm×15kw 1.0基 全揚程1.35m	S58	1	南房総市安馬谷字芳賀	吸水槽 : B=1.00m×L=1.10m×H=3.60m 契約番号:70006-20056-72-00 18kw
安東場水機 (第4号幹線排水路)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基 全揚程24.5m	H13	1	館山市安東字	吸水槽 : B=1.30m×L=0.80m×H=1.40m 契約番号:70006-20056-72-00 18kw
池之内場水機 (山名川)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基 全揚程24.5m		1	南房総市池之内	管理主体:池之内土地改良組合 許可水利権反復水 契約番号:75102-20055-7-00 9kw
千代三坂場水機 (平久里川)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基		1	南房総市千代	管理主体:千代三坂水利組合、許可水利権 契約番号:76002-20004-7-00 9kw
三島白子場水機	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基		1	南房総市白子地先	管理主体:白子三島土地改良組合 許可水利権 契約番号:71204-20052-7-00 9kw

丸上揚水機 (丸山川)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基	1	南房総市丸本郷地先	管理主体:丸本郷上久保用水組合 契約番号:70903-20033-7-00 5kw
山詰叶目揚水機 (丸山川)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基	1	南房総市加茂地先	管理主体:山詰要水利組合、許可水利権 契約番号:70605-20070-7-00 9kw
山本揚水機 (大正堰)	水中ポンプ : Qmax=0.030m³/s 口径Φ=50mm×15kw 1.0基 全揚程217.0m	1	館山市山本地先	管理主体:山本滝川用水組合 契約番号:07922-20048-7-00 5kw
関谷揚水機 (山本堰)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基	1	館山市山本地先	管理主体:並松水利組合 契約番号:07907-20026-7-00 9kw
川名岡揚水機 (川名堰)	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基	1	館山市小原地先	管理主体:川名岡水利組合 契約番号:02704-20001-7-00 9kw
川名岡古那古下 揚水機	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基	1	館山市川名地先	管理主体:川名岡古那古下水利組合 契約番号:02002-20055-7-00 3kw
吹代揚水機	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基	1	南房総市沓見地先	管理主体:吹代耕地組合 揚水機場1/2、加圧ポンプ場1/3電気料改良区負担 契約番号:70709-20042-7-00 33kw
江田揚水機	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基 契約番号:00901-20070-7-01 17kw	1	館山市江田地先	管理主体:江田水利組合 3電気料改良区負担 小規模土地改良事業
腰越揚水機	水中ポンプ : Qmax=0.039m³/s 口径Φ=100mm×15kw 1.0基 契約番号:04801-06087-3-00 17kw	1	館山市腰越地先	管理主体:広瀬腰越水利組合 電気料改良区負担 単独事業
計	32ヶ所			
横山堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=6.0m,堤長L=40.0m 貯水量 V=50,000m³ 受益面積 A=52ha	1	館山市正木地先	管理主体:正木第一耕地整理組合
御狩堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=3.0m,堤長L=30.0m 貯水量 V=6,000m³ 受益面積 A=52ha	1	館山市正木地先	管理主体:正木第一耕地整理組合
葛原堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=5.0m,堤長L=70.0m 貯水量 V=85,000m³ 受益面積 A=52ha	1	館山市正木地先	管理主体:正木第一耕地整理組合
稲原堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=13.0m,堤長L=30.0m 貯水量 V=6,000m³ 受益面積 A=13.6ha	1	館山市正木地先	管理主体:稲原水利組合
山本堰(田代堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=6.0m,堤長L=198.6m 貯水量 V=76,500m³ 受益面積 A=33.6ha	1	館山市山本地先	管理主体:山本地区

大正堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=10.0m, 堤長L=36.0m 貯水量 V=200,000m ³ 受益面積 A=120ha	昭和元年	1	館山市山本地先	管理主体:北条館野耕地整理組合
上澄井(江田堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=2.0m, 堤長L=170.0m 貯水量 V=15,360m ³ 受益面積 A=33.6ha	明治以前	1	館山市江田地先	管理主体:江田区
菰堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=3.5m, 堤長L=150.0m 貯水量 V=30,400m ³ 受益面積 A=36.0ha	明治以前	1	館山市菰地先	管理主体:園水利組合
真岡堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=12.0m, 堤長L=110.0m 貯水量 V=7,000m ³ 受益面積 A=12.0ha	明治以前	1	館山市竹原地先	管理主体:田辺組
水玉堰 (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=5.0m, 堤長L=45.0m 貯水量 V=4,500m ³ 受益面積 A=6.0ha	明治以前	1	館山市水玉地先	管理主体:水玉区
柳作溜池(新堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=12.0m, 堤長L=40.0m 貯水量 V=50,000m ³ 受益面積 A=40ha	明治以前	1	館山市竹原地先	管理主体:竹原区
北谷堰(稲村堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=12.0m, 堤長L=81.0m 貯水量 V=31,930m ³ 受益面積 A=35.8ha	明治以前	1	館山市稲地先	管理主体:稲区
北鴻ヶ巣堰(安東堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=5.0m, 堤長L=80.0m 貯水量 V=12,000m ³ 受益面積 A=23.6ha	明治以前	1	館山市安東地先	管理主体:安東区
中堰(中村堰) (山名川水系)	土堰堤 堤高H=60.0m, 堤長L=75.0m 貯水量 V=37,000m ³ 受益面積 A=50.0ha	昭和3年	1	南房総市中地先	管理主体:中溜池組合
三坂第一堰(庄部堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=6.0m, 堤長L=42.0m 貯水量 V=10,000m ³ 受益面積 A=12.0ha	不明	1	南房総市三坂地先	管理主体:三坂区
三坂第二堰 (神出ヶ谷堰) (平久里川水系)	土堰堤 堤高H=10.0m, 堤長L=14.0m 貯水量 V=12,000m ³ 受益面積 A=20.0ha	不明	1	南房総市三坂地先	管理主体:三坂区
矢田堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=8.0m, 堤長L=60.0m 貯水量 V=79,000m ³ 受益面積 A=43.0ha	明治以前	1	南房総市川谷地先	管理主体:川谷丸本郷水利組合
千保堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=3.0m, 堤長L=20.0m 貯水量 V=5,500m ³ 受益面積 A=6.0ha	明治以前	1	南房総市丸本郷地先	管理主体:丸本郷水利組合
安長谷堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=2.5m, 堤長L=20.0m 貯水量 V=2,500m ³ 受益面積 A=5.0ha	大正時代	1	南房総市沓見地先	管理主体:沓見水利組合

遠藤堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=3.0m, 堤長L=40.0m 貯水量 V=9,500 m ³ 受益面積 A=18.0ha	明治以前	1	南房総市沓見地先	管理主体:沓見水利組合
正木谷堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=3.5m, 堤長L=25.0m 貯水量 V=6,000 m ³ 受益面積 A=10.0ha	明治以前	1	南房総市沓見地先	管理主体:沓見水利組合
吹代堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=3.7m, 堤長L=155.0m 貯水量 V=78,000 m ³ 受益面積 A=45.0ha	明治以前	1	南房総市沓見地先	管理主体:吹代水利組合
芳賀堰 (丸山川水系)	土堰堤 堤高H=3.0m, 堤長L=158.0m 貯水量 V=15,000 m ³ 受益面積 A=24.0ha	明治以前	1	南房総市安馬谷地先	管理主体:安馬谷土地改良区
二子堰 (滝川水系)	土堰堤 堤高H=3.0m, 堤長L=158.0m 貯水量 V=15,000 m ³ 受益面積 A=24.0ha	明治以前	1	館山市二子地先	管理主体:二子水利組合
計	32ヶ所				

管 理 施 設 集 計 表				
施設種類	数 量	単 位	備 考	
安房中央ダム	1	ヶ所	有効貯水量 Q=2,096,000 m ³	
幹線用水路	4	路線	延長 L=24,634m	
頭首工	4	ヶ所		
揚水機場	32	ヶ所		
ため池	32	ヶ所		
合 計	73	施設		

2. 安房中央土地改良区 年 表

年 月 日	主 な 出 来 事	備 考
昭和26年 8 月22日	安房耕地出張所小沢技師並市係員用水源を踏査す (館山用水改良事業計画)	対日平和条約 知事 柴田 等
昭和28年 5 月25日	参議院議員宮本農林委員県耕地課長外技師八束水源を踏査	NHKテレビ放送開始
昭和28年 5 月26日	豊房水源を踏査・丸山川流域を踏査す (安房中央用水改良事業計画さる)	
昭和28年 6 月15日	郡耕地協会主催のもとに市農協六軒町事務所階上に於いて 一市九ヶ村の村長、農業委員会長、農協長、勧業主任会議開催す 県耕地課長、成野企画係長、丸山ダム建設計画について 説明同意を求む	
昭和28年 6 月16日	農地事務局、山崎地質学博士、県耕地課員一行犬切地先を踏査す	
昭和28年 7 月11日	調査測量班、丸山川現地に宿泊調査開始	
昭和28年 7 月14日	第1回安房中央用水改良事業促進委員会開催	
昭和28年 7 月20日	受益地区内水田減水深調査開始	
昭和28年 8 月15日	促進委員一行君津郡三嶋ダム現地を視察する 同日午後4時第2回安房中央用水改良事業促進委員会開催 同日東京農地事務局大庭部長、県戸川農地部長、 県耕地課長一行丸山ダム現地踏査す	土地改良法改正
昭和28年11月21日	午前10時第3回安房中央用水改良事業促進委員会開催	
昭和28年12月 2 日	午後2時第4回安房中央用水改良事業促進委員会開催	
昭和28年12月11日	農林省建設部、企画部、農地事務局、水田代議士に対し 正副会長陳情す同日勧業主任会議開催(予備審査事務の説明)	
昭和28年12月22日	農林省堀田博士、農地事務局山崎博士、現地土質調査す	
昭和28年度	安房中央用水改良事業の計画……受益面積1,144ha 事業費417,000千円	
昭和29年 2 月16日	集落毎に説明会開始す	
昭和29年 5 月14日	大庭部長、山崎博士、現地調査す	
昭和29年 7 月30日	堀田博士、現地岩質を調査す	
昭和29年11月12日	農林省係官現地を調査す	
昭和29年12月21日	農林省係官現地を調査す	
昭和30年 1 月25日	農地事務局大庭部長、農林省、堀田博士、現地踏査す	
昭和30年 2 月16日	第5回安房中央用水改良事業促進委員会開催	
昭和30年 3 月10日	第6回安房中央用水改良事業促進委員会開催	
昭和30年 4 月 5 日	農地事務局係官来市7日まで安房中央用水改良事業計画 について調査	
昭和30年 4 月18日	農林省に陳情(耕地課長、会長、市長)	
昭和30年 6 月13日	農林省企画部に対し陳情す(課長、市長)	
昭和30年 6 月18日	農水省企画部に対し陳情す(課長、市長)	
昭和30年 6 月21日	農林省農地事務局に対し陳情(高橋県議、正副会長、市長、所長)	
昭和30年 7 月 2 日	第7回安房中央用水改良事業促進委員会開催	
昭和31年度	安房中央用水改良事業の採択	国連加盟決定
昭和32年 2 月20日	第1回申請人会議	南房総国定公園誕生
昭和33年 3 月11日	安房中央用水改良事業の申請	
昭和33年 3 月11日	安房中央土地改良区設立認可申請	地すべり等防止法公布

年 月 日	主 な 出 来 事	備 考
昭和33年 4 月25日	安房中央土地改良区設立適否通知……土地改良法8条関係	
昭和33年 4 月30日	安房中央土地改良区設立審査公告	
昭和33年 5 月30日	安房中央土地改良区設立認可、初代理事長 山口 品次	
昭和33年 7 月12日	土地改良事業計画書提出	
昭和33年 9 月29日	第1回総代会開催 総代定数101名	
昭和33年12月12日	本審査公告	
昭和33年度	県道が行政協定道路に指定……県道約1400mが行政道路指定	
昭和34～35年度	県道関係調査のため休止	
昭和36年 1 月21日	ダム建設に伴う協定書調印……犬切・御子神・鯨岡集落と県、丸山町・安房中央土地改良区	土地改良事業を 農業基盤整備事業 に改称
昭和36年 2 月 7 日	溜池工 仮排水路着工……安房中央ダム 事実上の着工	農業基本法制定
昭和37年11月 3 日	溜池工 県道付替着工	知事 加納 九朗
昭和37年12月16日	溜池工 仮締切着工	
昭和39年 4 月 1 日	農業構造改善事業山本安布里地区着手	知事 友納 武人
昭和39年 9 月30日	溜池工築堤着工……均一性 盛土192,413㎡	東京オリンピック
昭和48年 4 月 1 日	農業構造改善事業三坂千代地区着手	
昭和41年10月11日	2代理事長 山崎 勝平	
昭和42年10月21日	溜池工 余水吐着工…側水路式Q=308.66㎡/S越流堰長50.5m	
昭和42年 4 月 1 日	県営平久里川用水障害事業平久里川地区着手	
昭和43年 3 月30日	溜池工 築堤しゅん功	
昭和43年10月22日	水利権申請……河川法23、24、26条 最大取水量代掻期1.190㎡/S普通期1.519㎡/S	
昭和44年11月 5 日	用水路工着工……大幹第1号隧道	1970年 日本万国博覧会
昭和46年 3 月	農業構造改善事業山本安布里地区しゅん工	
昭和47年 3 月31日	県営平久里川用水障害事業平久里川地区しゅん工	
昭和47年 4 月 1 日	県営ほ場整備事業丸山川右岸地区着手	
昭和47年 4 月 1 日	県営ほ場整備事業安房中央東部地区着手	
昭和47年 8 月15日	水利権認可	沖縄諸島日本へ復帰
昭和47年12月26日	ダム満水……有効貯水量 2,096,000㎡	
昭和48年 3 月 5 日	3代理事長 高木 哲三	
昭和48年 3 月31日	大幹線用水路完了	若潮国体開催
昭和48年 5 月 1 日	計画変更申請……受益面積 1,088.6ha 事業費 3,000,000千円	
昭和49年 3 月28日	計画変更承認	
昭和49年 4 月 1 日	県営ほ場整備事業安房中央西部地区着手	館山土地改良事務所 合同庁舎に移転
昭和50年 2 月24日	予定管理者協議	県人口400万人に達する
昭和50年 3 月19日	変更事業計画概要書の公告	
昭和50年 9 月20日	同意書のとりまとめ	知事 川上 紀一
昭和51年 3 月	農業構造改善事業三坂千代地区しゅん工	
昭和51年 3 月31日	第3号幹線用水路完了	
昭和52年 3 月30日	専門技術者の調査報告	
昭和52年 3 月31日	第4号幹線用水路完了	
昭和52年10月29日	公告(県報)縦覧(関係書類)	
昭和52年11月18日	利害関係人の異議の申立(受付)	
昭和52年12月 3 日	異議の処理決定	

年 月 日	主 な 出 来 事	備 考
昭和53年2月1日	変更事業計画の確定	
昭和53年2月1日	事業計画変更手続の完了報告 (50) 耕二第54号 昭和52年12月21日付	日中平和条約締結
昭和54年4月1日	農業用河川工作物応急対策事業西郷堰着手	
昭和54年3月31日	大幹線、第1号、第2号幹線用水路工事完了	東京サミット開催
昭和54年3月31日	安房中央用水改良事業しゅん功	
昭和56年4月		知事 沼田 武
昭和57年3月31日	県営ほ場整備事業丸山川右岸地区しゅん工	
昭和57年3月31日	農業用河川工作物応急対策事業西郷堰しゅん工	S58.9 県人口 500万人に達する
昭和59年3月29日	全国土地改良事業団体連合会銅賞受賞	
昭和60年3月31日	県営ほ場整備事業安房中央東部地区しゅん工	NTT民営化
昭和62年4月1日	県営施設整備事業安房中央地区着手(第1号幹線) S57完成	
昭和62年12月12日	4代理事長 木曾 由郎	
昭和63年3月31日	県営ほ場整備事業安房中央西部地区しゅん工	
平成2年4月1日	総代定数70名に改正	
平成3年3月27日	全国土地改良事業団体連合会銀賞受賞	H7.4
平成11年3月29日	全国土地改良事業団体連合会金賞受賞	安房広域農道着手
平成11年3月31日	土地改良区新庁舎落成	
平成11年4月1日	賦課事務電算化導入	
平成13年4月		知事 堂本 暁子
平成14年10月11日	5代理事長 中村 保	県人口600万人に達する
平成15年4月1日	土地改良区愛称“水土里ネット安房中央”制定	
平成15年7月7日	土と水ふるさと子ども絵画展団体参加	
平成16年3月25日	2号幹線用水路第7号トンネル補強工事実施	
平成16年4月1日	県営かんがい排水事業安房中央地区着手(更新事業)	安房農林振興センター 発足
平成16年4月2日	新農業水利システム保全対策事業 安房中央西部地区着手(防潮堰)	
平成16年4月3日	県営ため池等整備事業葛原地区着手	
平成17年2月25日	丸山湖さくらの会発足(植樹祭)	
平成17年3月31日	丸山川右岸工区事務所閉鎖	
平成17年4月1日	県営ため池等整備事業葛原地区着手	
平成17年4月1日	会計事務電算化導入	
平成17年4月1日	水土里ネット安房中央ホームページ開設	
平成18年3月20日		広域合併 南房総市誕生
平成18年4月1日	総代定数51名、理事11名に改定	
平成18年4月1日	水土里ネット安房中央広報誌初刊発刊	
平成18年12月5日	県営ほ場整備事業丸山川右岸地区 及び県営かんがい排水事業吹代地区借入金完済	
平成19年3月18日	第50回通常総代会開催	
平成19年4月1日	滞納整理委員会発足	
平成19年4月1日	農地水環境保全向上対策事業始まる (館山市江田、山本地区、南房総市丸山川右岸、池中地区)	館山道全線開通
平成19年12月5日	県営ほ場整備事業安房中央東部地区借入金完済	
平成20年3月19日	改良区設立50周年記念誌発刊	

50周年記念誌編集委員会

役 職	氏 名	役 職	氏 名
記念誌編集委員長	鈴 木 隆	理 事	小 柴 忠 夫
理 事 長	中 村 保	理 事	網 代 哲 夫
副理事長	山 田 一 夫	理 事	笹 子 英 一
担当理事	山 田 重 義	理 事	野 村 愛 二
担当理事	粕 谷 勤	総括監事	鈴 木 幸 雄
担当理事	石 井 勲	監 事	正 木 茂 雄
理 事	長谷川 正 次	監 事	三 平 孝 司
理 事	羽 山 榮	事務局長	小 原 清



安房中央土地改良区50周年史の発刊にあたり、県知事さん始め、各先生方には公私共に大変なご多用の中にもかかわらず、励ましとねぎらい、そして懇切なご指導、温かいご鞭撻のお言葉を頂けたことに深い感謝の念を心に刻むものです。

お陰様にてようやく形あるものとなり一同ホッとしているところでございます。これにより、安房中央土地改良区が多難だった

道程の記憶と先達の努力の跡を風化させることなく、将来の世代へ伝え得る一助とならんとする願いのものが形となることができました。

何分にも不慣れな私共のこと、一時はどうなることかと言いやうのない不安もありましたが、快くご助力ご支援頂いた諸兄に支えられて、ようやくゴールまでたどり着くことができました。

本来なら、この紙面で、お世話になった多数の方々お一人お一人へ向けて謝意を表すべきところですが、十分な礼を尽くすにはとてもこの紙数で事足りるものではありません。心ならずも割愛させていただきます。いずれ機会を得て心よりの謝意を表することが出来ればと考えております。

また、出来上がるまでの集賛舎さんによる絶大なるご協力にも、末筆ながら厚く御礼申し上げます。

平成20年3月19日

安房中央土地改良区50周年記念誌
編集委員長 鈴 木 隆



豊かな自然環境を保全する。

みどり
水土里ネット安房中央

安房中央土地改良区 設立50周年記念誌

平成20年3月

発行

安房中央土地改良区
〒294-0045 千葉県館山市北条1193
TEL.0470-22-1757

編集

50周年記念誌編集委員会

印刷所

株式会社 集賛舎
〒294-0014 千葉県館山市山本226



豊かな自然環境を保全する。

みどり 水土里ネット安房中央

